

青年學校令施行規則實施細則

學校職員旅費支給ニ關スル規定ヲ準用ス

第五章 職務並服務

第二十四條 左ノ事項ハ學校長之ヲ專行ス

- 一、學校長三日以内ノ縣内出張及職員ノ三日以内ノ出張ニ關スル事項
- 二、職員ノ私事旅行ニ關スル事項
- 三、女教員ノ産前産後ノ休養ニ關スル事項
- 四、職員ノ忌引及除服出仕ニ關スル事項

第二十五條 學校長ハ職員中左ノ各號ノ一ニ該當スル者

- 一、職務ニ關シ特別ノ考案研究ヲ爲シタル者
- 二、職務ニ關シ發見發明ヲ爲シタル者
- 三、特ニ善行アリタル者
- 四、職務上ノ義務ニ違背シタル者
- 五、職務ヲ怠リタル者
- 六、職務ノ内外ヲ問ハズ體面ヲ汚辱スルノ行爲アリタル者

第二十六條 學校長ハ學務ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

- 一、職務ニ關シ特別ノ考案研究ヲ爲シタル者
- 二、職務ニ關シ發見發明ヲ爲シタル者
- 三、特ニ善行アリタル者
- 四、職務上ノ義務ニ違背シタル者
- 五、職務ヲ怠リタル者
- 六、職務ノ内外ヲ問ハズ體面ヲ汚辱スルノ行爲アリタル者

第二十七條 學校長事故アルトキハ上席職員其ノ職務ヲ代理ス

第二十八條 學校長及職員ハ常ニ校内取締ノ責ニ任ズベシ

第二十九條 公立青年學校專任校長及專任職員出向又ハ新任轉任復職ノ辭令書ヲ受領シタルトキハ速ニ出向又ハ赴任シ第四號様式ニ依ル着任届ヲ知事ニ届出ヅベシ

第三十條 學校長ハ新ニ任用セラレタル專任職員ノ履歷書ヲ當該職員ノ着任後七日以内ニ知事ニ進達スベシ

第三十一條 青年學校專任職員ニシテ他ノ學校ヲ兼務スル場合ノ擔任時數ハ一週八時間ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十二條 公立青年學校長死亡シタルトキハ上席職員ヨリ、職員死亡シタルトキハ學校長ヨリ其ノ旨管理者ニ通知スベシ

第三十三條 公立青年學校長及職員ニシテ服忌スル場合ハ學校長ニ在リテハ知事ニ、職員ニ在リテハ學校長ニ届出ヅベシ

爲シ又所屬職員ニ對シ四日以上ノ縣内及縣外出張ヲ爲サシメントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ實施七日以前ニ知事ニ其ノ認可ヲ申請スベシ

一、出張者ノ職氏名
二、出張ノ目的及其ノ日程
三、旅費ノ金額及其ノ用途
四、外國出張ノ場合ニ在リテハ前項各號ノ事項ノ外本人ノ履歷書ニ通テ添ヘ管理者ヲ經テ實施二箇月以前ニ知事ニ其ノ認可ヲ申請スベシ

第三十八條 公立青年學校長及職員歸省、轉地療養、墓參等ノ爲私事旅行ヲ爲サントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ實施七日以前ニ學校長ニ在リテハ知事ニ、職員ニ在リテハ學校長ニ届出ヅベシ

第三十九條 學校長ハ生徒ノ褒賞ヲ行フコトヲ得

第四十條 公立學校職員制ニ依ル職員ニアラザル青年學校ノ職員ノ職務及服務ニ關シテハ公立學校職員ノ職務及服務ニ關スル規定ヲ準用ス

第六節 學務委員

第四十一條 市町村、市町村學校組合、町村學校組合並

第三十七條 學校長縣外出張又ハ四日以上ノ縣内出張ヲ

公立青年學校長及職員ニシテ已ムナク當該學校所在ノ市町村、市町村學校組合、町村學校組合ノ地域外ニ居住セントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ

學校長ニ在リテハ知事ニ、職員ニ在リテハ學校長ニ其ノ認可ヲ申請スベシ

第三十六條 公立青年學校長及職員ニシテ已ムナク當該學校所在ノ市町村、市町村學校組合、町村學校組合ノ地域外ニ居住セントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ

學校長ニ在リテハ知事ニ、職員ニ在リテハ學校長ニ其ノ認可ヲ申請スベシ

第三十七條 學校長縣外出張又ハ四日以上ノ縣内出張ヲ

第三十八條 公立青年學校長及職員歸省、轉地療養、墓參等ノ爲私事旅行ヲ爲サントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ

實施七日以前ニ學校長ニ在リテハ知事ニ、職員ニ在リテハ學校長ニ届出ヅベシ

第三十九條 學校長ハ生徒ノ褒賞ヲ行フコトヲ得

第四十條 公立學校職員制ニ依ル職員ニアラザル青年學校ノ職員ノ職務及服務ニ關シテハ公立學校職員ノ職務及服務ニ關スル規定ヲ準用ス

第六節 學務委員

第四十一條 市町村、市町村學校組合、町村學校組合並

爲シ又所屬職員ニ對シ四日以上ノ縣内及縣外出張ヲ爲サシメントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ實施七日以前ニ知事ニ其ノ認可ヲ申請スベシ

一、出張者ノ職氏名
二、出張ノ目的及其ノ日程
三、旅費ノ金額及其ノ用途
四、外國出張ノ場合ニ在リテハ前項各號ノ事項ノ外本人ノ履歷書ニ通テ添ヘ管理者ヲ經テ實施二箇月以前ニ知事ニ其ノ認可ヲ申請スベシ

第三十八條 公立青年學校長及職員歸省、轉地療養、墓參等ノ爲私事旅行ヲ爲サントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ

實施七日以前ニ學校長ニ在リテハ知事ニ、職員ニ在リテハ學校長ニ届出ヅベシ

第三十九條 學校長ハ生徒ノ褒賞ヲ行フコトヲ得

第四十條 公立學校職員制ニ依ル職員ニアラザル青年學校ノ職員ノ職務及服務ニ關シテハ公立學校職員ノ職務及服務ニ關スル規定ヲ準用ス

第六節 學務委員

青年學校令施行規則實施細則

一七二

ニ學區ノ學務委員八十人以下トス

第七章 報 告

第四十二條 管理者又ハ設立者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度遲滞ナク知事ニ之ヲ報告スベシ

一、開校シタルトキ

二、校舍竣工シタルトキ

三、非常災害ノ爲校舍損壞シタルトキ

四、學校長其ノ他ノ職員死亡シタルトキ

五、毎年四月三十日現在義務就學者ノ調査ヲ了リタルトキ(第五號様式)

第四十三條 學校長ハ別ニ定ムル様式ニ依リ毎年五月二十日迄ニ青年學校一覽表ヲ知事ニ提出スベシ

第四十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度遲滞ナク知事ニ之ヲ報告スベシ

一、校務ニ關スル規定ヲ設ケタルトキ

二、毎年度末職員ノ勤務ヲ調査シタルトキ(第六號様式)

三、毎學年間生徒ノ出缺席ノ調査ヲ了リタルトキ(第七號様式)

第四十五條 市ノ區域ニアル公立青年學校ニ關シ知事ノ權限ニ屬スル左ノ事項ハ市長之ヲ行フベシ

一、學校長其ノ他職員ノ赴任届ニ關スル事項

二、學校長ノ忌引除服出仕ニ關スル事項

三、學校長ノ縣外出張又ハ四日以上ノ縣内出張、職員ノ四日以上ノ縣内及縣外出張、學校長私事旅行ニ關スル事項

四、生徒修學旅行ニ關スル事項

第四十六條 職員ヨリ知事ニ提出スル文書ハ學校長ヲ經由スベシ

附 則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十年五月一日縣令第二十七號青年學校規程實施細則ハ之ヲ廢止ス

由スベシ
公立青年學校長ヨリ知事ニ提出シ若ハ進達スル文書ハ市ニ在リテハ市長ヲ經由スベシ
第四十七條 私立青年學校長又ハ其ノ設置者ヨリ知事ニ提出スル文書ニシテ學校ノ設置廢止名稱又ハ學則ノ變更及授業料ノ徵收ニ關スルモノハ學校所在地ノ市町村

長ヲ經由スベシ
附 則
本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十年五月一日縣令第二十七號青年學校規程實施細則ハ之ヲ廢止ス

第一號様式 通 知

年 月 日

何 青年 學校 校長 殿

青年 學校 義務 就學 者 調

首標ノ件青年學校令施行規則第二十九條並ニ同實施細則第十二條ニ依リ左記及通知候

記

第五篇 青年 學校

一七三

市町村長 氏 名 團

青年學校令施行規則實施細則

岡山縣知事 氏 名 殿

着 任 屆 (新任ノ場合)

今般何郡(市)何町(村)何 青年學校長(教諭助教諭)ヲ拜命致候ニ付テハ左記ノ通着任致候條青年學校令施行規則實施細則第二十九條ニ依リ及御屆候也

辭令書日附	辭令書受領年月日	着任年月日
-------	----------	-------

岡山縣知事 氏 名 殿

何 青年學校職 氏 名 殿

第五號様式

岡山縣知事 氏 名 殿

何郡(市)何町(村)長 氏 名 殿

青年學校義務就學者調査ノ件

首標ノ件青年學校令施行規則實施細則第四十二條第一項第五號ニ依リ左記ノ通及報告候也 (年四月三十日調)

種別	卒業者	現在就學者	不就學者	計	就學歩合	本學年始メテ就學義務ノ生シタルモノ		前學年以前就學義務ノ生シタルモノ	
						普通科第一學年ニ入學シタルモノ	中途學年ニ入學シタルモノ	計	合 計

第六號様式

岡山縣知事 氏 名 殿

何々青年學校長 氏 名 殿

左表ノ通及報告候也

昭和 年度職員勤務調ノ件

職名	氏 名	出勤出張計	遅刻早引	病氣公事私事計	忌引休養休業日計	通計	出勤歩合

第五篇 青年學校

青年學校令ニ關スル件

第七號様式

年 月 報

岡山縣知事 氏

昭和

名 日 告
年度生徒出席調査ノ件

何々青年學校長 氏

氏

名 圖

一七八

左表ノ通及報告候也

科	學年	項	別	教授及訓練在學生徒		出席		在籍ニ對スル		缺席		備	考	
				總時數	平均時數	總時數	平均時數	總時數	平均時數					
										女	男			女
合計	第 一 學 年	第 二 學 年	第 三 學 年	第 四 學 年	第 五 學 年	第 六 學 年	第 七 學 年	第 八 學 年	第 九 學 年	第 十 學 年	第 十 一 學 年	第 十 二 學 年		
合計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計		

○青年學校ニ關スル件

教第八四八號學務部長依命例規通牒

(昭和一四、八、一)

(昭和一〇、五、一教第五七五號依命例規通牒ハ廢止)
市町村長 青年學校長(市内公立ヲ除ク)宛

一、學校ノ名稱ニ關スル事項

(一) 青年學校令ニ依ル學校ハ必ズ「青年學校」ノ文字ヲ附スルコト

(二) 公立青年學校ニ在リテハ其ノ設置者名ヲ私立青年學校ニ在リテハ「私立」ノ文字ヲ冠スルコト

(三) 學校ノ名稱中「株式會社」等ノ文字ヲ附セザルコト

(四) 學校ノ名稱ニ文字ニアラザル記號ヲ附セザルコト
(五) 名稱ノ例

- 岡山縣何郡(市)何町村立(又ハ岡山縣何郡(市)何町村)農工、商業青年學校
- 岡山縣何郡(市)何町村立 何女子青年學校
- 公立青年學校岡山縣何郡何町村商工專修學校
- 公立青年學校岡山縣何郡(市)何町村實務女學校
- 私立何青年學校

二、義務課程ニ關スル事項

(一) 義務課程履修ノ爲出席スベキ日及時刻ヲ定ムルニ當リテハ左ノ各號ニ留意スルコト
(イ) 生徒ノ實際生活ヲ考慮シ地方ノ實情ニ適應セシメ出席ニ便ナル時期及時刻ヲ選ブコト
(ロ) 工場法、鑛業法ニ基キテ發スル命令又ハ商店法中ニ規定スル休日ニ於テハ成ルベク教授及訓練ヲ避クルコト、但シ體位向上ニ資スルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラザルコト

(二) 義務就學者青年學校ニ就學後左ノ各號ノ一ニ該當第五篇 青年學校

スル場合ニ於テハ學校長ハ義務課程履修ノ爲出席スベキ日及時刻又ハ之ガ變更ノ通知ヲナスニ當リ其ノ旨ヲ明瞭ナラシムルコト

(イ) 令第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ教授及訓練科目ノ一部ヲ課セラレザルトキ

(ロ) 同第九條ノ規定ニ依リ出席ヲ停止セラレタルトキ

(ハ) 同第十四條又ハ第二十七條第三項ノ規定ニ依リ就學ヲ免除又ハ猶豫セラレタルトキ

(ニ) 同第十五條ノ規定ニ依リ青年學校以外ノ施設ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程ヲ修ムルコトトナリタルトキ

(ホ) 規則第十六條ノ規定ニ依リ學校ニ於テ臨時休業ヲ爲シタルトキ

三、教授及訓練時數ニ關スル事項

(一) 義務課程ニ於ケル教授及訓練時數ノ算定ハ一日ノ教授及訓練ノ實時間數ニ依ルコト

但シ當該學校ニ於ケル休憩時間(食事及食後ノ休憩時間ハ之ヲ除ク)並ニ所定ノ集禮アル場合ハ其ノ時間ハ

青年學校令ニ關スル件

一八〇

- 之ヲ適當ノ科目ノ時數ニ算入スルコトヲ得
- (二) 教練科ノ教授及訓練ハ別段ノ指示アルモノヲ除クノ外一日ニ付四時間ヲ超エテ爲シタル場合ニ於テモ生徒ノ修得時數ハ四時間ト看做スコト
- (三) 普通科本科及研究科在籍生徒ノ專修科ニ於ケル兼修時數及講習ニ於ケル受講時數ハ當該科ニ於ケル出席時數ニ算入セザルコト
- (四) 普通科本科及研究科ニ於ケル生徒ノ出席時數ハ其ノ校當該科ニツキ所定ノ教授及訓練時間ニ出席シタル時數トシ家庭實習課外ノ教授及訓練(例ヘバ課外實習宿泊訓練、講習聽講、遠足、見學、運動會競技會等)勤務當番ノ如キモノノ時間ハ出席時數ニ算入セザルコト
- (五) 生徒ノ出席時數ハ毎月末ニ於テ各教授及訓練科目ニツキ小計シ明確ナラシムルコト
- 四、專修科ニ關スル事項
 - (一) 專修科ノ教授及訓練期間ハ三月以上一ケ年以下トス
 - (二) 專修科ノ專修項目ハ珠算、簿記、速記、タイプラ

- イタリ、英語、製圖、家具、塗工、園藝、養蠶、手藝洗染、割烹、其ノ他主トシテ職業ニ關スル特別ノ事項トスルコト
- (三) 普通科、本科又ハ研究科ノ生徒ハ同時ニ專修科ノ課程ヲ兼任スルヲ得ルコト
- 五、講習ニ關スル事項
 - (一) 青年學校ニ於ケル講習ハ青年學校ノ修了者又ハ卒業者ヲ始メ一般公衆ヲ對象トシテ之ヲ行フコト
 - (二) 講師ハ當該學校教員ノ外學校長ニ於テ囑託シタル者トスルコト
 - (三) 講習ノ期間ハ三月以内トスルコト
- 六、專任教員ニ關スル事項
 - (イ) 公立青年學校ノ專任教員ハ左ニ掲グル者ヲ謂フコト
 - (ロ) 公立青年學校ノ專任ノ學校長ニシテ當該學校ノ教諭又ハ助教諭ニ兼任セラレタル者
 - (ハ) 前二號以外ノ公立私立青年學校教員タル者ニシテ當該學校ノ教員タルコトヲ本務トシ月手當又ハ給料月額四拾圓以上ヲ受クル者

七、專任教員ノ員數ニ關スル事項

十、公立青年學校職員進退ニ關スル事項

- 青年學校ノ專任教員ノ數ハ概ネ生徒五十人ニ對シ一人ノ割ニ置クベシ
- 八、公立青年學校ノ指導員等ニ關スル事項
 - (一) 教練科ヲ擔任セシムル爲在郷軍人ニ指導員ヲ囑託スル場合ニハ成ルベク其ノ在營期間長ク且教育程度高キ者ヨリ之ヲ選定スルコト
 - (二) 指導員ノ外特別ノ必要アルトキハ知事ハ青年學校教員資格規程ニ依リ適當ト認ムル者ニ公立青年學校ノ教授及訓練ヲ囑託スルモノトス
- 前項ノ教員ハ之ヲ講師ト稱スルコト
- 九、私立青年學校教員ニ關スル事項
 - (一) 私立青年學校ニ於テ青年學校ノ教員タルコトヲ得ル資格ヲ有セザル者ヲ教員トシテ採用スル場合ニハ知事ノ認可ヲ受クルコト(青年學校教員資格規程第四條)
 - 前項ノ認可ハ當該學校在職間有効ナルコト
 - (二) 私立青年學校ノ教員ノ名稱ハ公立青年學校ニ準ジ教諭、助教諭、指導員等ノ名稱ヲ使用スルコト

- 公立青年學校職員ノ進退並俸給ニ關シテハ爾今左ノ通り取扱フコト
- (一) 公立青年學校ノ教諭(助教諭、書記)ヲ任用セントスルトキハ別記第一號様式ニ依リ市ニ在リテハ市長其ノ他ニ在リテハ學校長ヨリ知事ニ内申スルコト
- 但シ新ニ專任教員及書記ヲ任用スル場合ニ在リテハ本人ノ履歷書及身體檢査書ヲ添付シ兼任又ハ轉任ノ場合ニシテ市ニ關係スルトキハ市長其ノ他ノ學校ニ關係スルトキハ當該學校長ノ同意書ヲ添付スルコト
- (二) 公立青年學校ノ指導員又ハ講師ヲ囑託セントスルトキハ別記第二號様式ニ依リ市ニ在リテハ市長其ノ他ニ在リテハ學校長ヨリ知事ニ内申スルコト 但シ新ニ任用ノ場合ハ履歷書ヲ添付スルコト
- (三) 學校長ハ兼務教員ニシテ他ノ學校ニ轉任シ其ノ學校ニ於テ兼務ヲ有セザルニ至リタルトキハ本人ヨリ兼務ノ退職願ヲ徵シ知事ニ内申スルコト
- (四) 兼任教員轉任先ニ於テ兼務スルトキハ退職願ヲ出サズ兼務補職内申ノミヲナスコト(第一號様式)

第五篇 青年學校

一八一

青年學校ニ關スル件

一八二

(五) 公立青年學校ノ職員ニシテ公立學校職員分限令第三條ニ依リ其ノ職ヲ免ジ又同令第八條ニ依リ休職ヲ命ズル必要アリト認メタルトキハ別記第三號様式ニ依リ市ニ在リテハ市長其ノ他ノ學校ニ在リテハ學校長ヨリ知事ニ之ヲ内申スルコト 本人ノ退職願及病氣ノ時ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スルコト

(六) 公立青年學校職員ノ増俸ニ關シテハ別記第四號様式ニ依リ市ニ在リテハ市長其ノ他ノ學校ニ在リテハ學校長ヨリ毎年三月十五日、八月十五日、十二月十五日迄ニ知事ニ之ヲ内申スルコト
減俸ニ關シテハ前項様式ニ準ジ其ノ事由現俸給額及減俸額ヲ具シ本人ノ承諾書ヲ添付シ之ヲ内申スルコト

第一號様式 (用紙半紙大)

岡山縣知事 氏 年 月 日 申
名 殿

何學校長 氏 名 宛

青年學校職員任(兼)(轉)用轉補ノ件

現任學校名及職名	學校名及資格	俸給額	現任俸給額	現任俸給受給年月日	擔任教授及訓練科目及一週時數	氏名	摘 要
(兼職名ヲ併セ明記スルコト)		若クハ手當額	現任俸給額				本欄ニハ委任ノ別務(本務ノ場合ハ兼務)ノ有無記入ノコト

右御辭令相成度 關係調査事項(但シ市長内申ニハ要セズ)

一 青年學校職員給調

郡町村及學校名	職員給豫算年度	現支給額	新任者ニ對スル支給額	殘 額	摘 要

備考 職員給ハ年額ニ付記載スルコト
第二號様式 (用紙半紙大)

岡山縣知事 氏 年 月 日 申
名 殿

何學校長 氏 名 宛

青年學校指導員(講師)囑託ノ件

申請事項	現任學校名	資格又ハ階級	年手當額	擔任教授及訓練科目及一週受持時數	氏名	摘 要
(例) 岡山縣 郡(市) 町立 何青年學校指導員(講師)ヲ囑託シ 年手當額 圓ヲ給ス						

右御辭令相成度

第五篇 青年學校

一八三

青年學校ニ關スル件

關係調査事項(但シ市長内申ニハ要セズ)

一 青年學校職員給調

郡町村及學校名	職員給豫算額	現在支給年額	新任者ニ對スル支給額	殘額	摘要

備考 職員給ハ年額ニ記載ノコト
第三號様式(用紙半紙大)

岡山縣知事 氏 月 日 申
青年學校職員休(退職)ノ件

何學校長 氏 名 附

學校名	職名	休(退)職事由	休職期間	休職給加	俸氏名	摘要

右御辭令相成度

第四號様式(用紙半紙大)

岡山縣知事 氏 月 日 申
青年學校職員增(減)俸ノ件

何學校長 氏 名 附

現任學校名	職名	資格	俸給又ハ手当額	現俸給又ハ手当額	現任學校就職年月日	加俸氏名	摘要

右御辭令相成度

關係調査事項(但シ市長内申ニハ要セズ)

一 青年學校職員給調

郡市町村及學校名	職員給豫算額	現在支給年額	増(減)俸額	殘額	摘要

第五篇 青年學校

青年學校ニ關スル件

十一、公立青年學校各種調查報告ニ關スル事項
青年學校長ハ毎年三月十日迄ニ左ノ事項ヲ調査シ知事ニ報告スルコト 但シ用紙ハ半紙大トシ各項別紙トスルコト

(一) 職員俸給及手當調

(イ) 來年度專任教員書記給豫算月額

內 譯

教員 一人平均月額

實際支出額 男 女

圓 圓 圓 圓

一八六

書記給料豫算月額

現在支給額ニ對スル豫算過不足額過(不足)

(ロ) 來年度兼任及囑託教員手當豫算額

內 譯

兼任教員年手當額

囑託教員年手當額

實際支出額校長年手當

其ノ他ノ教員年手當

現在支給額ニ對スル豫算過不足額過(不足)

圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓 圓

(二) 專任教員調(各人別)

記

現住所	原籍	職名(兼職名)		生年月日	學校
		職名	氏名		
當該學校勤續年月數	當該學校勤續年月數	當該學校勤續年月數			
俸給額並ニ受給年月日	俸給額並ニ受給年月日				

出身學校	免許狀ノ種類並ニ免許狀受得年月日	在職年月數	履歴大要	性行思想	勤惰	健康	研究狀況	長所短所	父兄並ニ生徒信賴程度	其ノ他參事トナルベキ事項
加俸額並ニ受給年月日	擔任教授及訓練科目並ニ每週教授及訓練時數	受恩給資格發生年月	配偶者有無	同配偶者勤務先	家庭經濟狀況	其ノ他ノ境遇狀況				

本人ノ希望	
學校長所見	

(三) 教員異動調

記

學校

- 一、退職希望者調
- 二、休職希望者調
- 三、他府縣轉出希望者調

○青年學校學則準則ニ關スル件

教第一四三三號學務部長通牒

(昭和一四、一〇、一九)

市長 公立青年學校管理者 私立青年學校設置者宛

岡山縣青年學校學則準則

岡山縣 郡(市) 學校學則

第一章 總 則

第一條 本校ハ青年學校令ノ趣旨ニ基キ男女青年ニ對シ其ノ心身ヲ鍛鍊シ徳性ヲ涵養スルト共ニ職業及實際生

活ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ以テ國民タルノ資質ヲ向上セシムルヲ目的トス

第二條 本校ハ岡山縣 郡(市) 學校ニ併設ス

(岡山縣何郡市町村字何番地)ニ置ク

第三章 科並ニ教授及訓練期間

第三條 本校ニ普通科、本科(第一本科、第二本科)及研究科ヲ置ク

第四條 各科ノ教授及訓練期間ヲ定ムルコト左ノ如シ

普通科 男子 二年 女子 二年

本科 男子 五年(第一本科) 女子 五年

女子 三年(第二本科) 男子 四年

研究科 男子 一年 女子 二年

第五條 本校ニ專修科ヲ置ク

專修科ニ關スル規程ハ學校長之ヲ定ム

第三章 教授及訓練科目並教授及訓練時數

第六條 各科ノ教授及訓練科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

普通科 男子 修身及公民科、普通學科、職業科、體操科

女子 修身及公民科、普通學科、職業科、家庭科

本科 男子 修身及公民科、普通學科、職業科、教練科

女子 修身及公民科、普通學科、職業科、家庭科、體操科

研究科 男子 修身及公民科、職業科、教練科

女子 修身及公民科、職業科

第七條 教授及訓練科目ノ程度及時數ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ必要ト認ムル場合ハ課外ニ實習ヲ課スルモノトス

科目	時數程度	種別	
		年	度
修身及公民科	一三四	第一	男子
		第二	女子
普通學科	五一七〇	第一	男子
		第二	女子

程 度

道徳ノ要旨、公民ノ心得

普通文ノ講讀、作文、習字

實用計算、珠算

國史ノ大要

國勢ノ大要

日常生活及職業ニ必要ナル理科

音樂

計	職業科	家庭科	體操科	本科男子				
				第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
一二四〇八	四一三六		二六八			五一七〇	一三四	
	農業ノ大意	家事ノ大意	普通體操、競技			農業ノ大意	普通體操	普通衣類ノ裁方、縫方、繕方

職業科	普通學科	修身及公民科	本科男子					
			第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	
四二六	三〇三	一三四	四二六	三〇三	一三四	三〇三	一三四	三〇三
農業大要	地理、歴史、算術、珠算、理科大要	公民ノ心得、道徳ノ要旨	農業大要	地理、歴史、算術、珠算、理科大要	公民ノ心得、道徳ノ要旨	職業ニ關係、深キ	職業ニ關係、深キ	職業ニ關係、深キ
四二六	三〇三	一三四	四二六	三〇三	一三四	三〇三	一三四	三〇三
農業大要	地理、歴史、算術、珠算、理科大要	公民ノ心得、道徳ノ要旨	農業大要	地理、歴史、算術、珠算、理科大要	公民ノ心得、道徳ノ要旨	職業ニ關係、深キ	職業ニ關係、深キ	職業ニ關係、深キ
四二六	三〇三	一三四	四二六	三〇三	一三四	三〇三	一三四	三〇三
農業大要	地理、歴史、算術、珠算、理科大要	公民ノ心得、道徳ノ要旨	農業大要	地理、歴史、算術、珠算、理科大要	公民ノ心得、道徳ノ要旨	職業ニ關係、深キ	職業ニ關係、深キ	職業ニ關係、深キ

計	教練科
一二三四	三〇三
一二三四	三〇三
七三六	三〇三
七三六	三〇三
七三六	三〇三

本科女子

科目	時數及程度	第一學年			第二學年			第三學年		
		週	年	時數	週	年	時數	週	年	時數
修身及公民科	道徳ノ要旨、公民ノ心得、作法	二	六八	二	二	六八	二	二	六八	
普通學科	國史、地理、日常生活ニ必要ナル理科、日用ノ大要	二	六八	二	二	六八	二	二	六八	
職業科	農業ノ大意	七	二三八	七	七	二三八	七	七	二三八	
家庭科	家事ノ大意、縫方、繕方	七	二三八	七	七	二三八	七	七	二三八	

體操科	一三四	普通體操	一三四	普通體操
計	一二四〇八	競技遊戲	一二四〇八	競技遊戲

研究科

科目	男		女	
	週數	年時	週數	年時
修身及公民科	一三四	道德ノ要旨、公民ノ心得	一三四	道德ノ要旨、公民ノ心得
職業科	三一〇二	農業經營	六二〇四	家事ノ大要及實習、普通衣類ノ裁方、縫方、手織方、ミシン使用
教練科	三一〇二	教練一般		
計	七二三八		七二三八	

第四章 每週教授及訓練日並ニ時刻

第八條 每週教授及訓練曜日並ニ時刻ヲ定ムルコト左ノ

如シ
普通科 (男子) 月曜日 火曜日 土曜日 日曜日 書間 六時間
(女子) 火曜日 金曜日 土曜日 書間 六時間

本科 (男子) (一年) 火曜日 木曜日 晝間 六時間
(二年) 火曜日 木曜日 晝間 六時間
(三年) 木曜日 晝間 七時間
(四年) 木曜日 晝間 七時間
(五年) 木曜日 晝間 七時間

本科 (女子) 火曜日 木曜日 晝間 六時間
木曜日 晝間 七時間
火曜日 晝間 七時間

第九條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

第五章 入學及退學

第十條 入學期ハ毎年四月一日トス但シ特別ノ事情アル者ニ對シテハ中途入學ヲ許可スルモノトス

第十一條 他校生徒ニシテ轉學ヲ志望シ來リタルトキハ特別ノ事情ナキ限り之ヲ許可シ相等科ノ相等年ニ編入スルモノトス

第十二條 特別ノ事情アル者ハ其ノ年齢及素養ニ應ジ之ヲ普通科第二學年又ハ本科第二學年以上ニ入學ヲ許可スルモノトス

第十三條 他ノ青年學校ヨリ特別ノ事由ニヨリ生徒ノ教授及訓練ヲ委託シ來リタルトキハ支障ナキ限り之ヲ許可シ滯留中教授及訓練ヲナスモノトス

第五篇 青年學校

第十四條 本校ニ入學セントスル者ハ別表第一號様式ニ依ル入學願書ヲ學校長ニ提出スベシ

第十五條 本校ヲ退學セントスル者ハ別表第二號様式ニ依リ退學願書ヲ提出スベシ

第十六條 普通科ノ修了及本科ノ卒業ノ認定ハ全課程ニツキ出席時數其ノ他平素ノ學習情況ヲ標準トス

第十七條 普通科及研究科ノ課程ヲ修了シタル者ニ對シテハ別表第三號様式ニ依ル修了證ヲ本科ノ課程ヲ修了シタル者ニ對シテハ別表第四號様式ニ依ル卒業證書ヲ授與ス

第七章 授業料
第十八條 授業料ハ之ヲ徴收セズ

第八章 褒賞
第十九條 生徒ニシテ成績特ニ優秀ナル者又ハ奇特ノ行為アリタル者ハ之ヲ褒賞ス

第十九條 褒賞ノ種類左ノ如シ
(一) 褒賞 (二) 賞品及賞狀

第九章 雜則
第二十條 本校生徒ハ規定ノ青年學校手帳ヲ所持スベシ

青年學校學則準則ニ關スル件
 第二十二條 生徒ハ規定ノ制服制帽ヲ着用スベシ
 第二十二條 本校ニ於テハ臨時必要ニ應ジ講習ヲナス
 第十章 附 則

式樣號一第

入學願

本籍
現住所

氏名
年月日生

學歴
右ノ者今般御校、、、ニ入學爲致度此
段御願候也

年月日

現住所
右保護者
岡山縣 郡 學校長 殿

一九四
 第二十三條 本學則ニ關スル細則ハ學校長別ニ之ヲ定ム
 第二十四條 本學則ハ昭和 年 月 日ヨリ之ヲ
 實施ス

式樣號二第

退學願

、、、學年
氏名

右ノ者今般何々ノ理由ニ依リ退學爲致度
此段御願候也

年月日

現住所
右保護者
岡山縣 郡 學校長 殿

第三號樣式

第 號
修了證

校印

氏名
年月日生

右者本校普通科ノ課程ヲ修了シタルコト
ヲ證ス

年月日

契印
岡山縣 郡 市(町村)立
、、、、學校長、、、、

第五篇 青年學校

第四號樣式

第 號
卒業證

校印

氏名
年月日生

右者本校本科ノ課程ヲ卒業シタルコトヲ
證ス

年月日

契印
岡山縣 郡 市(町村)立
、、、、學校長、、、、

一九五

青年學校令改正及同施行規則制定ノ要旨並ニ施行上ノ注意事項

一九六

○青年學校令改正及同施行規則制定ノ要旨並ニ施行上ノ注意事項

文部省訓令第一九號(昭和一九、六、二六)

北海道廳 府縣

青年學校令改正及同施行規則制定ノ要旨
並ニ施行上ノ注意事項

今般勅令第二百五十四號ヲ以テ青年學校令ヲ改正公布セラレ又文部省令第二十四號ヲ以テ青年學校令施行規則ヲ公布シタリ其ノ趣旨トスル所ハ一定ノ範圍ノ男子青年ニ對シ青年學校就學ヲ義務ト爲スモノニシテ之ニ關聯シテ青年學校令ノ全般ニ亘リ改正ヲ施サレ且之ガ施行上必要ナル各般ノ事項ヲ總括規定スル爲新ニ青年學校令施行規則ヲ制定シ從前ノ青年學校規程ヲ廢止シタルモノナリ抑々青年學校教育ヲ義務トシ實務ニ從事スル男女青年ニ對シテ普ク教育ノ機會ヲ與ヘ以テ國家有爲ノ人材ヲ育成スルハ我ガ國運ノ進展ヲ期スル所以ニシテ多年懸案トセラレタル所ナリ而シテ今ヤ東亞並ニ世界ニ於ケル我ガ國

ノ地位ト使命トハ愈々重キヲ加ヘ我ガ國青年ノ思想精神ヲ確立シ智能體力ヲ向上シ以テ國民精神ノ振作產業ノ進展地方ノ更生ニ寄與スルト共ニ國防力ノ根基ニ培フハ洵ニ喫緊ノ要務ナリ是レ玆ニ取敢ヘズ男子青年ニ對シ青年學校教育義務制ヲ實施セラレタル所以ナリ今其ノ改正ノ要旨並ニ施行上特ニ注意スベキ事項ノ大要ヲ示サントス一、青年學校ノ本旨ニ關スル事項
青年學校ノ本旨並ニ學校制度ノ大綱ハ概ネ從前ノ通トセラレタリ即チ青年學校ハ實務ニ從事スル男女青年ヲ對象トシテ國體ノ本義ニ基キ國家有爲ノ青年ヲ鍊成スルヲ目的トシ地方ノ情況ニ應ジ青年ノ職業及實際生活ニ即シテ適切ナル教育ヲ施スモノナルヲ以テ義務制實施ノ後ニ於テモ其ノ特質ハ愈々之ヲ發揮スルニカムベシ
二、義務就學ニ關スル事項
男子青年ヲ就學セシムルノ義務ハ其ノ保護者ニ之ヲ負ハシムルコトトセラレタルモ青年學校ニ於ケル義務就學者ハ相當ノ年齢ニ達シ概ネ社會ノ實務ニ從事スル者ナルヲ以テ保護者ノ熱意ト本人ノ自覺トニ俟ツニ非ザレバ容易ニ之ガ就學ノ實ヲ擧グルヲ得ザルベシ仍テ保護者ヲシテ

本制度ノ趣旨ヲ十分ニ理解セシメ進ンデ其ノ子弟ヲ就學セシムルト共ニ義務就學者ニ對シテハ好ンデ自ら修學スルノ氣風ヲ馴致スルニカムベシ

又雇傭、出稼等ノ爲義務就學者ガ其ノ保護者ト居住地ヲ異ニスル場合ニ在リテハ保護者ノ負フベキ義務ノ履行ニ幾多ノ困難ヲ伴フベキヲ以テ義務就學者ノ現居住地ノ市町村長ニ對シ保護者ヲシテ義務就學者ノ氏名及其ノ居所等ヲ届出デシムルコトトシ尙現居住地ノ市町村長ニ於テ必要ト認ムルトキハ保護者ヲシテ其ノ代理人ヲ置カシムルコトヲ得シメタリ仍テ關係者ニ對シテ其ノ趣旨ヲ理解セシメ就學義務ノ履行ヲ全カラシメンコトヲ期スベシ三、義務課程ニ關スル事項

保護者ニ於テ義務トシテ義務就學者ヲシテ履修セシムベキ課程(義務課程)ハ一般ニ義務就學者ガ實務ニ從事スル青年ナルノ實情ニ鑑ミ成ルベク其ノ義務ノ履行ヲ容易ナラシムル爲從來ノ各年ニ於ケル最低ノ教授及訓練時數ヲ以テ履修シ得ベキ課程ト定メラレ義務就學者ヲ收容スル青年學校ニ於テハ此ノ課程ヲ設クベキコトトシタリ然レドモ生徒ノ境遇ニ應ジ更ニ充實シタル課程ヲ履修セシ

第五編 青年學校

ムルハ最モ望マシキ所ナルヲ以テ苟モ義務課程ヲ設ケタルニ因リ教育ノ低下ヲ來シ又ハ課程ノ劃一ニ墜スルガ如キ弊ヲ招クコトナキヤウ之ガ指導ニ遺憾ナキヲ期スベシ
四、就學ノ免除及猶豫ニ關スル事項
義務就學者ノ癩癩白痴又ハ不具癱疾等ノ事由ニ因リ之ヲ就學セシムルコト能ハズト認ムル場合ニハ市町村長ニ於テ保護者ノ義務ヲ免除スルヲ得ルコトトセラレ又義務就學者ノ病弱其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ就學ノ時期ニ於テ之ヲ就學セシムルコト能ハザル場合ニハ市町村長ニ於テ其ノ就學ヲ猶豫スルヲ得ルコトトセラレタリ而シテ貧困ニ因ル就學ノ免除又ハ猶豫ヲ認メラレザリシハ青年學校ニ在リテハ職業ニ從事スル傍就學シ得ラルベク尙他方ニ於テ就學獎勵ノ方途ヲ講ズルコトニ依リ生徒ノ就學ニ支障ナキヲ期シ得ベキヲ以テナリ就學ノ免除及猶豫ニ關シテハ義務制ノ趣旨ニ鑑ミ之ガ運用ノ適正ヲ得ルニ留意スベシ
五、青年學校以外ノ教育施設ニ關スル事項
義務就學者ガ各種學校、農民道場等各種ノ教育施設ニ於

青年學校令改正及同施行規則制定ノ要旨並ニ施行上ノ注意事項

一九八

テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ修ムルトキハ保護者ノ義務ノ履行ニ關シテハ其ノ期間青年學校ニ就學スルモノト看做サレ又義務就學者ガ青年學校以外ノ施設ニ於テ青年學校ニ於ケル普通學科、職業科等ニ相當スベキ科目ヲ現ニ履修スルトキ又ハ之ヲ履修シタルトキハ一定ノ範圍ニ於テ教授及訓練科目ノ一部ヲ課セザルヲ得ルコトトセラレタリ是レ畢竟此等施設ノ教育的効果ヲ認メ青年ノ境遇ニ應ジ支障ナク就學義務ヲ履行シ得ルノ途ヲ拓ク趣旨ニ出デタルモノナリ仍テ此等施設ト青年學校トノ關係ヲ考慮シ其ノ圓滑ナル運用ヲ期スベシ

六、義務就學者ヲ使用スル者ニ關スル事項

義務就學者ヲ使用スル者ハ其ノ使用ニ依リテ義務就學者ノ青年學校ニ就學シ義務課程ヲ履修スルコトヲ妨グルヲ得ザル事トセラレ尙別ニ昭和十四年法律第八十七號ヲ以テ工場法續業法ニ基キテ發スル命令又ハ商店法中就業時間數ノ制限ニ關スル規定ヲ十六歳未満ノ義務就學者ニ適用スル場合ニ於テハ其ノ者ノ履修スベキ義務課程ノ教授及訓練時間ハ之ヲ就業時間ト看做ス事トセラレタリ蓋シ

青年學校ニ就學セシムベキ青年ニハ他人ニ使用セララル者多キヲ以テ此等青年ヲ就學セシムルニハ其ノ使用者ノ協力ヲ必要トシ尙就學ニ因ル青年ノ心身ノ過勞ヲ防グ要アルヲ以テナリ仍テ此等ノ使用者ニ對シ本制度ノ趣旨ヲ徹底セシメ進ンデ保護者ニ代リテ青年ノ就學ヲ督勵セシムルニ遺憾ナキヲ期スベシ

七、青年學校ノ設置ニ關スル事項

青年學校ノ設置ニ關シテハ市町村ニ對シ其ノ區域内ニ於ケル義務就學者ヲ就學セシムルニ必要ナル青年學校ヲ設置スルノ義務ヲ負ハメシラレタリ而シテ此ノ設置ノ義務ハ市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ依リ設置ニ依リテ之ヲ履行シ得ルコトヲ認メラレタリ蓋シ地方ノ情況ニ依リテハ市町村共同シテ青年學校ヲ設置スルコトヲ適切トスル場合アルヲ以テナリ尙土地ノ情況ニ依リ適當數ノ生徒ヲ得ラザル區域ニ關シテハ青年學校ノ設置ニ代ヘ生徒教育事務ヲ他ノ市町村等ニ委託セシメ得ルノ途ヲ拓カレタリ

北海道府縣、市町村等ノ地方團體並ニ商工會議所、農會

其ノ他之ニ準ズベキ公共團體及私人ガ青年學校ヲ設置シ得ルコトハ從前ト異ナル所ナキモ新ニ法人ニ非ザル社團ニシテ代表者ノ定アルモノモ亦之ガ設置ノ能力ヲ認メラレタリ是レ青年學校ノ特質ニ鑑ミ法人ニ非ザル同業組合等ニ付テモ青年學校ヲ設置スルヲ得シメンガ爲ナリ惟フニ都市ニ於ケル義務制實施ノ圓滑ヲ期スルニハ一層私立青年學校ノ普及發達ヲ圖ルヲ適當トス乃チ青年學校ノ本旨ヲ理解シ且其ノ設置維持ノ實力ヲ有スルモノニ對シテハ努メテ之ガ設置ヲ勸奨シ其ノ經營ニ適切ナル指導監督ヲ加ヘ以テ青年教育ノ擴充ト之ガ振興ヲ期スベシ

八、就學事務ニ關スル事項

市町村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ青年學校ニ關スル教育事務ハ市町村長、市町村學校組合管理者又ハ町村學校組合管理者之ヲ管掌スルコトトセラレタリ特ニ義務就學者ノ調査及其ノ名簿ノ編制並ニ就學ノ獎勵督促等就學ニ關スル事務ヲ遺漏ナク執行スルハ就學義務履行ノ完璧ヲ期シ義務制實施ノ趣旨ヲ貫徹スルニ缺クベカラザル所ナリ仍テ關係者ヲ督勵シ之ガ遂行ニ遺

憾ナカラシムコトヲ期セシムベシ

九、青年學校教員ニ關スル事項

青年學校教育ノ振作ハ特ニ教員タル者ノ人格ト其ノ努力トニ俟ツ所多キヲ以テ青年學校ニハ其ノ規模ニ從ヒ之ニ相當スル員數ノ專任教員ヲ置クコトトシ特別ノ事情アル場合ニ限り地方長官ノ認可ヲ受ケ當分ノ間之ヲ置カザルコトヲ得ルコトトセラレタリ近時青年學校教育ノ發達ニ伴ヒ專任教員ヲ置クモノ漸ク増加セルモ尙之ガ充實ヲ圖ラザルベカラズ特ニ義務制實施セラレ國家ハ青年教育ノ振興ニ由ル國力ヲ進展ニ期待スル所極メテ大ナルモノアルノ秋優秀ナル專任教員ヲ養成シ普ク之ヲ配置シ以テ教育内容ヲ充實スルノ途ヲ講ズルハ最モ緊要事ナリトス又之ト共ニ青年學校教育ノ特質ニ鑑ミ廣ク實務ニ練達堪能ノ士ヲ需メ斯ノ教育ニ參與セシムルハ青年學校教育ノ振興ニ寄與スル所尠カラザルモノアリ宜シク關係當局者ヲ督勵シ適切ナル教員ノ充實ヲ圖ルニ遺憾ナキヲ期セシムベシ

一〇、教科用圖書ニ關スル事項

青年學校ノ教授及訓練ニ當リテハ必ずシモ教科用圖書ノ

青年學校令改正及同施行規則制定ノ要旨並ニ施行上ノ注意事項

二〇〇

使用ヲ必要トセザルモ之ガ適切ナル使用ニ依リ一層教育ノ效果ヲ期待シ得ル場合多カルベシ仍テ曩ニ修身及公民科並ニ普通學科ニ付教科用圖書檢定制ヲ實施シ更ニ修身及公民科ニ付國定教科書ヲ編纂スル事トシテ地方ノ實情ニ應ジ之ガ選定ノ適切ヲ期セシムベシ

一、教授及訓練時刻ニ關スル事項

教授及訓練ハ其ノ性質上夜間ニ於テ行フベキモノヲ除クノ外晝間ニ於テ之ヲ行フコトトシタリ是レ發育期ニ在ル青年學校生徒ノ身體ヲ養護シ其ノ體位向上ヲ圖ルノ要アルト共ニ近時晝間ニ於テ教授及訓練ヲ行フモノ漸ク多キヲ加フル趨勢ニ在ルヲ以テナリ然レドモ今遽ニ全部ノ教授及訓練ヲ晝間ニ於テ行フヲ困難トスル地方アルベキヲ以テ夜間ニ於テモ教授及訓練ヲ爲シ得ルコトトシタリ斯カル場合ニ在リテモ努メテ業閑等ヲ選ビテ其ノ一部ヲ晝間ニ於テ實施スルノ工夫ヲ講ゼシメ以テ漸次晝間制ヲ原則トスルノ趣旨ヲ實現スルニ力メシムベシ

二、教授訓練ノ一部ヲ他ノ青年學校ニ於テ受ケシムル場合ニ關スル事項

青年學校生徒ニシテ特別ノ事由ニ依リ他ノ青年學校ニ於テ教授及訓練ヲ受クルコトヲ志望スル者アルトキハ學校長ハ其ノ生徒ヲシテ他ノ青年學校ニ於テ教授及訓練一部ヲ受ケシムルヲ得ルコトトシタリ是レ生徒ニシテ生業等ノ理由ニ依リ一時他ノ地方ニ滞留スル場合ニ其ノ期間滞留地ノ青年學校ニ於テ教授及訓練ヲ受クルコトヲ得シムルノ外他ノ青年學校ノ充實セル施設ヲ利用シテ教授及訓練ノ一部ヲ受クルコトヲ得シメントスルニ外ナラズ然レドモ之ガ爲教育ノ綜合統一ヲ紊リ教授及訓練ノ徹底ヲ缺クガ如キコトアラバ是レ教育ノ本旨ニ悖ルモノナルヲ以テ之ガ指導ニ遺憾ナキヲ期スベシ

一三、課程ノ修了及卒業等ニ關スル事項

從來青年學校ニ於テハ必ズシモ嚴格ナル學年制ヲ採ルコトヲ要セザルモノト爲シタリシモ義務制實施ニ依リ義務就學者ガ各學年ニ於テ義務課程ヲ履修スベキモノトセラレタルニ伴ヒ各學年ノ課程修了ノ制度ヲ定メタリ而シテ各學年ノ課程又ハ普通科、本科若ハ研究科ノ全課程ノ修了ハ生徒ノ出席時數其ノ他平素ノ學修情況ヲ標準トシテ

之ヲ認ムルコトトシタリ仍テ生徒ニシテ所定ノ教授及訓練ヲ受クルコトヲ得ザルモノアルトキハ之ヲ適當ナル時期ニ於テ補充スルノ方途ヲ講ゼシメ之ガ運用ニ遺憾ナカラシムベシ

一四、學務委員ニ關スル事項

青年學校就學ノ獎勵督促、就學ノ免除猶豫、經費豫算ノ調製其ノ他ニ關シ市町村、市町村學校組合、町村學校組合及其ノ學區ニ市町村長又ハ組合管理者ノ補助並ニ諮問機關トシテ新ニ學務委員ヲ置クコトトセラレタリ學務委員ノ職務、選任ノ方法、其ノ任期等ハ概ネ小學校令ニ依ル學務委員ノ制度ト同様ナルモ青年學校令ニ依ル學務委員ニ在リテハ市町村立青年學校ノ學校長又ハ教員ヲ加フルヲ要スルコトトセラレ又其ノ員數ハ地方ノ情況ニ應ジ地方長官ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトトシタリ仍テ市町村會議員並ニ市町村內各種團體ノ役員其ノ他青年教育ニ理解ト熱意アル者ヲシテ之ニ充テシムル様其ノ銓衡ニ留意セシムベシ更ニ此等學務委員ヲ中核トシ各方面ノ人士ヲ網羅シテ青年學校ノ振興ト後援ノ事ニ當ラシムルガ如キ機構ヲ設クル等郷黨ヲ擧ゲテ青年ヲシテ漏レナク青年

學校ニ就學セシムルニ協力スルノ風ヲ興サシムルニ力ムベシ

一五、女子青年學校教育ニ關スル事項

國民活動ノ源泉ニ培ヒ國家ノ進展ヲ圖ル爲ニハ男子ト並ビテ女子ノ教育ノ振興ヲ必要トスルハ言フ俟タズ從テ女子ニ就キテモ青年學校教育ヲ義務ト爲スハ最モ望マシキ所ナルモ現下我が國情ト女子青年學校教育普及ノ實情トハ直ニ之ヲ實現スルヲ困難トスルヲ以テ女子ノ青年學校教育ニ就キテハ今後一層就學ヲ勸奨スルト共ニ、專任教員ノ養成並ニ之ガ配置ノ普及、教育内容ノ改善充實ニ力ヲ注ギ以テ將來成ルベク速ニ義務制ノ實施ヲ期セントス宜シク此ノ意ヲ體シ女子青年學校教育ノ振興ニ一段ノ努力ヲ致スベシ

第五編 青年學校

二〇一

○青年學校教育義務制實施ニ關スル件

縣令第四三號(昭和一一、八、一)

這般青年學校令其他關係法令改正公布セラレ男子青年ニ對シ青年學校教育義務制ヲ實施セラレ之ニ依リテ一般青年ハ普ク其ノ處ヲ得テ研鑽修業機會ヲ與ヘラルコトトナレリ 抑々青年學校教育ノ義務制實施ハ我が國教育ノ劃期的進歩ニシテ之ガ振興ハ皇國隆昌ノ源泉ナリ今ヤ邦家未曾有ノ時艱ニ際會セルノ折畏クモ青少年學徒ニ對シ優渥ナル勅語ヲ下シ給フ

聖慮宏遠洵ニ恐懼ニ禁ヘザルナリ青年教育ノ振興正ニコノ秋ニ在リト謂フベシ而シテ本縣ニ於テハ青年學校教育擴充進展ノ爲ニ茲ニ實施細則ヲ公布シ青年學校令施行規則ノ運營ヲシテ間然ナカラシメンコトヲ期シタリ然レドモ眞ニ斯ノ教育ノ成果ヲ得ンニハ義務就學者タルト否トヲ問ハズ先ヅソノ就學出席ノ完璧ヲ期セザルベカラズコレ本縣ガ各學年ヲ通ジ準義務制ヲ採用セシ主意ノ存スル所ナリ宜シク時局下青年學徒ノ國家的使命ノ重要性ニ鑑ミ之ガ指導誘掖ニ專念シ以テ國力ノ根基ニ培フコトニ

一段ノ努力ヲ效スベシ

○青年ノ覺悟及青年學校本旨普及方

縣令第四三號(昭和一一、七、一一)

市町村長、學校長

今般文部省訓令第二十六號ヲ以テ青年ノ覺悟及青年學校本旨普及方等ニ關シ左ノ通訓令セラレ 惟フニ國家内外ノ情勢ニ鑑ミ青少年ノ教養訓練ヲ圖リ國家興隆ノ根基ニ培フハ現下喫緊ノ要務タリ 青年タルモノハ宜シク聖訓ニ恪遵シテ心身ノ修練ニ務メ負荷ノ大任ヲ全フセンコトヲ期スベク青年教育ニ當ル者ハ聖旨ヲ奉體シ訓令ノ趣旨ニ則リ愈々覺悟ヲ新ニシ忠順勤勉和衷戮力斯教育ノ振興ヲ圖リ以テ 聖旨ニ答ヘ奉ラムコトヲ期スベシ

記

○文部省訓令第二十六號

畏クモ 天皇陛下允文允武夙ニ青年ノ教育ニ御軫念アラセラレ曩ニ優渥ナル 勅語ヲ下シ給ヒ青少年學徒ノ纏フベキ道ヲ

昭示セサセ給ヒシガ今又青年訓練實施十五周年ニ當リ昭和十六年五月二十二日宮城二重橋前廣場ニ行幸アラセラレ全國青年學校男女生徒代表ヲ御親閱アラセ給フ乾德洪大宸慮宏遠洵ニ恐懼感激ニ堪ヘズ

惟フニ我が國刻下ノ急務ハ高度國防國家體制ヲ整備シ東亞共榮圈ヲ確立シ進ンデ世界新秩序ノ建設ニ貢獻スルニ在リ而モ國際關係ハ日ニ複雜ヲ極メ時艱ノ前途ハ遼遠ナリ此ノ秋ニ當リ實務ニ從事スル大衆青年ノ教養訓練ニ最善ノ力ヲ輸シ其ノ心身ヲ鍛鍊シテ國力ノ根柢ニ培ヒ産

○青年學校令第十二條第七號ノ規定ニ依リ指定

青年學校令第十二條第七號ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

(昭和十七年七月三十一日現在)

所管	被指	定者	文部省告示		備考
			年月日	番號	
内閣	内閣印刷局青年修練所本科修了者		昭和一六、四、一	三八二	
			昭和一六、三、一〇	六四一	
大藏省	專賣局教育所青年部第一本科又ハ第二本科修了者		昭和一六、三、一〇	六四一	
			造幣局青年練成所本科修了者	昭和一六、三、一〇	六六一

陸軍省		海軍省	
陸軍ノ現役又ハ豫備役ニ在ル者	陸軍幼年學校在學者及卒業者	東京陸軍航空學校在學者	熊谷陸軍飛行學校、宇都宮陸軍飛行學校、太刀洗陸軍飛行學校、陸軍航空通信學校及陸軍航空整備學校ノ生徒及卒業者
陸軍兵器學校及陸軍通信學校ノ生徒及卒業者並ニ陸軍戸山學校車業生徒及卒業者	陸軍造兵廠技能者養成所青年工員科本科修了者	千葉陸軍戰車學校ノ生徒及卒業者	海軍ノ現役又ハ豫備役ニ在ル者
海軍豫備補習生	左ノ應ニ設置シタル工員養成所又ハ之ニ準ズル施設ノ青年科第一本科又ハ第二本科修了者 海軍工廠、海軍航空技術廠、海軍火藥廠、海軍燃料廠、海軍工作部、海軍航空廠及同支廠	昭和四、六、三	昭和五、二、九
昭和四、六、三	昭和五、二、三	昭和六、四、三	昭和四、六、三
三五九	六二一	五二八	五八九
昭和十六年四月十二日 文部省告示第五二七號ニ依 リ上掲ノ如ク改正サル	同右		昭和十六年五月二十一日 文部省告示第六八號ニ 依リ上掲ノ如ク改正サル

所管	被指定者	年月日	文部省告示 番號	備考
文部省	海軍軍需部青年勤務員養成所本科修了者 外國ノ學校ヲ卒業シタル者ニシテ、專門學校入學者檢定規定ニ依リ文部大臣ノ認定シタル者 東京高等工藝學校附屬工藝實修學校在學者	昭和六、五、三 昭和四、六、三 昭和六、三、六	六六五 三五九 一八九	國民學校初等科修了程度 修業年限二年
逓信省	中央航空研究所教習所青年科修了者 逓信講習所高等科第一部及第二部在學者並修了者 逓信青年訓練所修了者	昭和六、三、六 昭和六、四、三 昭和六、五、九	一八七 五八一 六三八	
鐵道省	鐵道教習所普通部各科在學者及修了者並ニ同技工養成所各科在學者及同本科修了者 鐵道青年練成所本科修了者	昭和五、三、三 昭和六、三、六	六二一 一八九	國民學校高等科修了程度 修業普通部二年 技工養成二年六月
商工省	燃料局酒精部青年訓練所本科修了者	昭和七、六、五	五〇七	

青年學校令第十二條第七號ノ規定ニ依リ指定

國民學校高等科第一學年修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上ノ實業學校ノ第三學年修了者又ハ卒業者

國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノ實業學校卒業後引續キ同種同程度ノ學校ニ在學シ工業學校規定第十二條農業學校規定第十二條、商業學校規定第十六條ノ二、又ハ水産學校規定第十二條ノ規定ニ依ル課程（青年學校ニ於ケル普通學科及職業科ニ相當スベキ學科目ニ百七十時以上トテ課スル修業年限一年ノ課程ニシテ青年學校ニ於ケル修身及公民科ニ相當スベキ學科目六十時以上、教練科ニ相當スベキ學科目二百十時以上トテ課スルモノ又ハ修業年限二年若ハ三年ノ課程ニシテ青年學校ニ於ケル修身及公民科ニ相當スベキ學科目六十時以上、教練科ニ相當スベキ學科目二百十時以上トテ課スルモノニ限ル）ヲ修了シタル者

道府縣

昭和四、六、二六

三五九

同右

昭和十六年四月十二日文部省告示第五二八號ニ依リ上掲ノ如ク改正サル

盲學校又ハ聾啞學校在學者及同中等部第四學年修了者又ハ卒業者

專門學校入學者檢定規定ニ依リ卒業者ニ付文部大臣ノ指定シタル學校（以下專檢指定學校ト稱ス）ニ在學スル者及國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル專檢指定學校ノ第四學年、國民學校高等科第一學年修了程度ヲ以テ入學資格トスル專檢指定學校ノ第三學年又ハ國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル專檢指定學校ノ第二學年ヲ修了シタル者

國民學校訓導免許狀、國民學校初等科訓導免許狀又ハ國民學校專科訓導免許狀ヲ有スル者

昭和四、六、二六

三五九

昭和十六年四月十二日文部省告示第五二八號ニ依リ上掲ノ如ク改正サル

昭和六、四、三

五二八

○青年學校令施行規則第四條第一號

ニ依ル指定

（昭和一七、九、一現在）

文部省告示第三六四號 昭和一四、六、二九以降

青年學校令施行規則第四條第一號ノ規定ニ依リ指定スル

第五編 青年學校

コト左ノ如シ

一、本科第三學年以上ニ於テ普通學科ヲ課セザルコトヲ得ル者

神宮皇學館普通科第三學年修了者
陸軍幼年學校第二學年修了者

青年學校令施行規則第四條第一號ニ依ル指定

高等學校尋常科第三學年修了者
中學校第三學年修了者
高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年以上ノ實業學校ノ第一學年修了者
專門學校入學者檢定規程ニ依リ卒業者ニ付文部大臣ノ指定シタル學校ニシテ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスルモノノ第三學年、高等小學校第一學年修了程度ヲ以テ入學資格トスルモノノ第二學年又ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスルモノノ第一學年ヲ修了シタル者
青年學校本科第一學年及第二學年ニ於テ各普通科二百十時以上ヲ修メタル者
修業年限三年ノ高等小學校ヲ卒業シ青年學校本科第二學年ニ於テ普通學科二百十時以上ヲ修メタル者
高等學校高等科入學資格試驗規程ニ依ル試驗合格者
專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格者
高等試驗令第七條ノ試驗合格者
普通試驗合格者
小學校准教員又ハ尋常小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者

國民學校特修科ヲ修了シ青年學校本科第二學年ニ於テ普通學科二百十時以上ヲ修メタル者
國民學校准訓導免許狀又ハ國民學校初等科准訓導免許狀ヲ有スル者
二、本科第三學年以上ニ於テ職業科ヲ課セザルコトヲ得ル者
青年學校本科第一學年及第二學年ニ於テ各職業科四百二十時以上ヲ修メタル者
三、本科第三學年以上ニ於テ普通學科及職業科ヲ課セザルコトヲ得ル者
尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上ノ實業學校ノ第三學年修了者又ハ卒業者
高等小學校第一學年修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限二年以上ノ實業學校ノ第二學年修了者又ハ卒業者
實業學校卒業程度檢定規程ニ依ル檢定合格者
工場事業技能者養成令ニ依ル技能者養成施設ノ課程ヲ修了シタル者

陸軍造兵廠技能者養成所見習工員科又ハ養成工員科修了者
逓信講習所普通科第一部及第二部卒業者
縣立神奈川縣水産講習所卒業者
專賣局教修所青年部第二本科第二學年修了者
海軍軍需部青年勤務員養成所ノ本科第二部第二學年修了者

○青年學校令施行規則第五條第一號

ノ規定ニ依ル指定

文部省告示第三六五號(昭和一四、六、二九)

青年學校令施行規則第五條第一號ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

施設	青年學校ニ於テ課セザルコトヲ得ル教授及訓練科目
工場事業場技能者養成令ニ依ル技能者養成施設	修身及公民科、普通學科、職業科

文部省告示第一九一號(昭和一一、三、六)

第五編 青年學校

青年學校令施行規則第五條第一號ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

施設

山形縣蠶業試驗場ニ於ケル蠶業講習施設
愛媛縣蠶業試驗場ニ於ケル蠶業講習施設
大分縣蠶業試驗場ニ於ケル蠶業講習及研究生養成施設
青年學校ニ於テ課セザルコトヲ得ル教授及訓練科目
普通學科 職業科
普通學科 職業科
普通學科 職業科
普通學科 職業科

○青年學校令施行規則第三十二條

第一號ニ依ル指定(昭和一一、一、一現在)

文部省告示第三六六號以降(昭和一一、四、六、二九)

青年學校令施行規則第三十二條第一號ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ
左ノ應ニ設置シタル工員養成所又ハ之ニ準ズル施設
海軍工廠
海軍航空技術廠

青年學校令施行規則第三十二條第一號ニ依ル指定

海軍燃料廠

海軍工作部

旅順要港部工作部

明治十四年文部省達第四號府縣立學校幼稚園教育博物館
設置廢止規則ニ依リ設置シタル學校ニシテ其ノ卒業者ニ
付專門學校入學者檢定規程ニ依ル文部大臣ノ指定ヲ受ケ
ザルモノ

北海道拓殖實習場

宮城縣立農事講習所

會津山村道場

福島縣立修練農場 但シ短期修練生及滿洲農業移住者
ヲ除ク

岡山縣立農民道場三德塾

香川縣立農事講習所

香川縣水産講習所

長崎縣立農民道場 但シ短期訓練部ヲ除ク

陸軍造兵廠技能者養成所

鐵道教修所專修部各科

長崎縣立農學校專修科

二一〇

中央航空研究所教修所青年科

熊本縣立阿蘇農業學校專修科

鐵道青年練成所

埼玉縣立川越工業學校選科

三重縣立志摩水産學校專修科

山口縣立牟禮農民道場

山口縣立漁村修練場

福島縣立小倉工業學校專修科

熊本縣蠶業試驗場附屬蠶業技術員養成所

秋田縣山本專門學校附屬鑛手養成部

石川縣立津幡農學校專修科

鳥取縣立修練農場

東京府立機械工訓育所

靜岡縣立濱松機械工訓育所

靜岡縣靜岡機械工訓育所

神奈川縣工業試驗場機械工訓育所

新潟縣金工試驗場機械工訓育所

長野縣機械工訓育所

岐阜縣機械工訓育所

逕信青年訓練所

專賣局教修所青年部第一本科及第二本科

三重縣蠶業試驗場講習男子部

岡山縣蠶業試驗場講習部

宮崎縣蠶業試驗場講習部

宮崎縣茶臼農民道場

京都府立工業學校專修科男子部

京都府水産講習所

造幣局青年練生所本科

海軍軍需部青年勤務員養成所

東京府園藝學校專修科

東京府市農事講習所

東京府立龜岡農學校專修科

長野縣蠶業試驗場松本支場講習施設

長野縣蠶業試驗場飯田支場講習施設

北海道自治講習所 但シ短期ノ講習ヲ除ク

埼玉縣川口重工業指導所技術工訓育所

長野縣立御牧原修練農場

熊本營林局技術員養成所

二一一

第五編 青年學校

滋賀縣立機械工訓育所
三重縣立機械工訓育所
和歌山縣機械工訓育所
兵庫縣立機械工訓育所
岡山縣機械工訓育所
廣島縣機械工訓育所
鳥取縣立機械工訓育所
山口縣立山口機械工訓育所
山口縣立下關機械工訓育所
愛媛縣立機械工訓育所
福岡縣金屬工業試驗場機械工訓育所
宮崎縣立機械工訓育所
內閣印刷局青年修練所
逕信講習所普通科第一部及第二部
福島縣相馬農學校專修科
栃木縣立清原農學校
埼玉縣蠶業試驗場蠶業練習生正科
縣立神奈川縣水産講習所
島根縣立三瓶農民道場

遞信講習所普通科卒業者ノ青年學校編入學ニ關スル件
地方航空機乘員養成所

二二二

遞信講習所普通科卒業者ノ青年學校編入學ニ關スル件

編入學ニ關スル件

教第三八〇號學務部長通牒(昭和一六、五、六)

標記講習所普通科ニ關シテハ昭和十六年四月二十一日文部省告示第五八二號ヲ以テ指定相成タル處右普通科第一部第二部卒業者ノ青年學校編入學ニ付テハ之ヲ青年學校本科第三學年ニ猶年齡ニ於テ第四學年以上ニ該當スル者ハ各々年齡相當學年ニ入學セシメラレ度此段及通知候

工場事業場技能者養成令ニ基ク技能者ノ養成ト青年學校教育トノ關係ニ關スル件

職第二八號厚生文部次官通牒(昭和一四、四、四)

今般國家總動員法第二十二條ノ規定ニ基キ制定公布セラレタル工場事業場技能者養成令ニ依ル技能者養成ハ青年學校ノ教育ト關係スルコト密接ナル處右兩者ノ關係ニ付テハ左記事項ニ留意シ指導監督ノ宜シキヲ制シ以テ本制

度ノ施行運用上遺憾ナキヲ期セラレ度

記

一、養成工ハ令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成開始ノ際原則トシテ年齡十四年以上十七年未滿ノ男子ニシテ修業年限二年ノ高等小學校ヲ卒業シ若ハ青年學校普通科ノ課程ヲ修了シ又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認メタルモノナルコトヲ要スルヲ以テ青年學校本科ノ教育義務制ガ實施セラルル(昭和十六年度ヨリ實施セラルル見込)ニ於テハ養成工ノ年齡ニ該當スルモノハ原則トシテ青年學校本科ニ就學スベキ義務ヲ負フコトナルベキモ養成令ニ依ル養成工ニ付テハ養成中ノ當該期間青年學校ノ修身及公民科、普通學科及職業科ノ課程ヲ修ムル義務ヲ免除セラレ爾後ノ青年學校ノ學年ニ於テハ青年學校ノ普通學科及職業科ノ課程ヲ修ムル義務ヲ免除セラルル見込ナルコト

二、事業主ニ於テ養成計畫ノ認可ニ關シ工場又ハ事業場ニ設置スル青年學校等ニ於テ本令ニ依ル養成ノ全部又ハ一部ヲ行フコトヲ申請セル場合ニ於テハ其ノ學校ニ於ケル課程ガ養成令ニ基ク課程ヲ充足シ且技能者養成

上支障ナシト認メラルルトキハ之ヲ認可スルコト

三、青年學校ニ於テ養成令ニ基ク課程ヲ修ムル養成工ニ對シテハ青年學校ノ普通學科及職業科ノ課程ハ養成期間修了後ノ青年學校ノ學年ニ付テハ青年學校教育義務制實施後ト雖モ之ヲ課セラレザル込見ナルコト

四、二ニ基キ青年學校等ニ於テ養成令ニ基ク養成ヲ行フ場合其監督及指導ニ付テハ關係部課ト連絡ヲ密ニシ互扞格スルコトナキ様留意スルコト

尙養成令ニ基ク養成工ノ徳性涵養及養成工ニ授クベキ學科ノ種目並授業時數等ニ關シテハ左ノ各項ニ留意シ指導監督ニ遺憾ナキヲ期セラレ度

一、養成工ノ徳性涵養

養成工ノ徳性涵養ニ付テハ修身及公民ノ科目ヲ置カシメ其ノ教授訓練ヲ通ジテ之ヲ行ハシムルコト

修身及公民科ノ教授要目ハ青年學校ノ修身及公民科ノ教授及訓練要目ニ準據シテ之ヲ定メシムルコト

二、養成工ニ授クベキ學科ノ種目及其種目別授業時數

(一) 養成工ニ授クベキ學科ノ種目

養成工ニ授クベキ學科ノ種目ハ普通學科ト工業學

第五編 青年學校

科トニ分ツコト

(一) 普通學科ノ教授科目

普通學科ノ教授科目ハ國語、國史、數學及理科(物理及化學)トシ必要ニ應ジ地理、英語ヲ加フルコトヲ得ルコト但シ國語及國史ハ每年之ヲ課セシムルコト

前項ノ各教授科目ハ適宜之ヲ分合シ得ルコト

普通學科ノ各教授科目ノ教授要目ハ成ルベク青年學校ノ普通學科ノ教授及訓練要目ヲ參酌シテ定メシムルコト

(二) 工業學校ノ教授科目

工業學科ノ教授科目ハ製圖、機械ノ要素、電氣工學、材料、專門機械工學、力學機械工作法專門作業法及工業要項トシ必要ニ應ジ其他ノ科目ヲ加フルコトヲ得ルコト

前項ノ各教授科目ハ工場、事業場ノ狀況及養成職種ニ依リ適宜之ヲ分合シ得ルコト

(四) 授業時數

各教授科目ノ授業時數ハ第一號表ノ時數以上ニ於

二二三

テ之ヲ定ムルコト但シ普通學科ノ各教授科目間及工業學科ノ各教授科目間ノ授業時數ハ工場事業場ノ狀況及養成職種ニ應ジ適當ニ増減スルコトヲ得ルコト
 施行規則第十條第二項ノ規定ニ依リ授業時數ヲ五百五十時間迄短縮スルコトヲ認可セラレタル工場事業場ニ在リテハ第二號表ノ時數以上ニ於テ之ヲ定ムルコト但シ普通學科ノ各教授科目間及工業學科ノ各教授科目間ノ授業時數ハ工場事業場ノ狀況及養成職種ニ應ジ適當ニ増減スルコトヲ得ルコト

第一表

學科	科目	時數
普通學科	國語	五〇 (3)(2)(1)
	史	五〇 (3)(2)(1)
計		一〇〇 五五〇

第二表

(括弧内ノ算用數字ハ年度ヲ示ス)

學科	科目	時數
工業學科	製材	一〇〇
	工業要項	一〇〇
計	専門作業法	二五〇
	計	五〇〇
計		七二〇

二二四

普通學科	工業學科	合計
國語	製材	四〇
史	工業要項	七〇
計	専門作業法	一七〇
	計	三五〇
計		五五〇

東京府知事以外ノ各長官宛
 記二ノ最後ニ
 「前項ニ依リ青年學校ニ於テ工場事業場技能者養成令ニ基ク養成ヲ行フモノニ付テハ青年學校トシテハ學務部、工場事業場技能者養成令ニ依ル養成施設トシテハ

第五編 青年學校

警察部ヲシテ監督指導ニ當ラシムルコト」
 フ入ルル
 東京府知事宛
 記二ノ最後ニ
 「前項ニ依リ青年學校ニ於テ工場事業場技能者養成令ニ基ク養成ヲ行フモノニ付テハ青年學校トシテハ貴官工場事業場技能者養成令ニ依ル養成施設トシテハ警視總監ニ於テ監督指導ニ當ルモノナルコト」
 フ入ルル
 四ノ項ノ向以下ハ之ヲ削ル
 警視總監宛
 記二ノ最後ニ
 「前項ニ依リ青年學校ニ於テ工場事業場技能者養成令ニ基ク養成ヲ行フモノニ付テハ青年學校トシテハ東京府知事工場事業場技能者養成令ニ依ル養成施設トシテハ貴官ニ於テ監督指導ニ當ルモノナルコト」
 フ入ルル
 鑛山監督局長宛
 記二ノ最後ニ

二二五

青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程ノ認定ニ關スル件

二一六

「前項ニ依リ青年學校ニ於テ工場事業場技能者養成令ニ基ク養成ヲ行フモノニ付テハ青年學校トシテハ地方長官工場事業場技能者養成令ニ依ル養成施設トシテハ貴官ニ於テ監督指導ニ當ルモノナルコト」ヲ入ルル

○青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程ノ認定ニ關スル件

發社第三四號文部省社會教育局長通牒(昭和二五、二)

青年學校令施行規則第三十二條第二號ノ規定ニ依リ認定ト昭和十三年陸軍省令第一號第一條第一號ノ規定ニ依リ認定ノ取扱ニ關シ往々混同スル向不尠處兩者ハ各々其ノ趣旨ヲ異ニシ前者ニ在リテハ青年學校令第十五條ノ規定ニ依ル生徒ニシテ其ノ施設ニ在學スル間保護者ノ義務ノ履行ニ關シテハ青年學校ニ就學スルモノト看做サレ後者ニ在リテハ兵役法第十四條及同第五十七條ニ規定スル特典ヲ附與セラルルモノニシテ兩者又其ノ認定條件ヲ異ニシ後者ノ認定ヲ受ケタルモノモ其ノ施設ニシテ青年學校

令第十二條ノ義務就學者ヲ就學セシムルモノナルトキハ更ニ前者ノ認定ヲ受クルヲ要スル儀ニ付御取扱上御留意相成度尙以上兩者ノ認定報告ニ當リテハ何レモ其ノ根據法令ヲ明記セラル、様致度
追テ尋常程度ヲ入學資格トスル夜間中學等ニシテ其ノ卒業者ニ付專門學校入學者檢定規定ニ依ル指定ヲ受ケザルモノニ付テハ右ニ依リ此ノ際速ニ貴官ノ認定ヲ要スル儀ニ付爲念申添フ

○青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル件

法律第八七號(昭和一四、四、二一六)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル青年學校令ニ依リ就業時間ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
工場法、鑛業法ニ基キテ發スル命令又ハ商店法中就業時間數ノ制限ニ關スル規定ヲ青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ニシテ十六歲未滿ノモノニ付適用スル場合ニ於テハ其ノ者ガ履修スベキ義務課程タル一日ノ教授及訓

練時間ハ之ヲ就業時間ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十四年勅令第三百十三號ヲ以テ同年五月二十日ヨリ施行ス)

○青年學校令ニ依リ就學セシムベキ者ノ就業時間ニ關スル件

教第七四一號學務部長通牒(昭和一四、五、一六)

昭和十四年四月二十日法律第八十七號ヲ以テ「青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律」ヲ公布セラレ候處右法律ノ豫定施行日ハ來ル五月二十日ト相成居候趣ニ付貴管下工場、鑛山、商店其ノ他一般ニ對シ周知方可然御取計相成度通牒候

參考ノ一

昭和十四年四月二十四日法律八十七號 本文畧

參考ノ二

工場法、工業法ニ基キテ發セラレタル命令又ハ商店法等ニ依レバ十六歲未滿ノ者ノ一日ノ就業時間ハ十一時間以内ニ制限サレ居ルヲ以テ青年學校ニ於テ義務課程トシ

テノ教授及訓練時間ヲ含メテ一日ノ就業時間十一時間以内トスベキコトナレリ

第五條 鑛夫勞務扶助規則(抄)

鑛業權者ハ鑛夫ヲシテ一日ニ付十時間ヲ超エテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ監視ヲ主トスル業務又ハ間歇的ナル業務ニ従事スル者ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第六條 鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ選炭作業ニ従事スル者ニ付テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限り前項ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得

第六條ノ二 鑛業權者ハ溫度攝氏三十度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ他ノ場所ニ於ケル就業時間ト通算シテ一日ニ付八時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ズ
鑛山業者ハ溫度攝氏三十五度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於

青年學校學籍簿ノ様式

二二八

テ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ズ
 第七條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

工場法(抄)

第三條 工場主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ズ

○青年學校學籍簿ノ様式

文部省告示第三九二號(昭和一一、一〇)

主務大臣ハ業務ノ種類ニ依リ本法施行後十五年間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得
 就業時間ハ工場ヲ異ニスル場合ト雖モ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ通算ス
 第四條 工場主ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

科普通	本籍地	戸主及戸主ノ続柄	名氏	年	月	日生	前學入ノ經歷	所住居現	業職
了學							學業 其ノ他		

科普通	本籍地	戸主及戸主ノ続柄	名氏	年	月	日生	前學入ノ經歷	所住居現	業職
了學							學業 其ノ他		

科普通	本籍地	戸主及戸主ノ続柄	名氏	年	月	日生	前學入ノ經歷	所住居現	業職
了學							學業 其ノ他		

科普通	本籍地	戸主及戸主ノ続柄	名氏	年	月	日生	前學入ノ經歷	所住居現	業職
了學							學業 其ノ他		

科普通	本籍地	戸主及戸主ノ続柄	名氏	年	月	日生	前學入ノ經歷	所住居現	業職
了學							學業 其ノ他		

罰賞	科 修 專					科 研 究 科		科 研 究		
	至	自	至	自	至	計	計	第 三 學 年	第 四 學 年	
要 摘	至自至自至自					教授及 訓練期間 出 席	專修科目 出 席	修身及 公民科 出 席	專 修 項 目 出 席	修了 ノ 認 定

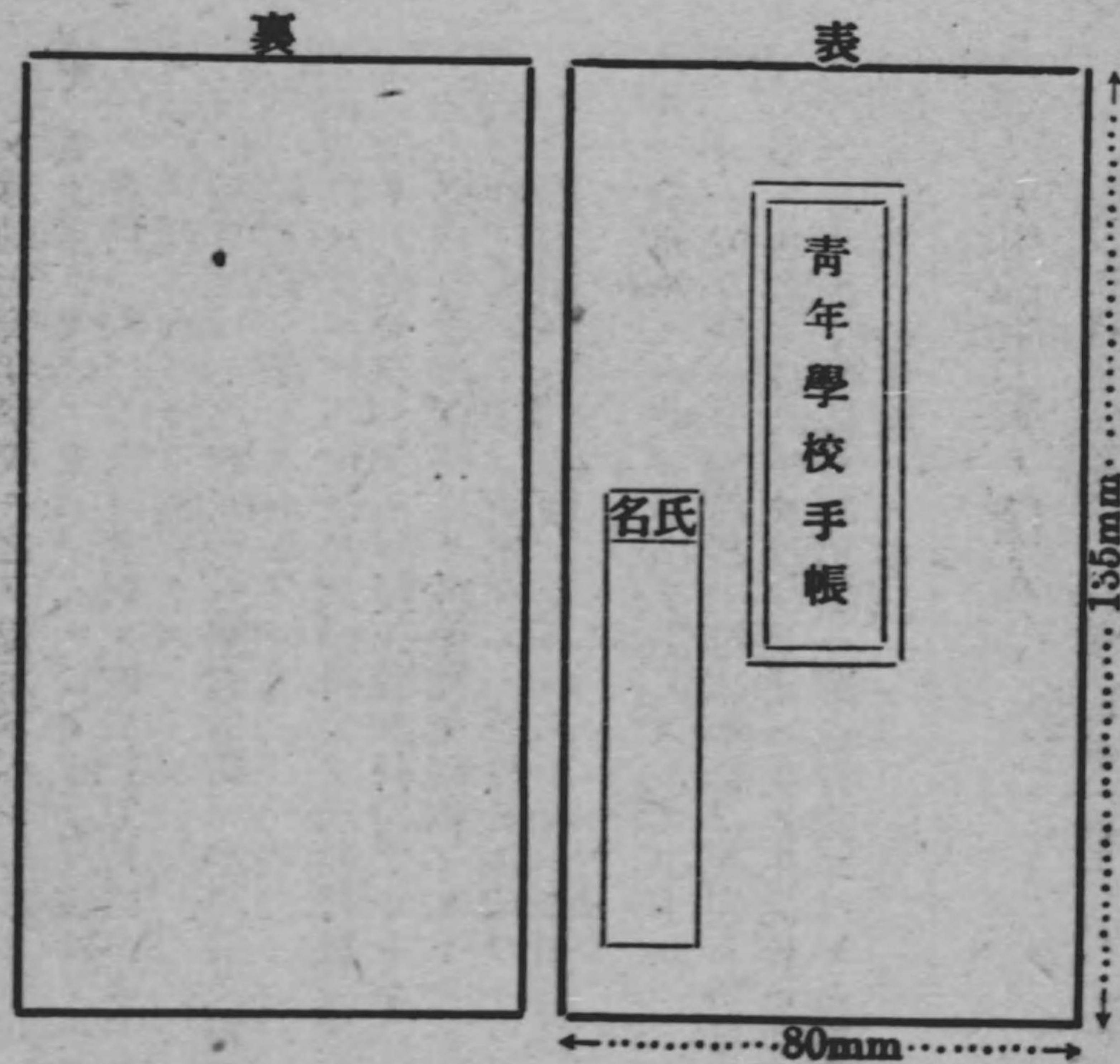
注 意 事 項

- 一、各科ノ欄ハ學校ノ情況ニ應ジ適宜取捨スルヲ得ルモノトス
- 二、各欄ノ大キサヲ適宜トス
- 三、職業欄ニハ昭和五年内閣訓令第三號產業及職業分類中職業分類ノ小分類又ハコレヨリモ細別シタル具體的ノ職業名ヲ記入スルモノトス
- 四、出缺欄ニハ各教授及訓練科目ノ出席時數及缺席時數ヲ記入スルノ外青年學校令第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ免除セラレタル教授及訓練科目アルトキハ免除ト記入スルモノトス
- 五、各教授及訓練科目ニ就キ補充時數アルトキハ別ニ括弧ヲ附シテ之ヲ該當科目欄ニ記入スルモノトス
- 六、修了又ハ卒業ノ認定欄ニハ學校長認印ヲナスモノトス
- 七、備考欄ニハ出缺席ニ現ハレタル著シキ傾向及其ノ事由並ニ科目免除アルトキハ其ノ事由等ヲ記入スルモノトス
- 八、摘要欄ニハ左ノ事項ヲ記入スルモノトス
 - イ 青年學校令施行規則第二十條ノ規定ニ依リ他ノ青年學校ニ於テ受クル教授及訓練ノ情況ニ關スル事項
 - ロ 青年學校令第九條ノ規定ニ依ル出席停止ニ關スル事項
 - ハ 生徒ノ個性及環境等ニ關シ特記スベキ事項
 - ニ 其ノ他必要ナル事項

○青年學校手帳ノ様式

文部省告示第四〇三號(昭和一四、八、三二)

一、手帳ノ大キサ等ハ左ノ通トス
 表装ハ「布張」トシ水氣ニ堪ヘ且汚損シ難キモノヲ用フルコト



二、卷頭ニハ教育ニ關スル勅語及青少年學徒ニ賜ハリタル勅語ヲ奉記スルコト
 三、青年學校手帳ニ關スル心得トシテ左記事項及其ノ他必要ナル事項ヲ掲グルコト

青年學校手帳ニ關スル心得

- 一、本手帳ハ青年學校ニ出席ノ際必ズ之ヲ携帯スベシ
- ニ、本手帳ハ細心ノ注意ヲ以テ之ヲ取扱ヒ汚損又ハ紛失等ノコトナキヲ期スベシ
- 三、本手帳中在學關係科目免除、就學猶豫及出席停止欄、出席時數欄、教授及訓練委託情況欄、身體情況欄、義務課程日及時刻欄、備考欄及證明書欄ハ青年學校ニ於テ夫々記入證明ヲ受ケ其ノ他ノ各欄ハ青年學校生徒ニ於テ適宜之ヲ記入スベシ
- 科目免除、就學猶豫及出席停止欄、義務課程日及時刻欄ニ在リテハ保護者又ハ代理人並ニ使用者ノ捺印ヲ受クベシ
- 四、轉學セントスルトキハ本手帳ヲ在籍青年學校ニ提出シ出席時數其ノ他必要ナル事項ノ記入證明ヲ受

ケ移轉先青年學校ニ之ヲ提示スベシ

三、生徒ニシテ他ノ青年學校ニ於テ教授及訓練ノ一部ヲ受ケントスルトキハ本手帳ヲ在籍青年學校ニ提出シ教授及訓練委託情況欄ニ出席時數其ノ他必要ナル事項ノ記入證明ヲ受ケ他ノ青年學校ニ之ヲ提示スベシ

前項ノ教授及訓練ノ一部ヲ受クル期間終了シタルトキハ教授及訓練委託情況欄ニ出席時數其ノ他必要ナル事項ノ記入證明ヲ受ケ在籍青年學校ニ之ヲ提示スベシ

六、男子ハ徵兵検査(海軍志願兵志願者ニ在リテハ徵募検査)及入營ノ際本手帳ヲ携行スベシ

四、修學情況其ノ他必要ナル事項ヲ記入スル爲左ノ各欄ヲ設クルコト但シ各學校ニ於テ必要アル場合ハ適宜欄ヲ加フルヲ得ルコト
 各欄ノ紙數ハ適宜トスルコト

(一)

氏名		年 月 日 生	本籍地	現居住地	職業	現居住所及職業ノ異動
姓	名					
昭	和	年	月	日		
昭	和	年	月	日		
昭	和	年	月	日		
昭	和	年	月	日		
昭	和	年	月	日		
昭	和	年	月	日		
昭	和	年	月	日		
昭	和	年	月	日		
昭	和	年	月	日		
昭	和	年	月	日		

(備考)
 職業ハ自己ノ職業及雇傭關係等ヲ記入スルコト

青年學校手帳ノ様式

(一)

保護者及代理人				氏名	現居住所	ノ生徒ノ關係	職業
保	護	代	理				

(二)

青年學校入學前ノ經歷							
年月日		入學、卒業、就職、退職等					
年	月	日					
年	月	日					
年	月	日					
年	月	日					
年	月	日					
年	月	日					
年	月	日					

二三四

(四)

在學關係										
年月日		入學、修了、卒業、轉學、退學、賞罰等								學校長印
昭	和									
年	年									
月	月									
日	日									
昭	和									
年	年									
月	月									
日	日									
昭	和									
年	年									
月	月									
日	日									

(五)

科目免除・就學猶豫及出席停止										
期間		科目免除、就學猶豫、出席停止								學校長印
至	自									
昭	昭									
和	和									
年	年									
月	月									
日	日									
至	自									
昭	昭									
和	和									
年	年									
月	月									
日	日									
至	自									
昭	昭									
和	和									
年	年									
月	月									
日	日									

(備考)

- 一、入學、修了、卒業、轉學、退學ハ青年學校ノ名稱、科及學年ヲ記入スルコト
- 二、賞罰ハ其ノ事由ヲ記入スルコト

第五編 青年學校

(備考)

- 一、科目免除ニ在リテハ其ノ科目及事由ヲ記入スルコト
- 二、就學猶豫、出席停止ハ其ノ事由ヲ記入スルコト

二二五

(110)

期間	教授及訓練委託情況				計
	至昭和	自昭和	至昭和	自昭和	
年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
名	名	名	名	名	名
校	校	校	校	校	校
科	科	科	科	科	科
及	及	及	及	及	及
修	修	修	修	修	修
身	身	身	身	身	身
普	普	普	普	普	普
通	通	通	通	通	通
職	職	職	職	職	職
業	業	業	業	業	業
科	科	科	科	科	科
操	操	操	操	操	操
練	練	練	練	練	練
教	教	教	教	教	教
計	計	計	計	計	計
長	長	長	長	長	長
校	校	校	校	校	校
印	印	印	印	印	印

(備考)

- 一、教授及訓練科目ノ各欄ニ記入スル一、二、三ノ數字ハ壹、貳、參ノ字體ヲ用フルコト
- 二、學校名ハ其ノ所在地ヲ表示シ得ル範圍ニ於テ畧稱ヲ用フルモ妨ゲナシ
- 三、科目免除アルトキハ其ノ科目欄ニ免除ト記入スルコト

(111)

科	身體情況											
	検査項目											
検査年月	年月	年月	年月	年月	年月	年月	年月	年月	年月	年月	年月	年月
長	身	重	體	胸	圍	高	坐	脊	胸	廓	力	視
常	及	疾	異	病	長	校	印					

(112)

期間	義務課程日及時刻			科第	學年
	日又ハ曜日	開始時刻	變更		

(備考)

- 一、期間ノ欄ハ自何月何日至何月何日ト記入スルコト
- 二、日又ハ曜日ノ欄ハ學校ノ情況ニ依リ適宜記入スルコト
- 三、始終時刻ノ欄ハ自午前(又ハ午後)何時何分至午前(又ハ午後)何時何分ト記入スルコト
- 四、變更ノ欄ハ變更シタル日及時刻ヲ記入スルコト

第五編 青年學校

(113)

備	考

青年學校手帳並ニ其ノ取扱ニ關スル件

(一四)

證明書

氏名

年月日生

右者兵役法施行令第三十四條第二項ノ規定ニ依リ
陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタルコト
ヲ證ス

昭和 年 月 日

(何青年學校長 氏 名)

五、本手帳ハ之ヲ男子ノミニ所持セシムルモノ及女子ノ
ミニ所持セシムルモノノ二種ニ別ツテ得ルコト男子ノ
ミニ所持セシムルモノニ在リテハ普通科ノ出席時數欄
ニ於ケル家庭科、本科及研究科ノ各出席時數欄ニ於ケ
ル家庭科並ニ體操科、教授及訓練委託情況欄ニ於ケル
家庭科ヲ、女子ノミニ所持セシムルモノニ在リテハ青

二三〇

年學校手帳ニ關スル心得第六號ノ事項、本科及研究科
ノ各出席時數欄ニ於ケル教練科、教練及訓練委託情況
欄ニ於ケル教練科、義務課程日及時刻欄並ニ證明書欄
ヲ削ルコト

(青年學校手帳並ニ其ノ取扱ニ關スル件

教第二二一九號(昭和一〇、一一、一九)

沿革 昭和一四、二教第一一九號改正

青年學校長 青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル
課程ノ學校長宛

在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程及地方長官ニ
於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ノ修得時
數並其ノ取扱ニ關シテハ昭和十年十一月十九日附致第二
一一九號ヲ以テ通牒致置候處今般本省ヨリ首標ノ件ニ關
シ指示有之候ニ付其ノ取扱ニ關シテハ左記事項御了知ノ
上御措置相成度依命及通牒候

記

一、農ニ文部省告示第三二五號ヲ以テ青年學校手帳ノ様

式ヲ定メラレタル處本件ハ青年學校規程第十九條ノ規
定ニ基クモノニシテ其ノ趣旨ハ昭和十年文部省訓令第
二號十二中ニ指示サレタルモ更ニ文部省ト陸軍省ト協
議ノ上兵役法施行規則第五十二條ニ規定スル在營期間
短縮ニ關スル證明書ニ充ツルコトニ決定サレタリ
二、當分ノ内從前ノ青年訓練手帳ヲ所持スル者ニ就テハ
當該手帳ヲ以テ適宜青年學校手帳ニ代用スルモ差支ナ
シ
三、青年學校手帳記入ノ事項ハ將來本人ノ身分等ヲ證明
スル資料タルベキヲ以テ卒業又ハ修了後ニ於テモ保存
セシメ現居住所及職業ノ異動ハ引續之ヲ記入セシムル
コト
四、學校長ニ於テ記入スベキ各欄ノ文字ハ之ヲ訂正挿入
又ハ削除ヲ爲シタルトキハ各其ノ總字數ヲ卷末備考欄
ニ記載シ學校長ノ認印ヲナスコト
五、青年學校手帳又ハ青年學校手帳ニ代用サルベキ青年
訓練手帳ノ取扱ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルコト
1 青年學校手帳取扱方
(イ) 從前ノ實業補習學校ニ在學シ又ハ青年訓練所

第五編 青年學校

ノ訓練ヲ受ケタル者ニ就テハ、出席時數欄ニハ其
ノ者ノ青年學校ニ編入セラレタル以後(概ネ昭和
十年四月一日以降)ニ於テ修メタル時數ヲ記スル
コト

(ロ) 從前ノ實業補習學校ニ在學シ又ハ青年訓練所
ノ訓練ヲ受ケタル者ニシテ青年學校手帳ヲ所持セ
ル者ニ對シテハ從前使用セシ青年訓練手帳ヲモ併
セ所持セシムルコト

(ハ) 在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程又
ハ地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認
メタル課程ヲ修得シタル者ニ對シテハ卷末ノ證明
書ニ必要ナル事項ヲ記入證明スルコト

(ニ) 昭和十年六月十日陸軍省告示第二十七號ニ依
リ課程修得ノ程度ヲ輕減セラレタル者(昭和十年
十一月十九日附致第二一九號通牒第二ニヨリ、
課程修得ノ程度ヲ輕減セラレタル者)ニ對シテハ
青年學校手帳卷末ノ證明書ノ一隅ニ左ノ記載例ニ
依リ當該告示該當條項等記入ノコト

記載例

二三一

青年學校ノ課程修了ノ取扱ニ關スル件

昭和十年陸軍省告示第二十七號第二項ニ依リ普通

學科及職業科二百時ヲ免除ス

青年訓練手帳ヲ以テ青年學校手帳ニ代用スルモノ

ノ取扱方

- (イ) 在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程又ハ地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ヲ修得シタル者ニシテ青年學校手帳ノ代用トシテ青年訓練手帳ヲ所持セル者ニ對シテハ當該手帳ニ併セテ青年學校手帳卷末ノ證明書ノ樣式ニ準ズル半紙截大ノ證明書ヲ所持セシムルコト
- (ロ) 昭和十年六月十日陸軍省告示第二十七號ニ依リ課程修得ノ程度ヲ輕減セラレタル者(昭和十年十一月十九日附致第二一九號通牒第二ニヨリ課程修得程度ヲ輕減セラレタル者)ニ對シテハ前掲證明書ノ一隅ニ前號(ニ)ノ記載例ニ依リ當該告示該當項等記入ノコト

備考

青年學校令施行以前ニ於テ從前ノ實業補習學校又ハ青年訓練所ヲ卒業又ハ修了シタル者ノ取扱ハ仍

從前ノ例ニ依ル

○青年學校ノ課程修了ノ取扱ニ關スル件

教第六六號學務部長通牒(昭和一七、二二、二四)

青年學校本科又ハ研究科ノ最終學年ニ在學スル生徒入營等ノ爲學年ノ中途ニ於テ青年學校ヲ退ク場合右生徒ノ課程修了ノ取扱ニ關シ文部省ヨリノ指示ノ次第モ有之左ノ通御處理相成度此ノ段依命通牒候

記

- 一、修了ノ認定ハ學年末ニ於テ之ヲ爲スコト 但シ必要アル場合ニハ課程修了見込ノ證明書ヲ交付スルコト
- 二、當人ノ入營ヨリ學年末迄ハ正當ノ事由アル缺席トシテ取扱フコト

○青學校生徒ノ教授及訓練ノ取扱ニ

關スル件

教第一六號例規(昭和一五、一、三〇)

市 長 宛
公私立青年學校長

ノ五分ノ一ヲ超ユルヲ得ザルコト

集團勤勞作業行事標準

禮節規律ニ留意シ彌々盡忠報國ノ精神ヲ以テ心身ヲ鍛鍊シ集團の勤勞ニ依リ不撓不屈生成發展ノ氣魄ヲ培ヒテ實踐的精神教育ノ實ヲ學グルコト

(一) 開始行事

- 一、集合 一、點呼 一、服裝檢查
- 一、宮城遙拜 一、國旗掲揚 一、君ケ代奉唱
- 一、皇軍將兵武運長久祈願戰歿將兵ノ英靈感謝默禱
- 一、訓話 一、體操 一、作業任務ノ指示
- 一、器具、機材ノ配當 一、始業

(二) 終了行事

- 一、器具機材ノ整頓點檢 一、集合 一、點呼
- 一、講評 一、青年學校ノ歌合唱
- 一、國旗降下 一、解散

備考
一、作業ノ種類ニ應ジ適當ニ休憩及矯正體操ヲ行フコト

- 二、晝食休憩時ニハ適當ニ吟詠、唱歌團體遊戲等ヲ行フ

時局下青年學校ニ於テ集團勤勞作業ニ參加スル場合ニ於テ之ニ從事セシメタル生徒ノ青年學校ニ於ケル教授及訓練時數ノ取扱方ニ關シテハ左記ニ依リ御處理相成様客歲十二月二十八日附發社第三九二號ヲ以テ文部省社會教育局長ヨリ通牒有之タルニ付移牒ス

記

- 一、事業ハ國家的公共的ノモノニシテ知事ニ於テ青年學校生徒ノ教育上適切ナル奉仕作業トシテ選定シタルモノナルコト
- 二、作業實施ニ當リテハ指導要項ヲ定メ當該青年學校教員指導ノモトニ之ヲ行フコト但シ特別ノ事情アル場合ニ在リテハ青年學校長ニ於テ適當ト認ムル他ノ指導者ヲ選ビテ指導ノ任ニ當ラシムルコトヲ得ルコト
- 三、作業實習當日ニ於ケル當該生徒ノ受クベキ教授及訓練科目及其ノ時數ハ之ヲ履修シタルモノトシテ取扱フコト

四、集團勤勞作業ニ從事シタル時數ノ教授及訓練時數ト認メ得ル總時數ハ各科各學年ニ於ケル教授及訓練時數

青年學校生徒ノ教授及訓練取扱ニ關スル件

フコト

注意

(イ) 敬禮、態度、言語等ハ端正ナルコト
(ロ) 作業地往復途上ニ於ケル指導ヲ適切ナラシムルコト

(ハ) 作業實施ニ當リテハ可成設計等ヲ行ハシメ研究的態度ヲ養成スルコト

(ニ) 作業中ハ作業ニ必要ナル以外ハ無言ヲ本體トスルコト

(ホ) 特ニ危害豫防ニ十分注意スルコト

(ヘ) 合圖ハ「ラツバ」太鼓等ヲ用ヒ一齊ニ之ヲ行フコト

(ト) 參加生徒ニ付テハ特ニ身體情況ヲ考慮スルコト

○青年學校生徒ノ教授及訓練ノ取扱ニ關スル件

教第九九六號學務部長通牒(昭和一六、八、二七)

最近時局ノ進展ニ伴ヒ青年學校生徒ニシテ國民徵用令ニ

○青年學校生徒ノ教授及訓練時數ノ取扱ニ關スル件

教第一〇九一號學務部長通牒(昭和一六、一一、二〇)

青年學校生徒ニシテ國民徵用令ニ依リテ徵用セラレタル場合ニアリテモ右生徒ニ對シテハ其ノ使用官衙或ハ管理工場若ハ作業場等ニ於テ青年學校或ハ青年學校令第十五條ノ施設等ニ就學セシムベキモノニシテ教授及訓練時數ニ關シテハ何等其ノ取扱ヲ異ニスルモノニアラザルニ付萬遺憾ナキヲ期セラレ度

追而徵用セラレタル生徒ニ對シテハ其ノ使用官衙或ハ管理工場若ハ作業場ニ於テ生徒ノ青年學校就學ニ支障ナキ様適當ノ措置ヲ講ゼラルベキ旨ナルモ萬一徵用ノ結果就學不能トナリタル如キ事例アラバ其ノ狀況報告相成度

○青年學校生徒ノ教授及訓練ノ取扱ニ關スル件

教第三〇四號學務部長通牒(昭和一七、四、二四)

第五編 青年學校

二三四

依ルコトナク國家的國防事業ニ參加スル者アル場合ハ現地ニテ軍當局ニ於テ計畫的ニ相當ノ教授及訓練ヲ實施シ證明書ヲ發行セラルルニ付右生徒ガ在籍學校ニ於テ當該期間内ニ受クベキ教授及訓練ノ取扱ニ關シテハ昭和十五年一月三十日附教第一六號例規通牒ニ準ジテ御取扱相成度

尙參加回數ノ増加又ハ期間ノ長期ニ及ビタル爲右ニ據ルヲ適當ト認メ難キ場合ヲ生ジタルトキハ文部大臣宛稟伺ノ要有之ニ付事情ヲ具シ岡山縣知事宛御伺出相成度

(備考)

一、昭和十五年一月三十日附教第一六號通牒參照ノ上取扱上遺憾ナキヲ期スルコト

二、右事業ニ參加シ其ノ證明書ヲ受得シタル生徒ノ教授及訓練時間數ハ其ノ學年中ニ於ケル教授及訓練時數ノ五分ノ一ヲ超ユルヲ得ザルコト

若シ五分ノ一ヲ超ユル場合ハ前記尙々ニ依リ伺出ノコト

今般大日本青年團ニ於テハ同團事業トシテ神宮營場造成勤勞奉仕作業計畫實施中ノ處青年學校生徒ヲシテ右奉仕作業ニ從事セシメタル場合當該生徒ノ青年學校ニ於ケル教授及訓練時數ノ取扱ニ關シテハ左記ノ通り御處理相成様致度此段通牒ス

記

一、生徒ノ居住地出發ヨリ歸郷ニ到ル迄ノ期間在籍學校ニ於テ當該生徒ノ受クベキ教授及訓練課目及其時數ハ之ヲ履修シタルモノトシテ取扱フコトヲ得ルコト

二、前項時數ヲ青年學校ニ於ケル教授及訓練時數ト認メ得ル時數ノ取扱ニ關シテハ昭和十四年十二月二十八日發社第二九二號通牒ノ四及昭和十六年三月二十二日發社第七七號通牒ノ二ニ依ルコト

○青年學校生徒ノ教授及訓練ノ取扱ニ關スル件

教第二二五號學務部長通牒(昭和一七、五、七)

防空監視隊ニ服務セル青年學校生徒ノ教授及訓練ノ取扱

二三五

青年學校教授及訓練科目要旨

ニ關シテハ昭和十三年一月二十日發社第一五八號「防空監視哨ニ服務セル青年學校生徒ノ教練科修得時數ニ關スル件」ニ依リテ御處理相成居昭和十七年四月以降ニ於ケル當該生徒ノ教授及訓練時數ノ取扱ニ關シテハ昭和十四年十二月二十八日發社第三九二號ニ依リ御取扱相成様文部省社會教育局長ヨリ通牒有之タルニ付移牒ス
追而青年學校生徒ニシテ國民勤勞報國協力令第三條第三項ノ規定ニ依ル國民勤勞報國隊ニ參加セル場合ノ教授及訓練時數ノ取扱ニ關シテモ同ジク發社第三九二號通牒ニ依リ取扱フコトト致度爲念申添候

○青年學校教授及訓練科目要旨

文部省訓令第一九號(昭和一〇、八、二二)
改正 昭和一四第一三號昭和一六第一二號

北海道廳 府縣

青年學校教授及訓練科目要旨左ノ通定ム地方長官ハ青年學校ヲシテ本要旨ニ準據シテ土地ノ情況ニ適切ナル教授及訓練ヲ爲シ以テ青年學校令第一條ノ本旨ヲ達成セシメ

シコトヲ期スベシ

青年學校教授及訓練科目要旨

青年學校ニ於テハ常ニ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ體シテ生徒ヲ教養シテ左ノ事項ニ留意シテ教授及訓練ヲ爲スベシ

- 一、忠君愛國ノ大義ヲ明ニシ獻身奉公ノ心操ヲ確立スルコトニカムベシ
- 二、青年期ノ特性ニ鑑ミテ向上ノ精神ト潤達ナル氣風トヲ助長シ情操ヲ豊ニシ健全ナル生活ノ自覺ニ導クベシ
- 三、鍛鍊ヲ旨トシ鞏固ナル意志ト強健ナル身體トヲ育成スベシ
- 四、創造ヲ尙ビ勤勞ヲ樂ミ生業ニ勵ムノ習慣ヲ養フベシ
- 五、各教授及訓練科目ヲ相互ニ聯絡補益セシメ實際生活ニ即シテ知能ヲ啓發スベシ

修身及公民科

修身及公民科ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キテ德性ヲ涵養シ公共生活ヲ完ウスルニ足ルベキ性格ヲ育成シ殊ニ我が國體ノ本義ト立憲自治ノ精神トヲ體得セシムルヲ以テ要旨トス

修身及公民科ハ道德ノ要領並ニ日常生活ニ適切ナル法制上、經濟上及社會上ノ事項ヲ授ケ尙女子ニ在リテハ特ニ婦德ノ涵養ニ資スベキ事項ヲ加フベシ

注意

- 一、修身及公民科ニ於テハ生徒ノ年齢、境遇及男女ノ特性ヲ考慮シテ其ノ實際生活ニ適切ナル事項ヲ授ケ實踐躬行ニ導クベシ
- 二、國民ノ記念スベキ日、忠良賢哲ノ記念日及教訓ニ資スベキ事件ノ生ジタル時等ニ於テハ之ニ因ミテ適宜教訓スベシ
- 三、時事ヲ取扱フ場合ニ於テハ穩健中正ヲ期シ之ニ對スル正シキ批判力ヲ養フコトニカムベシ

普通學科

普通學科ハ日常生活ニ須要ナル普通ノ知識技能ヲ増進シ一般の教養ヲ高ムルヲ以テ要旨トス
普通學科ハ國語及國史ニ關スル事項ヲ授クルノ外地理、數學、理科、音樂等ニ關スル事項ニ就キ土地ノ情況ニ應ジテ適宜之ヲ授クベシ

注意

第五編 青年學校

職業科

職業科ハ職業ニ須要ナル知識技能ヲ修練セシメ兼ネテ職業生活ノ社會的意義ヲ體得セシムルヲ以テ要旨トス職業科ハ農業、工業、商業、水産其ノ他ノ職業ノ中ニ就キ土地ノ情況ニ適切ナル事項ヲ授クベシ

注意

一、職業科ニ於テハ特ニ修身及公民科トノ聯絡ヲ保チ

- 職業ヲ通ジテ徳性ヲ涵養スルコトニ留意スベシ
- 二、職業科ハ生徒ノ職業生活ニ適切ナル事項ニ留意シテ之ヲ授クベシ
- 三、職業科ニ於テハ研究心ヲ養ヒ工夫創作ノ力ヲ陶冶スルコトニ留意スベシ
- 四、職業科ニ於テハ特ニ實驗實習ヲ重ンズベシ
- 五、職業科ニ於テハ努メテ地方産業トノ聯絡ヲ保チテ隨時見學等ヲ爲サシムベシ

家庭科

家庭科ハ家事及裁縫ニ關スル知識技能ヲ修練セシメ兼ネテ堅實ナル家庭生活ヲ營ムノ能力ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

家庭科ハ家事、裁縫及手藝ニ就キ土地ノ情況ニ應ジテ家庭生活ノ實際ニ適切ナル事項ヲ授クベシ

注意

- 一、家庭科ハ家庭生活ノ整理ト改善トニ資スルコトニ留意シテ之ヲ授クベシ
- 二、家庭科ニ於テハ趣味ノ向上ヲ圖リ工夫力ヲ練リ節約、利用、清潔、整頓等ノ習慣ヲ養フコトニカムベシ

シ

- 三、家庭科ニ於テハ實驗實習ヲ重ンズベシ

體操科

體操科ハ身體ヲ強健ニシ其ノ動作ヲ輕快敏捷ナラシメ容儀ヲ整ヘ剛毅快活ノ精神ト規律ヲ重ンジ協同ヲ尙ブノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操科ハ體操、教練、競技及遊戲等ニ就キ適宜之ヲ授クベシ

注意

- 一、體操科ハ生徒ノ身體ノ發育情況及男女ノ特性ヲ考慮シテ之ヲ授クベシ
- 二、體操科ニ於テハ職業等ニ因ル固癖ヲ矯正スルコトニ留意スベシ

教練科

教練科ハ生徒ニ軍事的基础訓練ヲ施シ至誠盡忠ノ精神ヲ涵養スルヲ根本トシ心身一體ノ實踐鍛練ヲ行ヒ以テ其ノ資質ヲ向上シ國防能力ノ増進ニ資スルヲ要旨トス

教練科ハ教練、武道、體操及競技ニ就キ之ヲ授クベシ

其ノ目的達成ノ爲左ノ要綱ニ依リ整正嚴格ニ訓練シ其ノ

成果ヲ生徒ノ全生活ニ具現實行セシムルニカムベシ

- 一、國體ノ本義ニ透徹シ國民皆兵ノ眞義ニ則リ左ノ徳性ヲ陶冶スベシ
 - (一) 禮儀ヲ重ンジ長上ニ服従スルノ習性
 - (二) 氣節、廉恥ノ精神、質實剛健ノ氣風
 - (三) 規律、節制、責任觀念、堅忍持久、瀾達敢爲、協同團結等ノ諸徳
- 二、旺盛ナル氣力、鞏固ナル意思、強靱ナル身體ヲ鍛練スベシ
- 三、皇國民トシテ分ニ應ジ必要ナル軍事ノ基礎的能力ヲ體得セシムベシ

○青年學校教授及訓練ノ強化徹底ニ

關スル件

內政部長依命通牒(昭和一七、一二、一二)

(地方事務所長 市長 青年學校長宛)

大東亞戰爭第一周年ヲ迎ヘ國民齊シク感激ヲ新ニシ慮々必勝ノ信念ヲ堅クシ國家ノ總力ヲ擧ゲテ征戰目的の完遂ニ

邁進スベキノ秋勤勞青年教育ノ劃期的振興充實ヲ圖リ專ラ戰力強化ニ貢獻セシムルハ洵ニ喫緊ノ要務ト存ゼラルルニ付テハ此ノ際青年學校教育關係者ヲシテ銳意職務ニ精勵セシムルト共ニ青年學校教授及訓練科目要旨及要目ノ運用ニ關シ特ニ左記事項ニ留意シテ時局ニ即應スル教授及訓練ノ強化徹底ヲ期シ以テ國家ノ要望ニ副ハシムル様格段ノ御配慮相成度此ノ段依命通牒ス

記

- 一、教育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ奉體シテ皇國ノ道ヲ修練セシメ國體ニ對スル信念ヲ深メ至誠盡忠ノ精神ヲ涵養振作シ臣民タルノ本分遂行ヲ期セシムルコト
- 二、我が國ノ世界ニ於ケル地位ト使命トヲ明ニシ大東亞建設ノ道義的使命ヲ體得セシメ剛健ナル身心ト雄渾ナル氣宇ト強靱ナル實踐力トヲ養ヒ大東亞ニ於ケル指導的國民タルノ資質ヲ練成スルコト
- 三、國防ノ意義ヲ明ニシ文武一體ノ精神ニ基キ身心一如ノ實踐鍛練ヲ行ヒ國防能力ノ増強ニカメシムルコト
- 四、勤勞ノ本義ヲ明ニシ技能ノ練磨向上ニカメ職分奉公ニ挺身セシメ生産力増強ニ貢獻セシムルコト

青年學校ノ教授及訓練時刻ニ關スル件

- 五、體力ノ國家的意義ヲ明ニシ鍛鍊ヲ旨トシ保健衛生ニ留意シ體力ノ増進ニ力メ國民的活動力ト民族發展ノ根基ニ培フコト
- 六、我が國ノ家ノ本義ヲ明ニシ家庭生活ノ國家的意義ヲ體得セシメ堅實ナル國民生活ノ建設實踐ヲ期セシムルコト
- 七、學校家庭社會ヲ一體トシテ教育訓練ヲ行ヒ生徒ノ生活ト個々ノ實情ニ即シテ實踐的指導ヲ行フコト

○青年學校教授及訓練要目

文部省訓令第二三號(昭和一二、五、二九)
改正 昭和一三第三三號、第二七號、一四年第一三號、一六年第一三號
(本文畧)

○青年學校指導要項ニ關スル件 (本文畧)

發社第二七六號文部省社會教育局長通牒
(昭和一六、一〇、一三)

○青年學校教練科等查閱令

(勅令第二四九號昭和一〇、八、一〇)
陸軍大臣ハ陸軍現役將校ヲシテ青年學校令又ハ昭和十年勅令第九十一號ニ依ル青年學校ニ於ケル教練科及兵役法施行令第三十一條第三項ノ規定ニ依リ其ノ課程ヲ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル學校(陸軍現役將校學校配屬令又ハ大正十四年勅令第二百四十六號ニ依リ陸軍現役將校ヲ配屬シタル學校、陸軍現役將校學校配屬令第五條第一項ニ掲グル學校及陸海軍所屬ノ學校ヲ除ク)ニ於ケル青年學校教練科相當科目ニ關スル查閱ヲ爲サシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正十五年勅令第七十八號ハ之ヲ廢止ス

參 照

大正十四年七月三日公布勅令第二百四十六號ハ文部大臣所轄外ノ學校ニ陸軍現役將校ヲ配屬スルノ件、同十五年四月二十四日公布勅令第七十八號ハ青年訓練第五編 青年學校

各地方長官宛
青年學校教育關係者ノ參考ニ資セシムル爲青年學校ニ於ケル普通學科教授及訓練要目中音樂及數學ニ關スル指導要項各一部送付候ニ付爾今要項ヲ基準トシテ指導セシメラルル様管下青年學校長ニ周知徹底方御取計相成度此段依命通牒ス

○青年學校ノ教授及訓練時刻ニ關スル件

教第一〇九六號學務部長通牒
(昭和一六、一一、二〇)

緊迫セル國家内外ノ情勢ニ即應シ青年學校教育ノ飛躍的發展ヲ圖ルハ時局下喫緊ノ要務ト被存候處就中青年學校教授及訓練ヲ查閱ニ於テ實施シ青年體位ノ向上ト教授及訓練ノ徹底ヲ期スルハ此際極メテ重要ト被認ニ付未ダ晝間ニ於テ教授及訓練ヲ實施シ居ラザル向ニアリテハ極力之ガ實施方御配意相成度文部省ヨリ通牒ノ次第モ有之此段及通牒候

練所ニ於ケル教練查閱ニ關スル件ナリ

○青年學校教練科等查閱規程

陸軍省令第八號(昭和一〇、八、一三)
沿革 昭和一一、四陸軍省令第一〇號改正

第一條 昭和十年勅令第二百四十九號ニ依ル青年學校等ニ於ケル教練科等ノ查閱ハ各青年學校(其ノ課程ヲ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル學校ヲ含ム以下同ジ)ニ於ケル教練科(其ノ課程ヲ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル學校ニ在リテハ青年學校ニ於ケル教練科相當科目以下同ジ)ノ情況ヲ檢シ當該青年學校ノ課程ヲ修ムル者ガ兵役ニ關スル特別ノ資格ヲ具備スルヤ否ヤヲ考察スルト共ニ教練科ノ進歩發達ニ資スルヲ以テ目的トス

第二條 青年學校ニ於ケル教練科ニ關スル查閱ヲ爲サシムル將校ヲ青年教練查閱官ト稱ス

第三條 青年教練查閱官ハ師團長又ハ軍司令官(朝鮮軍司令官ヲ除キ中支方面ニ於ケル陸軍最高指揮官ヲ含ム

青年學校教練科等查閱規程

二四二

以下同ジ)其ノ部下將校ノ中ヨリ之ヲ命ズ但シ師團長又ハ軍司令官ハ部下ニ非ザル將校ニ當該將校ノ在職スル部隊ノ長ト協議シ青年教練查閱官ヲ命ズルコトヲ得

期ニ關シ關係ノ地方長官(樺太ニ在リテハ樺太廳長官朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東州廳長官、滿洲國ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、支那ニ在リテハ領事官(明治三十二年法律第七十號第十九條ニ規定スル領事官ヲ謂フ)以下同ジ)ト協議スベシ

第四條 青年學校ニ於ケル教練科ニ關スル查閱ハ聯隊區(朝鮮、臺灣ニ在リテハ兵事區、關東州、滿洲國又ハ支那ニ在リテハ兵役法施行規則第八十一條ニ掲グル上欄ノ地域ニ從ヒ各其ノ下欄ノ軍司令官ニ於テ適宜定ムル區域以下同ジ)毎ニ若干名ノ青年教練查閱官ヲシテ分擔シテ之ヲ行ハシム

第九條 聯隊區司令官又ハ支那ニ在ル陸軍最高指揮官(兵役法施行規則第八十一條ニ掲グル下欄ノ者ヲ謂フ以下同ジ)ハ青年教練查閱日割表ノ調製及查閱場所ノ選定ニ關シ要スレバ支廳長、道知事、州知事、廳長、管理者(道府縣立學校ニ在リテハ學校長、私立學校ニ在リテハ設置者又ハ其代表者以下同ジ)又ハ學校長(道府縣立學校ノ學校長ヲ除ク以下同ジ)ト協議スベシ

第五條 師團長又ハ軍司令官ハ當該師管(兵役法施行規則第八十一條ニ掲グル下欄ノ軍司令官ニ在リテハ各其ノ上欄ニ掲グル地域ヲ謂フ以下同ジ)内ニ於ケル教練科ニ關スル查閱ヲ指揮監督ス

第十條 聯隊區司令官又ハ支那ニ在ル陸軍最高指揮官ハ

第六條 師團長又ハ軍司令官ハ教練科ニ關スル查閱ニ關シ查閱ノ要領其ノ他必要ナル事項ヲ青年教練查閱官ニ指示スベシ

三、將來ニ關スル意見
四、其ノ他必要ト認ムル事項

第七條 教練科ニ關スル查閱ハ各青年學校ニ付二年以内ニ少クトモ一回之ヲ行フヲ例トス

第十四條 師團長又ハ軍司令官ハ前條ノ報告書ノ内一通ヲ當該青年學校所管ノ地方長官、道知事、州知事及廳長ニ送付シ師團長、臺灣、關東軍司令官ニ在リテハ他ノ一通ヲ當該青年學校所在地ノ聯隊區司令官ニ交付スベシ

第八條 師團長又ハ軍司令官ハ教練科ニ關スル查閱ノ時

第十五條 師團長又ハ軍司令官ハ毎年左ノ事項ヲ記載シタル管内青年教練查閱報告書ヲ調製シ五月十日迄ニ陸軍大臣ニ提出スベシ

青年教練查閱官ノ擔任スベキ青年學校、查閱ノ場所及查閱日割ヲ定メ查閱ノ日ヨリ概ネ二十日前ニ之ヲ地方長官、道知事、州知事、廳長及青年教練查閱官ニ通知スベシ但シ聯隊區司令官ニ在リテハ該通知前豫メ師團長又ハ臺灣、關東軍司令官ノ認可ヲ受クルモノトス

一、第六條ノ規定ニ依リ指示シタル查閱ノ要領其ノ他ノ事項

第十一條 師團長又ハ軍司令官ハ豫メ聯隊區毎ニ分チタル青年教練查閱日割表ヲ陸軍大臣ニ報告スベシ

二、教練科一般ノ成績

第十二條 青年教練查閱官教練科ニ關スル查閱ヲ爲シタルトキハ當該青年學校ノ管理者立會ノ上學校長又ハ青年訓練所主事並ニ教練科ヲ擔任スル教諭、助教諭及指導員ニ對シ所見ヲ開示スベシ

三、將來ニ關スル意見
四、其ノ他必要ト認ムル事項

第十三條 青年教練查閱官ハ查閱ノ結果ニ基キ其ノ全般及各青年學校ノ教練科ニ付左ノ事項ヲ記載シタル報告書三通ヲ調製シ查閱終了後二十日以内ニ師團長又ハ軍司令官ニ提出スベシ

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正十五年陸軍省令第八號及昭和二年陸軍省令第十四號ハ之ヲ廢止ス

第五編 青年學校

二四三

青年學校課程修得者檢定規程

參照

大正十五年六月二十六日陸軍省令第八號ハ青年訓練所教練查閱規程、昭和二年七月十一日同十四號ハ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル青年訓練所ノ教練ノ查閱ニ關スル件ナリ

○青年學校教練科等查閱令ノ特例ニ

關スル件

勅令第四一七號(昭和二三、三、一六)

青年學校教練科等查閱令ニ依リ青年學校教練科等ノ查閱ヲ爲サシムベキ陸軍現役將校ハ當分ノ内昭和八年勅令第十二號ニ依リ充用シタル陸軍ノ豫備役若ハ後備役ノ各兵科佐、尉官又ハ戰時若ハ事變ニ際シ召集シタル陸軍ノ各兵科將校ヲ以テ之ニ代フコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參照

昭和八年二月十七日公布勅令第十二號ハ補充上ノ必

二四四

要ニ依リ陸軍ノ軍隊、官衙又ハ學校ニ於ケル佐、尉官ニ豫備役又ハ後備役ノ佐、尉官充用ノ件ナリ

○青年學校課程修得者檢定規程

陸軍省令第二三號(昭和一〇、一一、三〇)

第一條 青年學校ノ課程(昭和十年陸軍省令第一號ニ依リ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程ヲ含ム以下之ニ同ジ)ヲ修メ兵役法規第五十二條ノ三ニ規定スル證明書(學校教練檢定規程第五條第一項ニ規定スル教練檢定合格證明書ヲ除ク)ヲ有スル者現役步兵トシテ各師團(臺灣軍ヲ含ム以下之ニ同ジ)ノ步兵聯隊ニ入營シタルトキハ入營後成ルベク速ニ所屬中隊長(中隊長ニ準ズル部隊長ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ於テ檢定ヲ行ヒ其ノ結果ニ付聯隊長ノ認可ヲ受ケ合否ヲ決定スベシ
學校教練檢定規程第五條第一項ニ規定スル教練檢定合格證明書ヲ有スル者ハ前項ニ規定スル檢定ニ合格シタルモノト看做ス

第二條 師團長(臺灣軍ニ在リテハ軍司令官以下之ニ同ジ)ハ前條ニ規定スル檢定ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ豫メ步兵聯隊長ニ指示スルコトヲ得

第三條 步兵聯隊長ハ各中隊(中隊ニ準ズル部隊ヲ含ム)ニ於ケル檢定實施ヲ統一スル爲必要ナル處置ヲ講ズベシ

第四條 步兵聯隊長ハ檢定實施ノ期日ヲ定メ其ノ期日ノ概ネ二十日前迄ニ到着スル如ク師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ取纏メ檢定實施期日ノ概ネ十日前迄ニ陸軍大臣ニ報告スベシ

第五條 檢定合否ノ決定ニ當リテハ一般ニ受験者ノ徳性ニ重キヲ置キ尙之ニ教練ノ成績ヲ參酌スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ合格ト爲スコトヲ得ズ
一、青年學校ノ課程ヲ修メタル間ノ徳性及入隊後ノ狀況ニ依リ將來進歩ノ見込渺シト認メタル者
二、教練ノ成績不良ナル者
中隊長檢定ノ合否ヲ決定シタルトキハ之ヲ本人ニ通告スベシ

第六條 檢定ノ課目ハ概ネ左ノ各號ニ依リ其ノ程度ハ附

第五編 青年學校

表ニ依ル

一、教練術科中適宜ノ課目

二、教練ニ關スル試問應答但シ必要ニ應ジテ一部ヲ筆記答解セシムルコトヲ得

第七條 步兵聯隊長ハ每年初年兵入營後五十日以内ニ左ノ事項ヲ記載シタル檢定報告書ヲ師團長ニ提出シ且同

一、事項ヲ關係聯隊區司令官ニ通知スベシ

一、檢定ノ方法

二、青年學校課程修得者檢定調査表(附錄第一様式)

三、青年學校課程修得者檢定結果表(附錄第二様式)

四、將來ニ關スル意見

五、其ノ他必要ト認ムル事項

第八條 師團長ハ每年初年兵入營後七十日以内ニ到著スル如ク左ノ事項ヲ記載シタル檢定報告書ヲ調製シテ陸軍大臣ニ提出シ且前條ノ檢定結果表ヲ關係ノ地方長官又ハ樺太廳長官ニ送付スベシ

一、第二條ノ規定ニ依リ指示シタル事項

二、前條ノ規定ニ依リ檢定ニ關シ各聯隊長ヨリ提出シタル報告書(檢定結果表ヲ除ク)

二四五

青年學校課程修得者檢定規程

二四六

- 三、將來ニ關スル意見
- 四、其ノ他必要ト認ムル事項
- 第九條 本規程ハ教育ノ爲歩兵隊ニ召集セラレタル者ニシテ第一條第一項ノ證明書ヲ有スルモノニ之ヲ準用ス
- 第十條 各師團ノ歩兵聯隊ニ入營シタル歩兵、衛生部兵及輜重兵特務兵以外ノ陸軍兵トシテ徵集セラレタル者ニシテ第一條第一項ノ證明書ヲ有スルモノニ付テハ同

條ニ規定スル檢定ニ合格シタル者ト看做ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 學校教練及青年訓練修了者檢定規程第二章ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケ合格シタル者ハ本規程ニ依リ檢定ヲ受ケ合格シタルモノト看做ス

附表

教練程度表

教材	程度
各個教練	一、各個教練ハ畧完全ニ修得シ居ルコト 二、射撃ノ姿勢ハ徒手又ハ執銃ニ於ケル各種ノ姿勢ヲ畧完全ニ、据銃、照準、擊發ハ其ノ概要ヲ修得シ居ルコト
部隊教練	三、部隊教練ハ密集ノ動作ニ付分隊、小隊教練共畧確實ニ、疎開ノ動作ニ付分隊教練ハ畧確實ニ小隊教練ハ其ノ概要ヲ會得シ居ルコト
陣中勤務	四、陣中勤務ハ搜索及警戒ニ關シ斥候及復哨動作ニ付其ノ概要ヲ、距離測量ニ關シ歩測及目測ノ要領ヲ畧正確ニ、救急法ニ關シ應急ノ處置ニ付其ノ概要ヲ、其ノ他ハ各個ノ動作ヲ會得シ居ルコト

附錄第一様式

備考	軍事講話
備考	五、軍事講話ハ平時團隊ノ配置、各兵科ノ性能、武官ノ階級、軍隊生活、服役ノ大意、典令範中必要ノ事項等ニ付其ノ概要ヲ會得シ居ルコト 六、體操ハ基本體操ニ付畧完全ニ、其ノ他ハ概要ヲ會得シ居ルコト
備考	教材ハ青年學校教練科教材配當及進度參考表中ノ教材ヲ標準トス

青年學校課程修得者檢定調査表

步兵第 聯隊

備考	(イ) 檢定當時在營初年兵員		(ニ) 學校教練檢者ヲ有スル者	(ホ) 青年學校ノ課程ヲ修メタル者	(ヘ) 青年學校ノ課程ヲ修メザル者	摘 要
	合格者	不合格者				
	第一條ニ規定スル檢定ヲ受ケタル者					

註記

- 一、隊附看護兵ハ本表ヨリ除クモノトス
- 二、不合格者ニ付テハ其ノ事由ヲ總括シテ摘要欄ニ記入スルモノトス

第五編 青年學校

二四七

青年學校課程修得者檢定規程

附錄第二樣式

青年學校課程修得者檢定結果表 (何府縣ノ分)		
入營總人員	檢定人員	檢定合格人員
		檢定不合格人員

步兵第 聯隊

註記

本表ハ入營者ノ本籍ニ付府縣毎ノ人員ヲ計上スルモノトス

○青年學校課程修得者檢定規程

海軍省令第一號昭和(一一、一、八)

改正 昭和一二年第二七號

第一條 兵役法又ハ兵役法施行令第七條第一項ノ規定ニ依リ徵集又ハ採用セラレタル海軍兵ニシテ青年學校ノ課程(昭和十年陸軍省令第一號ニ依リ青年學校ノ課程ト同等以上ト認ムル課程ヲ含ム)ヲ修メ兵役法施行規

則第五十二條ノ三ニ規定スル證明書ヲ有スル者入團シタルトキハ鎮守府司令長官ハ海兵團長ヲシテ成ルベク速ニ本檢定ヲ實施セシムベシ但シ昭和十年陸軍省令第二十二號學校教練檢定規程第五條第一項ニ規定スル教練檢定合格證明書ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラズ
第二條 檢定ノ種別竝ニ課目及其ノ程度ハ概ネ左表ニ依ル

種別	課目	程度
人	品性及德性	青年學校手帳、壯丁名簿、身ト調書其ノ他ニ就キ調査シタル判定及入團後ノ考課ニ依ル
物	海軍軍事一般	海軍ノ任務、海軍軍人ノ階級、艦船ノ種類及性能、主要兵器ノ概畧、海軍生活等ニ關スル一般常識ヲ會得シ居ルコト
考	各個教練	徒手各個教練ハ畧完全ニ修得シ居ルコト
查	部隊教練	分隊教練及簡單ナル小隊教練ヲ會得シ居ルコト
練	陸戰要務	搜索、偵察及警戒ニ關スル各個動作ニ付一般要領ヲ會得シ居ルコト
檢		
定		

第三條 鎮守府司令長官ハ檢定ニ關シ必要ト認ムル細項ヲ指示スベシ

第四條 海兵團長ハ檢定實施後三十日以内ニ檢定成績ニ意見其ノ他必要ト認ムル事項ヲ附シ之ヲ鎮守府司令長官ニ提出スベシ
鎮守府司令長官ハ前項ノ成績ヲ審査シテ合格者ヲ決定シ其ノ綜合成績ニ意見ヲ附シ檢定實施方案ヲ添ヘ之ヲ

新兵入團後五十日以内ニ海軍大臣ニ提出シ且海軍人事部長ヲシテ左ノ各號ノ事項ヲ關係ノ師團及聯隊區司令官ニ、第一號、第四號及第五號ノ事項ヲ關係地方廳ニ通知スベシ
一、檢定實施要領
二、青年學校課程修得者檢定成績表(樣式第一)
三、學校教練合格者調書(樣式第二)

第五編 青年學校

青年學校課程修得者檢定規程

二五〇

- 四、青年學校課程修得者檢定綜合成績表（様式第三）
 五、意見其ノ他必要ト認ムル事項
 第五條 第一條但書ノ規定ニ該當スル者ハ之ヲ本規程ニ依ル檢定ニ合格シタル者ト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

青年訓練修了者檢定規程ハ之ヲ廢止ス
 青年訓練修了者檢定規程ニ依リ檢定ヲ受ケ合格シタル者ハ本規定ニ依リ檢定ヲ受ケ合格シタル者ト看做ス
 附則（昭和十二年海軍省令第二十七號）
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式第一

青年學校課程修得者檢定成績表

、兵 聯隊區

出 身 郡 市 町 村	修 得 年 度	課 程 修 得 時 間	卒 業 證 明 書	學 歷	檢 定 成 績	合 不 格	入 籍 番 號	氏 名
身 體 性 能	品 性	考 查 物	海 軍 一 般 教 練	各 個 部 隊 陸 戰 要 務 計				

備 考

- 一、本表ハ聯隊區毎ニ兵種別ニ區分シ各別紙ニ調製スルモノトス
 二、人物考査ハ甲乙丙ノ三種ニ區分記入シ、教練檢定

- ハ各課目ニ五點合計一〇〇點トシ八〇點以上ヲ甲、四〇點以上八〇點未滿ヲ乙、四〇點未滿ヲ丙トス
 三、總評ハ檢定成績ヲ綜合シテ甲乙丙ノ三種ニ區分スルモノトス

様式第二

學校教練檢定合格者調書

、兵 聯隊區

學 歷	出 身 學 校 名	人 物 考 査	入 籍 番 號	氏 名
-----	-----------	---------	---------	-----

備 考 本調書ハ聯隊區毎ニ兵種別ニ區分シ各別紙ニ調製スルモノトス

様式第三

青年學校課程修得者檢定綜合成績表

、兵 聯隊區

第五編 青年學校

二五一

事項	新兵		檢定ヲ		成績		資格	不合格	丙	合格者	教 練 校	青年學校ノ課程ヲ修メタル者	青年學校ノ課程ヲ修メザル者
	入團員數	受ケタル員數	甲	乙	計								
水兵													
兵													

備考

- 一、本表ハ聯隊區毎ニ各別紙ニ調製スルモノトス
- 二、比率ハ新兵入團員數ニ對スル千分比トシ各事項毎ニ記入スルモノトス

○青年學校課程修得者ニ附與スベキ
 證明書ニ關スル件

教第一三五七號學務部長通牒
 (昭和二三、一一、二四)

市青年學校ノ課程ト同等以上長
 青年學校ノ課程ト同等以上長
 認メラレタル課程ノ學校長

青年學校課程修得者ニ附與スベキ
 證明書ニ關スル件

青年學校手帳末尾ニ掲載ノ首標ノ様式兵役法ノ改正ニ件
 ヒ左記ノ通改正相成候ニ就テハ之ガ取扱ニ關シ遺漏ナキ
 フ期セラレ度及通牒候

記

(用紙規格紙半枚)

證明書

本籍地 何 縣何 郡何 町何 村何 番地

昭和何 年 徵集 何兵 氏

年 月 日生 名

右者兵役法施行令第三十四條第二項ノ規定ニ依リ
 陸軍大臣ノ定メタル程度ノ課程ヲ修得シタルコト
 ヲ證ス

昭和 年 月 日

何青年學校長 氏

名 園

第五編 青年學校

○昭和十三年陸軍省令第一號第一條

第一號ノ規定ニ依ル課程ノ認定ノ
 取扱方ノ件通牒

(昭和二三、一一、八各地方長官宛陸軍次官通牒)
 (陸普第七五五九號 文部次官)

首題ノ件ニ關シテハ昭和十年陸普第四〇九七號「昭和十
 年陸軍省令第一號第一條第一號ノ規定ニ依ル課程ノ認定
 ノ取扱ヒ方ノ件」ニ準シ取扱フコトニ定メラレタルニ付
 依命通牒ス

〔參照〕

昭和十年文部省令第一號第一條第一號ノ規定ニ依ル課
 程ノ認定ノ取扱方ノ件通牒

(昭和二三、一〇、七、一七各地方長官宛陸軍次官通牒)
 (陸普第四〇九七號 文部次官)
 首題ノ件ニ關シ左記ノ通取扱フコトニ定メラレタルニ付
 依命通牒ス

昭和三年陸軍文部省令第二號第二條第二號ノ規定ニ依ル課程ノ認定ノ取扱方ノ件通牒 二五四

左記

- 一、昭和十年^{陸軍}文部省令第一號第一條第一號ノ規定ニ依ル課程ノ認定ニ關シテハ道府縣立學校ニ在リテハ學校長、其ノ他ノ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ヨリ左記事項ヲ具シ申請セシムルコト
- 一、目的
- 二、名稱
- 三、位置
- 四、認定ヲ受ケントスル課程
- 五、學則
- 六、第四號ノ課程ノ學課目ヲ擔任スル職員ノ氏名、資格、履歷及專任兼任ノ區別
- 七、第四號ノ課程ヲ修ムル生徒ノ學年別及年齡別人員數
- 八、屋外體操場ノ區域及面積
- 二、課程ノ認定ヲ爲スベキ學校ハ概ネ左ノ標準ニ依ルモノトシ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ當該課程ヲ授クルニ足ルベキ相當ノ教員及設備ヲ具フルコト

- 一、尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年(高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル學校ニ在リテハ一年其ノ他之ニ準ズ)以上ノ學校ナルコト
- 二、認定ヲナスベキ課程ハ各學年ニ付青年學校ニ於ケル修身及公民科ニ該當スル學課目三十時、普通學科及職業科(又ハ普通學科ノミ)ニ該當スル學科目百八十時、教練科ニ該當スル學科目九十時以上ヲ課スルコト
- 三、課程ノ認定ヲ爲シタル學校ニ於テ目的、名稱、位置及學則ヲ變更スルトキハ豫メ之ヲ開申セシムルコト
- 四、課程ノ認定ヲ爲シタル學校ニシテ第二項ニ該當セザルモノアリト認ムルモノ又ハソノ成績不良ナリト認ムルモノニ對シテハ師團長ニ協議ノ上將來ニ向テ其ノ認定ヲ取消スコト
- 五、課程ノ認定ヲ爲シタルトキハ其ノ都度左記事項ヲ具シ陸軍大臣及文部大臣ニ夫々報告スルコト
- 一、目的

- 二、名稱
- 三、位置
- 四、設立者
- 五、認定ヲ爲シタル課程
- 六、學則
- 七、認定ノ年月日
- 六、課程ノ認定ヲ取消シタルトキハ左記事項ヲ具シ陸軍大臣及文部大臣ニ夫々報告スルコト
- 一、名稱
- 二、取消ノ事由
- 三、取消ノ年月日
- 七、從前青年訓練所規程第八條ニヨリ課程ノ認定ヲ爲シタル學校ニ關シテハ前項ニ準ジ報告スルコト

標記ノ件ニ關シ姫路師團ヨリ通牒ノ次第モ有之爾今青年學校長ハ教練ノ際ニ於テ指揮刀ヲ帶ブル様致度及通牒候追而服裝ハ軍籍ニアルモノハ軍服其ノ他ノ場合ハ國民服又ハ訓練服ヲ着用相成度

○在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程及地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程ノ修得時數竝ニ其ノ取扱ニ關スル件

教第二一九號例規(昭和一〇、一一、一九)

○教練ノ際ニ於ケル青年學校長帶刀ニ關スル件

關スル件

教第一一四一號學務部長通牒 (昭和一六、一一、二〇)

第五編 青年學校

首標ノ件ニ關シテハ昭和十年六月五日^{陸軍}文部省令第一號及同年六月八日^{陸軍}省令第六號並ニ同年六月十日^{陸軍}省令第七號ヲ以テ示達相成居候處之ヲ左記ノ通簡約致候ニ付御研究ノ上事務取扱上遺憾ナキヲ期セラレ度

記

第一、在營期間短縮ノ爲必要ナル青年學校ノ課程又ハ地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課

二五五

程ノ修得程度ニ關シテハ左ノ各號ニ依ルモノトス
(一) 青年學校ノ本科又ハ本科及研究科ニ四年以上在學シソノ課程ニツキ

修身及公民科 一〇〇時
普通學科及職業科ヲ通ジ 二五〇時
教練科 三五〇時

以上修メタルコト

(二) 地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程

(青年學校令施行前ニ於テ青年訓練所規程第八條ノ規定ニ依リ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ハ昭和十年六月五日陸軍省令第一號附則第一項ニヨリ地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ト看做サル)ヲ年齡十四年(每年三月三十一日ヲ基準トス)以上ニ於テ四學年以上修了シ

以上ヲ修メタルコト

三五〇時

(三) 左記各項ニ掲グル課程ニ付其ノ二以上ノ課程ヲ修メタル期間ヲ通算シ概ネ四年以上ニ達シ其ノ間ニ於テ第(一)號ノ科目ニ該當スル科目ニツキ同號ニ規定サルル時數以上ヲ修メタルコト
青年學校ノ本科又ハ本科及研究科
地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認メタル課程

現役將校ヲ配屬シタル學校
現役將校ヲ配屬セザル商船學校
陸軍大臣及文部大臣ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定シタル學校

備考

青年學校ノ課程又ハ之ト同等以上ノ課程ヲ修ムル以前ニ於テ青年訓練所ノ訓練又ハ之ト同等以上ト認ムル訓練ヲ受ケタル者ノ當該訓練期間及訓練時數ハ前掲第一ニ示ス期間及時間數ニ通算サル

第二、(略)

取扱ニ關スル注意

一、在營期間ヲ短縮セラルベキ時數ヲ修得シタル者ニ對

シテハ青年學校長又ハ之ニ準ズベキ者ハ當該課程ノ修得ニ關シ、署名捺印シタル證明書ヲ授與スルコト(青年學校ニ於テハ青年學校手帳ニ依リ之ヲ證明スルコト)
二、從來青年訓練手帳ヲ使用セシモノハ之ヲ以テ青年學校手帳ニ代用スルモ差支ヘナシ

(一) 青年學校ノ振興ニ關スル件

發社第一七一號文部次官通牒(昭和一七、五、二二)

昨年五月二十二日 畏クモ全國男女青年學徒ニ對シ御親閱ヲ賜フ 聖慮深遠寔ニ恐懼感激ニ堪ヘザル所ナリ青年教育關係者ハ 聖慮ヲ奉體シテ日夜斯教育ノ振興ニ努力シツツアルコトト存ズルモ這般米英兩國ニ對スル宣戰ノ大詔ヲ拜シ愈々青年教育ノ重要性ヲ加フルニ到レルヲ以テ茲ニ御親閱一周年ヲ迎フルニ方リ青年教育關係者ヲシテソノ感激ヲ新タナラシムルト共ニ左記事項御參照ノ上時局ニ即應シテ一層青年教育ノ振興ヲ企圖シ之ガ徹底ニ關シ萬遺憾ナキヲ期セラレ度此段依命通牒ス

記

一、青年學校ノ教育ハ特ニ教授及訓練ノ實際化、生活化ニヨリ教育ノ充實徹底ヲ期スルコトヲ得ベシ從テ青年ノ日常生活ヲ自發的ニ共勵切磋スベキ青少年團ノ教育訓練ト相俟テ之ガ實現ニ努ムルコト緊要ナリ大日本青少年團ハ昨年一月新ニ結成セラレ今ヤ其ノ旺盛ナル活動ヲ所期スベキトキニ際シ青年學校ハ青少年團ト不離一體ノ關係ノ下ニ愈々其ノ充實進展ヲ期スルコト尙大日本青少年團通牒戰時實踐指針ニ就テハ時局下其ノ本旨ニ鑑ミ之ガ趣旨ノ徹底ヲ圖ルコト
一、修身及公民科、普通學科、職業科、家庭科等ノ教授及訓練ハ大東亞共榮圈ノ指導者タルベキ皇國青年育成ノタメ益々其ノ充實徹底ヲ圖ルノ要アリ特ニ教授及訓練要目ハ時局下國家ノ要請ニ鑑ミ其ノ運用宜シキヲ得ルト共ニ別紙青年學校教授及訓練視閱標準要項參照ノ上教授及訓練ノ徹底ノ方途ヲ講ズルコト
二、教練科ノ振興ヲ圖ルハ最モ重要ナルヲ以テ之ガ振作向上ヲ期スルタメ青年學校ニ教練實施ニ適合スル組織ヲ編成セシメ學校長ヲ中心トシテ全職員協力一致命令

青年學校ノ振興ニ關スル件

系統ヲ確立シテ脈絡一貫指導スルノ實ヲ舉ゲルニ力ムルヲ要ス之ガタメ青少年團ノ組織及訓練ト照合シ別紙青年學校ニ於ル教練振興隊編成標準要項参照ノ上青年學校ニ教練振興隊ヲ編成シ教練科ノ實施並ニ演習、行軍等ノ際ハ此ノ編成ヲ活用シ運用宜シキヲ得以テ教練科ノ充實徹底ヲ圖ルコト

青年學校教授及訓練視閲標準要項

- 一、青年學校教授及訓練視閲ハ青年學校ニ於ル教育ヲ視察指導スルト共ニ其ノ實績ヲ查察シテ之ガ充實振興ヲ圖ルヲ以テ目的トスルコト
- 二、青年學校教授及訓練視閲ハ之ヲ綜合視閲及特別視閲トスルコト
- 三、綜合視閲ハ施設經營、教授及訓練、設備等ヲ視閲シテ青年學校教育ノ健全ナル發達ヲ期スルコト特別視閲ハ一定ノ計畫方針ニ基キ重點主義ニ依リテ其ノ主眼トスル所ニ從ヒ視閲スルコト
- 四、綜合視閲ハ學務部長ヲ主任、青年教育主管課長ヲ副主任トシ青年教育官、文部省青年學校視學委員、社會

教育主事等協同シテ之ヲ行フコト

- 五、特別視閲ハ適當ノ人選ニ依ル視閲者ヲ以テ視閲スルコト
 - 六、視閲ニ當リテハ適宜指示、注意ヲナシ指導方針ノ徹底ヲ圖ルコト又學校管理者、設立者、學務委員、當該市町村內ノ有力者（私立青年學校ニ在リテハ當該會社工場等ニ於ル幹部）其ノ他ノ青年教育關係者ト共ニ斯教育ノ刷新振興ニ關シ協議ヲ遂グルコト
 - 七、視閲ニ關スル細目ハ地方ノ實情ニ應ジ地方長官ニ於テ適宜之ヲ定ムルコト
- 青年學校ニ於ケル教練振興隊編成標準要項
- 一、青年學校ノ教練振興隊ハ何青年學校教練振興隊ト呼稱スルコト
 - 二、教練振興隊ハ全校一致協力シテ教練科ノ振興ニ當リ其ノ教授及訓練ノ充實徹底ヲ期スルヲ以テ目的トスルコト
 - 三、教練振興隊ハ學校長ヲ中心トシ教職員及生徒全體ヲ以テ編成スルコト

四、教練振興隊ハ左ノ標準ニ據ルコト

1. 本隊ハ學年又ハ學級ヲ基礎トシ學校ノ情況ニ依リ適宜大隊中隊小隊分隊等ニ分チテ編成ヲナスコト
2. 隊長ハ學校長トシ以下ノ長ハ其ノ任務ニ應ジ教職員中適當ナル者又ハ指揮能力ノ秀デタル生徒ヲ以テ之ニ充ツルコト
- 五、教練振興隊ハ各學校單一ノ編成ヲ原則トスルコト但シ二校以上聯合シテ演習ヲナス等ノ場合ハ參加校ノ聯合編成ヲナスヲ得ルコト

○青年學校後援會學務委員等ノ活動促進ニ關スル件

教第一〇九〇學務部長通牒（昭和一四、八、三）時局ニ鑑ミ青年學校教育ノ擴充進展ヲ期スルト共ニ青年學校教育義務制實施ヲ機トシテ青年學校年齡該當者全部就學出席ノ向上ヲ期シ度之ガ爲ニハ青年學校後援會ノ活動ヲ促進スルハ勿論這般公布相成タル青年學校令同施行規則並今般縣令ヲ以テ公布相成タル實施細則中ニ規定サ

第五編 青年學校

レタル青年學校學務委員ノ活動ニ俟ツハ機宜ノ策ト被存候ニ付右後援會學務委員等ノ活動促進應應方然可御配意相成度

○青年學校教練科擔任指導員ノ充實ニ關スル件

教第一〇八九號學務部長通牒（昭和一四、八、三）時局ニ鑑ミ青年學校ノ教練科ノ振作ヲ期スルハ緊要ノ事ト存候然ル處直接其ノ指導ニ當ル教練科擔任指導員數生徒數ニ比シ少數ナルタメ又ハ應召等ニヨル指導員ノ缺員未補充ノタメ教練科振興上遺憾ノ向モ有之哉ニ被存候就テハ指導員少數ノ向ハ増員ヲナシ或ハ應召等ノタメニ缺員ヲ生ジタル場合ハ至急補充スル等適宜ノ措置ヲ講ジ教練科振作ニ關シ格別ノ御配意相成度及通牒候

○喇叭教育ニ關スル件

學第二八三九號學務部長通牒（昭和二五、七、一六）喇叭吹奏ニ依リテ號令、命令ヲ傳ヘ志氣ヲ鼓舞スルコト

喇叭教育ニ關スル件

ハ教練ノ實績向上ノ爲ニモ其ノ他學校諸訓練實績向上ノ爲ニモ緊要ナルコトト存ジ候ニ就テハ喇叭吹奏ニ關シ一層御教育ノ上其ノ技術向上ニ御留意相成度
猶ホ本年ハ教練科關係ノ各種行事モ有之コトト存ジ候條九月末日迄ニハ各校必ズ生徒一名以上左記喇叭譜ノ吹奏出來得ル様御教育置相成度

記

- 1 陸軍喇叭譜
- 2 休メ
- 3 氣ヲ著ケ
- 4 前ヘ
- 5 止レ
- 6 集レ
- 7 突擊(襲撃)
- 8 速歩行進(其一及其二)

○青年學校生徒早朝訓練實施ニ關スル件

教第一九七七號學務部長通牒

(昭和一五、一二、一四)

昭和十四年五月二十二日畏クモ青少年學徒ニ對シ優渥ナ

ル勅語ヲ賜ヒ青少年學徒ノ擲フベキ道ヲ昭示シ給ヒ文ヲ修メ武ヲ練リ質實剛健ノ氣風ヲ振勵スベキヲ諭シ給フ聖旨悠遠洵ニ恐懼感激ニ堪ヘザル次第ニ有之候而シテ青年ノ心身ヲ鍛鍊シ資質ノ向上ヲ圖ルハ時局ニ鑑ミ愈々緊切ノ度ヲ加ヘ來タルヲ以テ今般左記要項ニ依リ青年學校生徒ニ對シ早朝訓練ヲ實施シ以テ聖旨ニ對ヘ奉リ併セテ時局ニ即應シテ青年ノ心身ヲ陶冶鍛鍊シ國防ノ根基ヲ培ヒ度存念ニ候條實施ニ關シ遺憾ナキ様配意相成度此段及通牒候

記

青年學校生徒早朝訓練實施要項

一、趣旨

青少年學徒ニ賜リタル勅語ノ御趣旨ヲ奉體シ質實剛健ノ氣風ヲ振勵シ聖旨ニ對ヘ奉ルト共ニ時局ニ鑑ミ青年ノ心身ヲ陶冶鍛鍊シ旺盛ナル氣力強靱ナル體力ノ鍊成ヲナシ其ノ資質ヲ向上セシムルハ洵ニ緊切ナル要務ナルヲ以テ縣下一圓ニ亘リ毎月一回青年學校生徒ニ對シ早朝訓練ヲ實施セントス

二、要領

1 日 時 毎月二十二日早朝

例

自四月 午前五時三十分
自九月 午前六時三十分
自十月 午前六時三十分
自三月 午前六時三十分
約二時間

2 實施種目

男子 教練、野外演習等
女子 強歩訓練、大日本女子青年體操、薙刀等

○青年學校ニ關スル調査報告ノ件

發社第一六一號昭和一一五、五、一八

各地方長官宛文部省社會教育局長通牒

標記ニ關スル報告方ニ付テハ昭和十一年三月三十一日發社第七一號ヲ以テ通牒相成タル處今同別紙ノ通改正シタルニ付自今本様式ニ依リ毎年七月末日限御報告相成様致度此段通牒ス

追而本調査様式中令トアルハ青年學校令、規則トアルハ青年學校令施行規則ノ畧稱ニ付念爲

(別紙様式) (註 表名ノミ掲グ)

第五編 青年學校

第一表 學校數調

第二表 課程別學校數調

第三表 教授及訓練期間調

第四表 職業科別學校數調

第五表 教授及訓練時刻情況調

第六表 生徒數調

第七表 職業科別生徒數調

第八表 義務就學者ノ就學情況調

第九表 修了者及卒業者數調

第十表 青年學校課程修得者數調

第十一表 學校長及教員數調

第十二表 專任教員數調

第十三表 擔當科目別專任教員數調

第十四表 專任教員設置情況調

第十五表 學校長及教員ノ待遇並ニ俸給手當調

第十六表 設備情況調

第十七表 獨立校舍ヲ有シ專任ノ學校長ヲ置ク學校數調

第十八表 教育事務委託情況調

第十九表 青年學校未設置市町村調

青年學校ニ關スル調査報告ノ件

第三表 經費豫算額調

第二表 經費支出學調

○青年學校一覽表ニ關スル件

教第七三七號(昭和一一、五、四)

青年學校規程實施細則第四十八條ニ依ル青年學校一覽表別紙ノ通相定メ候條左記記入要領參照毎年四月三十日現在ニヨリ作製ノ上五月二十日迄ニ正副貳通當廳宛御提出相成度及通牒候

記載要領

- 一、教授及訓練時數欄ニハ學則ニ規定シタル一ケ年間ノ時數ヲ記入スルコト
- 一、職員畧歷欄ニハ岡山師範一部卒、高松農學校卒等記入シ、教練指導員ニアリテハ豫後備別、兵種、階級等ヲ記入スルコト
- 一、就學狀況欄中
 - (1) 入學年齡該當者總數欄ニハ區域內年齡該當居住

者ノ總數ヲ記入スルコト

- (2) 中等學校及各種學校以上(認定學校ヲ除ク)ノ在學者及卒業者數欄ニハ入學年齡該當者中ノ中等學校及各種學校以上(認定學校ヲ除ク)ノ卒業者及在學者總數ヲ記入スルコト
- (3) 認定學校ノ在學者及卒業者數欄ニハ昭和十年六月一日陸軍文部省令ニヨリ地方長官ニ於テ青年學校ノ課程ト同等以上ト認定サレタル學校ノ在學者及卒業者ヲ記入スルコト
- (4) 就學スベキ者ノ數欄ニハ(1)ヨリ高等小學校在學者及(2)(3)等ヲ控除シタル殘數ヲ記入スルコト
- (5) 不就學者數欄ニハ就學スベキ者ノ數ト在籍者數トノ差ヲ記入スルコト
- (6) 就學歩合欄ニハ就學スベキ者ノ數ヲ以テ在籍者數ヲ除シタル商ニ百ヲ乘ジタル數ヲ記入スルコト
- 一、前年度出席狀況欄中
 - (1) 在籍生徒數欄ニハ各月平均數ヲ記入ノコト
 - (2) 出席スベキ時間數欄ニハ實施シタル教授及訓練

時數ニ在籍生徒數ヲ乘ジタル時數ヲ記入スルコト

- (3) 出席時間總數欄ニハ出席シタル總時間數ヲ記入スルコト
- (4) 時々出席平均歩合欄ニハ出席スベキ時間數ヲ以テ出席時間總數ヲ除シタル商ニ百ヲ乘ジ小數第三位ヲ四捨五入シタル數ヲ記入スルコト
- 一、生徒職業別欄ニハ生徒ノ職業ヲ記入スルモノナルモノノ職業確實ナラザルモノハ家庭ノ職業ヲ記入スルコト
- 一、設備欄中
 - (1) 校地欄ニハ校舍體操場其ノ他ノ面積ヲ記入スルコト
 - (2) 建物欄ニハ普通教室特別教室等ノ數ヲ記入スルコト
 - (3) 備品欄ニハ各ソノ員數ヲ記入スルコト
- 一、備考欄ニハ前年度ノ教練查閱視察等ニツキ記入スルコト

○青年學校生徒精勤章ニ關スル件

教第八七六號(昭和一一、五、三〇)

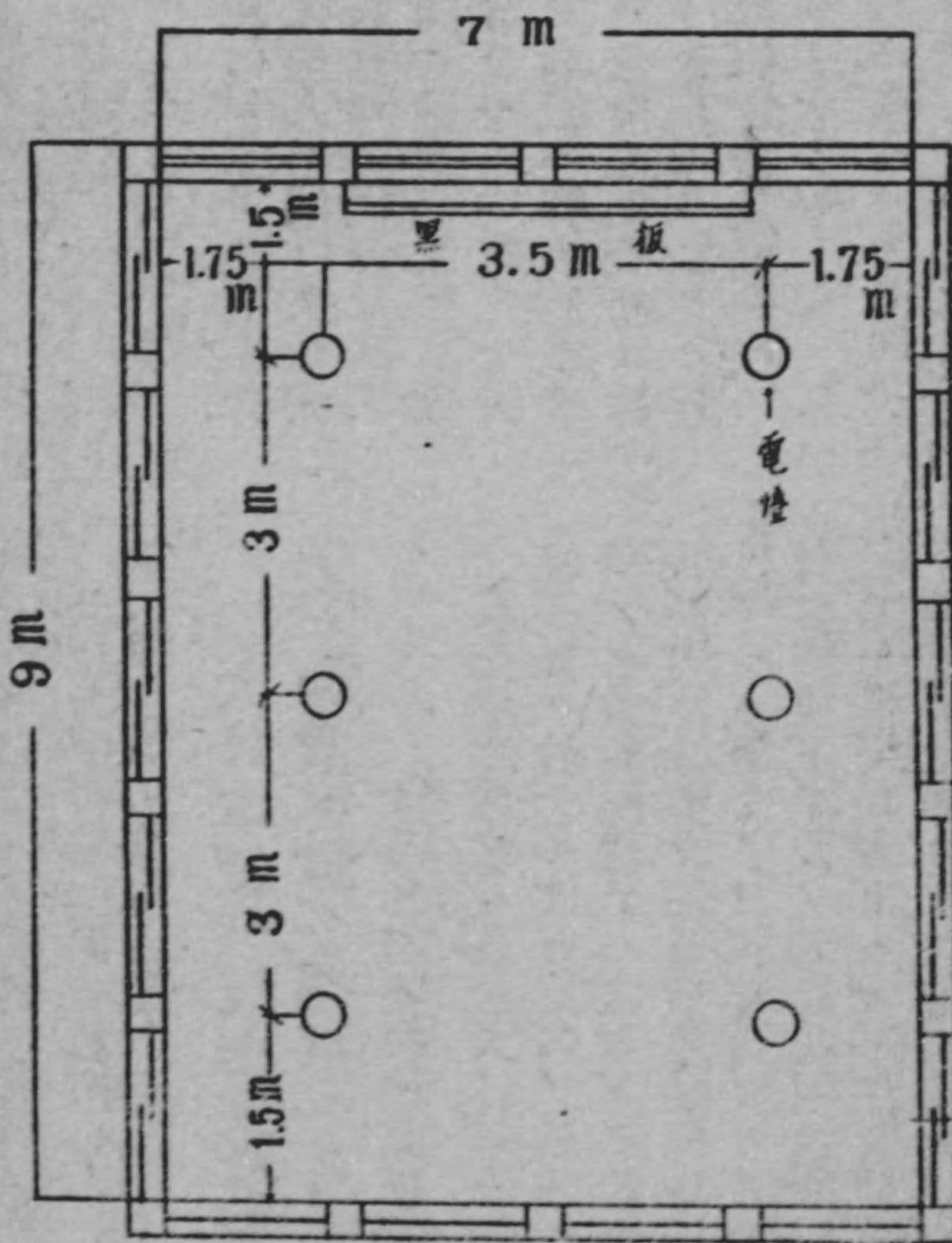
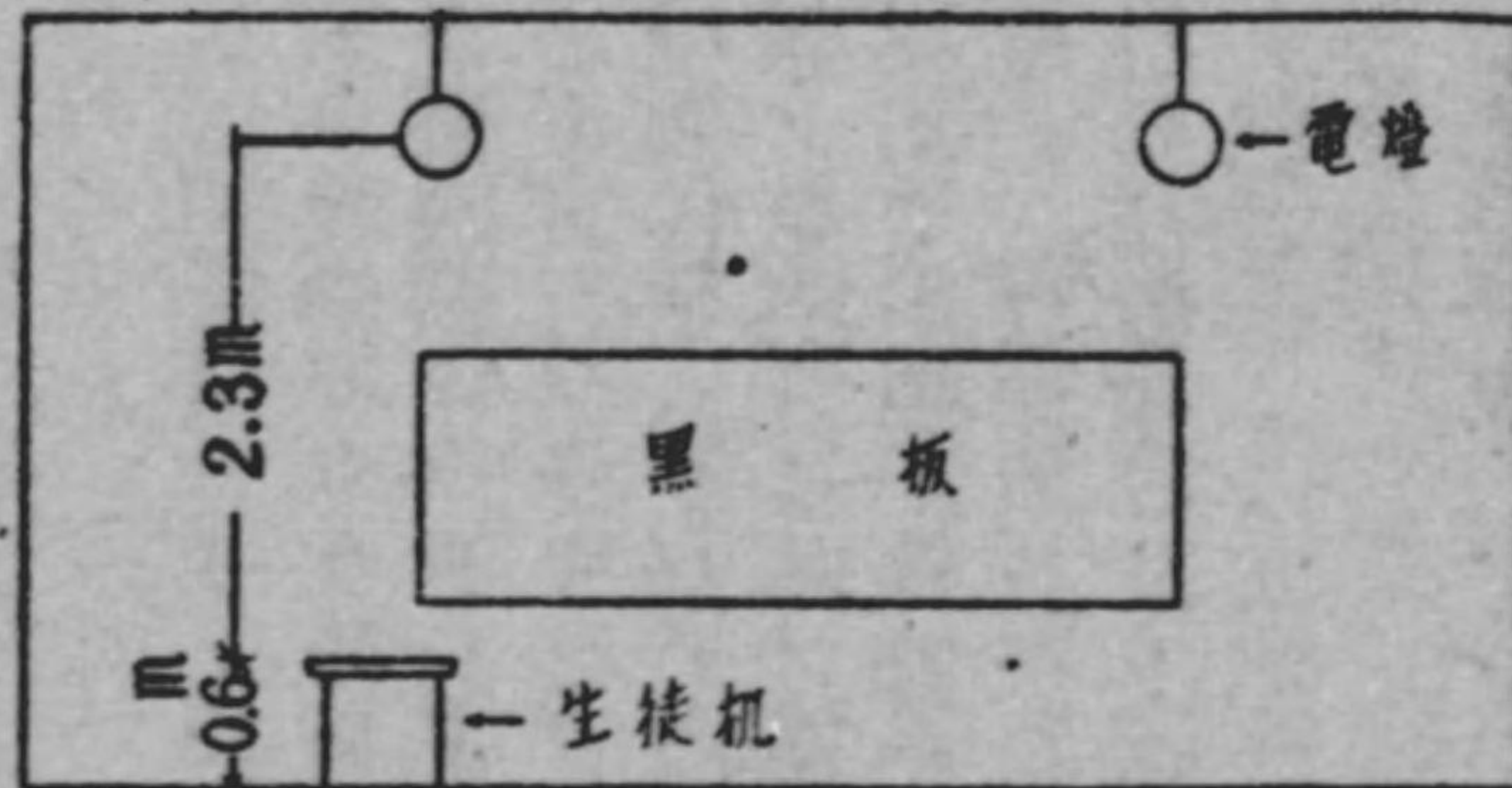
第五編 青年學校

首標ノ件ニ關シテハ昭和十年九月七日附岡山縣告示第七百六十五號岡山縣青年學校生徒服制ニ依リ制定相成候處之ガ附與規程準則制定ノ希望モ有之左記ノ通相定候條御參考相成度

記

- 精勤章附與規程準則
- 第一條 青年學校本科研究科生徒中出席優良ナル者ニ精勤章ヲ附與ス
- 第二條 精勤章ハ第一種第二種ニ區別ス
 - 第一種 精勤章ハ一年毎ニ本校學則規程時數ノ八割以上出席シタルモノニ附與スルモノトシ第二種 精勤章ハソノ一個ヲ以テ第一種精勤章二個ニ代フルモノトス
- 第三條 精勤章ヲ附與シタルトキハ青年學校手帳ニ記入スルモノトス
- 第四條 精勤章ハ第一種第二種ノ順序ニ左腕上部外側肩先ヨリ十五度ノ所ニ附スルモノトス
- 第五條 精勤章ヲ有スルモノニシテ生徒タル本分ヲ素ルガ如キ所爲アリタル時ハ之ヲ褫奪スルコトアルベシ
- 第六條 精勤章ノ様式次頁上圖ノ如シ

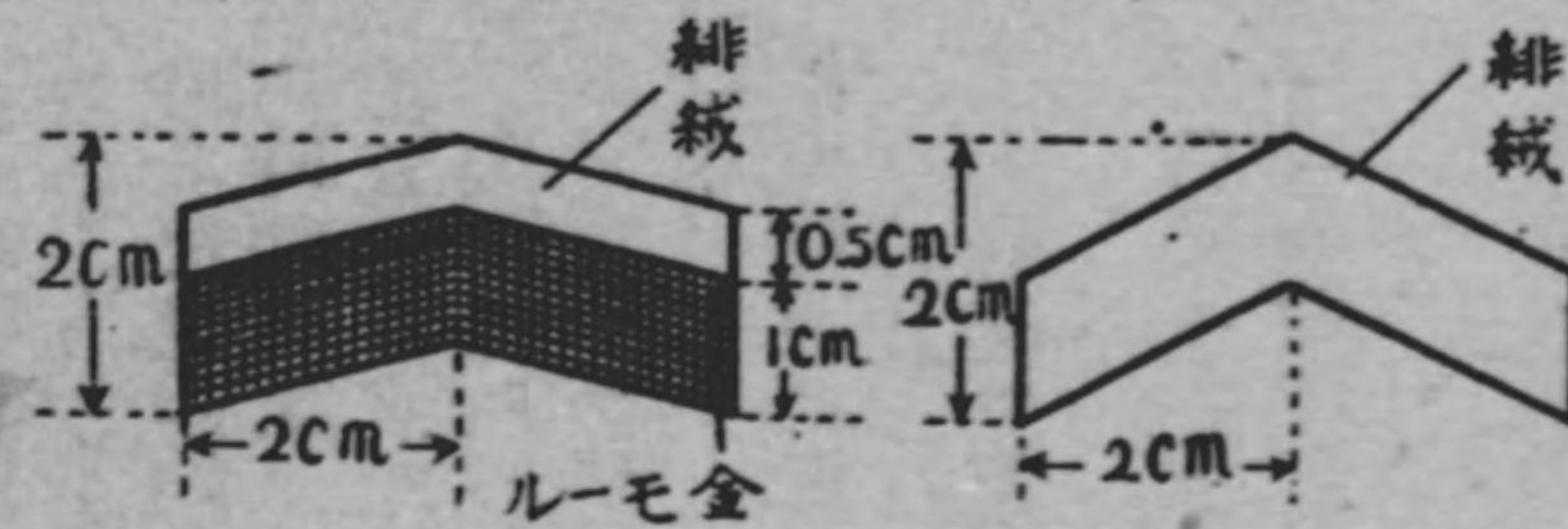
教室照明施設例



天井壁等ノ仕上色ガ明色（白色薄クリーム色「アイボリー」色薄青色等）ナル場合ニ於テ照明能率高キ「グローブ」ヲ使用スレバ 100「ワット」電球 6 個ニテ平均照度 50「ルクス」以上ヲ得ルコトガ出来 200「ワット」電球 6 個ニテ平均照度 100「ルクス」以上ヲ得ルコトガ出来ル。

- 二、教室ニ於テハ裸電球ヲ使用セズ電球ヲ「グローブ」中ニ藏ムルコト
- 三、机上面及黑板面均齊度（以テ照度一均等ヲ得ルコトヲ以テス）ヲ三%以下トス

第一種 第二種



○青年學校ノ照明設備ニ關スル件

教第二一九號學務部長通牒（昭和一四、四、八）

市青年學校長宛
 學生生徒ノ視力保持上緊要ナル電燈照明ニ關シテハ文部次官ヨリ依命通牒並文部省社會教育局長ヨリ通牒有之タルニツキ左記御了知ノ上夜間照明裝置ニ關シ遺憾ナキヲ期セラレ度及通牒候

記

夜間教授ヲ施ス教室實驗室等ノ照明

一、平均照度ヲ左記以上トナスコト

室名及場所

- 製圖室、圖書室、裁縫等ノ机上面及黑板面
- 普通教室、物理教室、化學教室、博物教室、音樂教室
- 實驗室等ノ机上面及黑板面
- 屋內體操場、講堂、集會室等
- 廊下、階段、便所、出入口等

- 照度（ルクス）
- 一〇〇
- 二〇〇
- 五〇〇
- 一〇〇〇

拂下彈藥受領者資格ニ關スル件

○拂下彈藥受領者資格ニ關スル件

學第一七三六號學務部長通牒

(昭和一五、六、一五)

從來陸軍兵器補給廠ヨリノ拂下彈藥交付ニ當リ讓受本人又ハ委任狀ヲ持參セル身分確實ナル代理人出頭ノ上受領スルノ趣旨徹底嚴守セラレアリタル處近時當事者ノ交代等ニ依リ之ガ實行ヲ缺キ甚ダシキハ運搬請負者又ハ火藥商人等ヲ受領代理人トシテ出頭セシメラルル向有之モ銃後治安確保ノ見地ヨリ此ノ種危險品ノ取扱ハ特ニ慎重ヲ期スルノ要切ナル現下社會事象ニ鑑ミ爾今左記資格ニ該當セザルモノニ對シテハ現品ノ交付ヲ實現セラレザル旨岡山陸軍兵器補給廠長ヨリ通牒有之候條此段及通知候

記

- 一、讓受本人
- 二、學校配屬將校
- 三、所屬長ノ身分證明書ヲ有スル教職員指導員又ハ在郷軍人分會員

(備考)

- 一、第三項ノ者ニ限り讓受人ヨリノ委任狀ノ持參ヲ要ス
- 二、受領者ハ認印ヲ持參スルコト

○大日本銃劍道振興會岡山支部聯合會

分會結成ニ關スル件

教第九四號學務部長通牒(昭和一六、八、七)

今般左記趣意書ニ基キ大日本銃劍道振興會ノ設立ヲ見候處本縣ニ於テモ之ガ支部ヲ結成シ大イニ斯道發展ニ寄與セント致居候就テハ之ガ下部組織トシテ各郡市ニ聯合會各町村ニ分會ヲ設置致度候條時局下特ニ斯道發展ノ重要ナルニ鑑ミ不日該支部ヨリ發送相成ルベキ會則ニ基キ各會結成上格段ノ御高配相煩度候

追而帝國在郷軍人會聯合會長並分會長ニハ既ニ岡山聯隊區司令部ヨリ各會結成上協力方通牒シアルニ付該會長トモ連絡協議ノ上可然御取計相成度爲念申添候

記

大日本銃劍道振興會趣意書

銃劍道ハ陸海軍ヲ問ハズ兵種ヲ論ゼズ實戰ニ於ケル最モ重要ナル戰技ナルヲ以テ高度國防ノ見地ヨリ昔ク日本國民ノ修練スベキ國民武道タルハ今更論ヲ俟タザル所ナリ然ルニ他ノ武道體育ハ既ニ各種ノ團體協會或ハ聯盟等アリテ各々其ノ統制下ニ指導訓練シ著々成果ヲ擧ゲツツアルニ比シ獨リ銃劍道ハ甚ダ不振ニシテ在郷軍人等僅カニ軍事能力増進ノ爲練磨シアルニ過ギザル状態ニ在ルハ洵ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナリ

抑々銃劍道ノ目的ハ白兵ノ使用ニ習熟シ特ニ剛健ナル氣力膽力ヲ養成シ白兵戰闘ニ於ケル必勝ノ確信ヲ得ルニ在リ而シテ其修練ノ及ブトコロ武德ヲ涵養シ體力ヲ練リ士風ヲ振起スルニ効果大ナリ即チ一旦緩急アレバ之ヲ以テ直チニ義勇公ニ奉ズルト共ニ平素ニ在リテハ其鍛鍊セル精神體力ヲ以テ其職務ヲ遂行シテ臣道ヲ全ウシ大政翼賛ノ一端ニ寄與スルコト大ナルモノアルベシ

第六編 職

員

第六編 職 員

○公立學校職員待遇官等々級令

勅令第七號(大正六、一、二九)

- 第一條 公立學校職員ニシテ委任官ノ待遇ヲ受クル者ノ官等ハ別表第一表ニ依ル
- 第二條 公立ノ中學校、高等女學校、高等科ヲ置ク高、實業學校、青年學校、盲學校、聾啞學校ノ學校長並公立

國 民 學 校	高等科ヲ置ク高等女學校					學校長													
	師範學校					教授	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	高等學校 豫科					教諭	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	高等學校 常科					同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	高中					同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	（高等科ヲ置ク高等女學校）					同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	實業學校					同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	青年學校					同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
	盲啞學校					同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	雙盲學校					同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第二表

判任官一等待遇 月俸百圓以上	判任官二等待遇 月俸七十圓以上 未滿	判任官三等待遇 月俸五十圓以上 未滿	判任官四等待遇 月俸五十圓未滿
-------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------

○公立學校職員ト教官其ノ他教育事業ニ
従事スル文官トノ間ノ轉任ニ關スル件

勅令第四五六號（明治三二、一一、二〇）

第一條 奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル官立公立ノ學校又ハ圖書館ノ職員ヲ教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官ニ任用シ又ハ教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官ヲ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル官立公立ノ學校又ハ圖書館ノ職員ニ任用スル場合ハ轉任ト看做シ其ノ手續ハ轉任ノ例ニ依ル

第二條 前條ノ教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官ノ種類ニ關シテハ明治三十二年勅令第二百一號第二條ノ規定ヲ準用ス但シ同條中官立トアルハ官立公立トス

第六編 職 員

○公立學校職員分限令

勅令第三號（大正四、一、二七）

第一條 本令ハ公立ノ大學、專門學校、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、青年學校、盲啞學校、雙啞學校及國民學校ノ職員ニシテ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ適用ス

第二條 公立學校職員ハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依ルニ非ザレバ其ノ職ヲ免ゼラルルコトナシ

第三條 公立學校職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ職ヲ免ズルコトヲ得
一、不具、痼疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘザルトキ

公立學校職員分限令

二七二

- 二、傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘザルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免職ヲ願出デタルトキ
- 三、學校編制ノ變更ニ因リ過員ヲ生ジタルトキ前項第一號ノ規定ニ依リ其ノ職ヲ免ズルトキハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ文官高等懲戒委員會、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス
- 第四條 公立學校職員ハ廢職、廢校又ハ休職ノ期間滿了ノ場合ハ當然退職者トス
- 第五條 公立學校職員禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ハ當然其ノ職ヲ失フ、國民學校職員國民學校教員免許狀又ハ國民學校養護訓導免許狀ノ擬奪ノ處分ヲ受ケタル場合亦同ジ
- 第六條 公立學校職員ハ其ノ意ニ反シテ待遇ヲ下シ又ハ俸給ヲ免ゼラレルコトナシ
- 第七條 文官文限令第九條及第十條ノ規定ハ公立學校職員ニ關シ之ヲ準用ス
- 第八條 公立學校職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命ズルコトヲ得

- 一、懲戒事件ニ關シ懲戒委員會ノ實査ニ付セラレタルトキ
 - 二、刑事事件ニ關シ起訴セラレタルトキ
 - 三、學校編制ノ變更其ノ他ノ事由ニ因リ過員ヲ生ジタルトキ
 - 四、教員養成ヲ目的トスル官立府縣立ノ學校ニ入學スルトキ
 - 五、教育上又ハ事務上必要ナルトキ
 - 六、外國ニ於テ本邦人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員トナルトキ
- 公立學校職員ニシテ陸海軍現役ニ服シタル者ハ當然休職者トス但シ師範學校ヲ卒業シタル師範學校訓導及國民學校訓導ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 一、現役兵ニシテ在營中ノ者（兵タル下士官候補者、憲兵上等兵、憲兵教習兵、軍樂上等兵及現役下士官又ハ憲兵上等兵タランコトヲ志願シ現役ノ期間ヲ延長セラレタル者並ニ海軍志願兵ヲ除ク）
 - 二、現役下士官ニシテ現役兵（歸休兵ヲ除ク）ヨリ任

- ゼラレタル者（志願ニ依リ陸軍現役下士官ニ任ゼラレタル者及歸休期間中ニ在ル者ヲ除ク）
- 三、修業期間中ニ在ル幹部候補生ニシテ現役兵（歸休兵ヲ除ク）ヨリ採用セラレタル者
- 四、修業期間中ニ在ル操縦候補生ニシテ現役兵（歸休兵ヲ除ク）未ダ現役兵ニ非ラザルモ徵兵終決處分シ依リ現役編入ノ處分アリタル者又ハ未ダ徵兵終決處分ヲ經ザル者ヨリ採用セラレタル者
- 五、陸軍補充令第八十三條第一項ノ下士官候補百ニシテ現役兵（歸休兵ヲ除ク）未ダ現役兵ニ非ザルモ徵兵終決處分ニ依リ現役編入ノ處分アリタル者又ハ未ダ徵兵終決處分ヲ經ザル者ヨリ採用セラレタル者
- 第九條 休職ノ期間ハ前條第一項第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號、第五號及第六號ノ場合ニ在リテハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ付テハ二年、判任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙ホ三月トス但シ前條第一項第六號ノ場合ニ在リテハ本屬長官其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第六編 職

員

二七三

- 前條第一項第一號又ハ第二號ニ依ル休職者其ノ事件ニ關スル懲戒委員會ノ審査終了シ又ハ裁判確定シ其ノ際免職又ハ失職ト爲ラザル場合ニ在リテハ前項ノ期間滿了後尙ホ三月ハ休職ノ期間トス
 - 第十條 休職者ハ職務ニ從事セズ及俸給ヲ減ゼラレ又ハ之ヲ受ケザルノ外總テ在職者ト異ナルコトナシ
 - 第十一條 文官分限令第十四條ノ規定ハ公立學校職員ニ之ヲ準用ス
- 附 則
- 明治二十七年勅令第四百一十一號ハ之ヲ廢止ス
- 本令施行ノ際休職中ノ者ニ關シテハ仍舊令ニ依ル
- 附 則 （大正十年勅令第九十號）
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行ノ際現ニ徵兵令第十四條ノ規定ニ依ル一年現役兵ニ服スル者ニ付テハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
- 附 則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 從前ノ第八條第一項第二號ノ規定ニ依リ休職ヲ命ゼラレ本令施行ノ際現ニ休職中ナル者ニ付テハ同號ノ改正規定

小學校教員心得

ニ拘ラズ仍従前ノ例ニ依ル但シ第四條及第九條第二項ノ改正規定ノ適用ヲ妨グズ従前ノ第八條第二項ノ規定ニ依リ戰時事變ニ際シ召集セラレ現ニ休職中ノ者ハ別ニ辭令ヲ用ヒズ本令施行ノ日ニ於テ復職ヲ命ゼラレタルモノトス

○文官分限令(抄録)

第九條 懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スベシ

第十條 第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十二條第十三條第二十四條第二十五條第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 免官ハ勅任官ニ在リテハ内閣總理大臣、奏任官ニ在リテハ内閣總理臣ヲ經テ本屬長官奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

休職ハ勅任官ニ在リテハ内閣總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行ヒ奏任官ニ在リテハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ本屬長官之ヲ命ズ其ノ復職ヲ命ズルトキ亦同ジ

○小學校教員心得

文部省達第一九號(明治一四、六、一八)

小學校教員ノ良否ハ普通教育ノ弛張ニ關シ普通教育ノ弛張ハ國家ノ隆替ニ係ル其ノ任タル重且大ナリト謂フベシ今夫小學校教員其ノ人ヲ得テ普通教育ノ目的ヲ達シ人々ヲシテ身ヲ修メ業ニ就カシムルニアラズンバ何ニ由テカ尊皇愛國ノ志氣ヲ振起シ風俗ヲシテ淳美ナラシメ民生ヲシテ富厚ナラシメ以テ國家ノ安寧福祉ヲ増進スルヲ得ンヤ小學校教員タル者宜ク深ク此意ヲ體スベキナリ因テ其ノ恪守實踐スベキ要款ヲ左ニ揭示ス苟モ小學校教員ノ職ニ在ル者夙夜匪懈服膺シテ忽忘スル事勿レ

一、人ヲ導キテ善良ナラシムルハ多識ナラシムルニ比スレバ更ニ緊要ナリトス故ニ教員タル者ハ殊ニ道徳ノ教育ニ力ヲ用ヒ生徒ヲシテ 皇室ニ忠ニシテ國家ヲ愛シ父母ニ孝ニシテ長上ヲ敬シ朋友ニ信ニシテ卑幼ヲ慈シ及自己ヲ重ンズル等凡テ人倫ノ大道ニ通曉セシメ且常ニ己カ身ヲ以テ之ガ模範トナリ生徒ヲシテ徳性ニ薰染シ善行ニ感化セシメン事ヲ務ムベシ

一、智心教育ノ目的ハ專ラ人ヲシテ智識ヲ廣メ才能ヲ長シ以テ其ノ本分ヲ盡スニ適當ナラシムルニ在リ豈徒ニ聲名ヲ博取シ奇功ヲ貪求セシメンガ爲ナランヤ故ニ教員タル者ハ宜ク此ノ旨ヲ體認シ以テ生徒智心上ノ教育ニ從事スベシ

一、身體教育ハ獨リ體操ノミニ依著スベカラズ宜ク常ニ校舍ヲ清潔ニシ光線溫度ノ適宜及大氣ノ流通ニ留意シ又生徒ノ健康ヲ害スベキ癖習ニ汚染スル等ヲ豫防シ以テ之ニ從事スベシ

一、鄙吝ノ心志、陋劣ノ思想ノ懷クベカラザルハ人々皆然リト雖モ特ニ教員タル者ハ自己ノ心上ニ於テ最モ謹テ之ヲ除去セザルベカラズ蓋シ幼童ノ智徳ヲ養成シ身體ヲ發育スルノ重任ニ膺リ以テ世ノ福祉ヲ増進スルノ實効ヲ奏スルハ固ヨリ鄙吝陋劣ニシテ偷安貪利ヲ事トスル徒ノ敢テ能クスベキ所ニアラザレバナリ

一、學校管理上缺グベカラザル快活ノ氣象ハ心神委靡セラル人ノ能ク具有スベキ所ニアラズ又生徒教授上ニ缺グベカラザル許多ノ勞力ハ身體孱弱ナル者ノ能ク寧耐スベキ所ニアラズ是故ニ教員タル者ハ宜ク特ニ起居飲食

等ノ常度ヲ守リ散鬱及運動等ノ良規ニ循テ其身心ノ健康ヲ保全シ以テ其ノ職務ヲ盡スノ地ヲ做サン事ヲ務ムベシ

一、教員タル者ハ唯小學校教則中ニ掲グル所ノ學科ニ通ズルノミヲ以テ足レリトセズ博ク教則外ノ學科ニ涉ラシ事ヲ要ス苟モ此ノ如クナラザレバ倏チ教授上ニ破綻ヲ生ジテ生徒ノ信憑ヲ失ヒ遂ニ其身ヲ學校ノ上ニ置ク能ハザルニ至ルヤ必セリ

一、教員タル者ハ常ニ整然タル秩序ニ由リ學識ヲ廣メ以テ其心志ヲ練磨セン事ヲ務ムベシ否ラサレバ決シテ教授ノ實效ヲ奏スル根柢ヲ立ツル能ハズ蓋シ我が練磨セザルノ心志ヲ以テ能ク他人ノ心志ヲ練磨シ得ルモノハ未ダ曾テ之アラザルナリ

一、師範學校等ニ於テ嘗テ學習セシ所ノ教育法ハ概ネ其一樣子タルニ過ギサルモノナリ、故ニ教員タル者ハ徒ニ之ヲ踏襲スルヲ以テ足レリトセズ宜ク常ニ自ら其得失利害ヲ考究取捨シ以テ之ヲ活用センコトヲ務ムベシ一、人ノ心身及身體ノ組織作用ニ至テハ教員タル者最モ深ク意ヲ留メ講究ト經驗トニ由テ其原理實際ニ精通セ

ン事ヲ要スベシ否ラザレバ假令汝々汲々トシテ教育ニ從事スルモ遂ニ臆度妄作ノ弊ヲ免ルル事能ハザルナリ

一、學校管理ノ事ハ之ヲ教授ノ事業ニ比スレバ更ニ困難ナリトス故ニ教員タル者ハ常ニ人情世態ヲ審ニシ通義公道ヲ辨ジ且事ヲ處スルノ方法、務ヲ理スルノ順序等ヲ語練セザルベカラズ

一、校則ハ校内ノ秩序ヲ整肅ナラシムルニ止ラズ兼テ生徒ノ德誼ヲ勸誘スルノ要具タリ故ニ教員タル者ハ能ク此旨趣ヲ體認シ以テ之ヲ執行セザルベカラズ

一、熟練、懇切、果敢ノ三者ハ亦教育上ニ缺グベカラザルノ美事タリ故ニ教員タル者能ク此三者ヲ具備シテ其事ニ從フトキハ獨リ教授ノ實效ヲ奏スルヲ得ベキノミナラズ又生徒ヲシテ不知不識此等ノ美事ニ感化シ習慣自然ノ如クナラシムルニ至ルベシ

一、學校ヲ統率スルハ殊ニ剛毅、忍耐、威重、懇誠、勉勵等ノ諸德ニ由ルベシ蓋シ剛毅ニアラザレバ難ニ勝ル能ハズ忍耐ニアラザレバ久ヲ持スル能ハズ威重ニアラザレバ人ヲ服スル能ハズ懇誠ニアラザレバ衆ヲ懷ル能

○女教員産前産後ニ關スル件

縣令第三三號 大正一一、一一、一〇

女教員ノ産前産後ニ就キ特ニ保護方法ヲ講ズルハ頗ル必要ナルコトニシテ若シ其ノ方法宜シキヲ得ザレバ母體胎兒並嬰兒ノ健康障害ヲ來スノミナラズ直接間接ニ教育上不良ノ影響ヲ及ボシ國民保健上並教育上忽ニスベカラザル問題ナレバ左ニ指示スル事項ニ則リ適當ノ方法ヲ講ジ此訓令ノ趣旨ヲ貫徹スル様努メラレ度

一、女教員ノ産前産後ニ於ケル休養ニ關シテハ左記各號ニ依ルコト

イ、分娩後六週間休養ヲ爲サシムルコト

ロ、醫師ノ診斷書ニ依ル分娩豫定日前二週間休養ヲ爲サシムルコト但シ特別ノ事情アル場合ニ在リテハ産婆ノ證明書ヲ以テ醫師ノ診斷書ニ代フルヲ得

ハ、前號ノ分娩豫定日ヲ超エテ尙分娩セザル場合ニハ事實分娩アルマデ休養ヲ繼續セシムルコト

備考

妊娠二十八週以前ニ於ケル流産失産人工妊娠中絶等

ハズ勉勵ニアラザレバ事ヲ成ス能ハズ

一、生徒若シ黨派ヲ生ジ爭論ヲ發スル等ノ事アラバ之ヲ處置スル極メテ穩當詳密ニシテ偏頗ノ弊ナク苛刻ノ失ナカラシムル要ス故ニ教員タル者ハ常ニ寛厚ノ量ヲ養ヒ中正ノ見ヲ持シ就中政治及宗教上ニ涉リ執拗矯激ノ言論ヲナス等ノ事アルベカラズ

一、人トシテ善良ノ性行ヲ有スベキハ言ヲ俟タズト雖モ教員タル者ニ至テハ最モ善良ノ性行ヲ有セザルベカラズ否ラザルトキハ獨リ幼童ノ德性ヲ涵養シ善行ヲ誘掖スル事能ハザルノミナラズ却テ其天賦ヲ戕賊スルニ至ルベシ蓋シ幼童ノ中心タル至虛至冲ニシテ外物ノ爲ニ感染セラルルコト極メテ鋭敏ナレバナリ

一、教員タル者ノ品行ヲ尙クシ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムベキハ亦其ノ職業ニ對シテ盡スベキノ務ト謂フベシ蓋シ品行ヲ尙クスルハ其ノ職業ノ品位ヲ貴クスル所以ニシテ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムハ其職業ノ光澤ヲ増ス所以ナリ

ハ總テ本件ノ通取扱フ(昭和二年三月四日教第四〇八號學務部長通牒ノ趣旨)

○官吏服務規律

勅令第三九號(明治二〇、七)

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其ノ職務ヲ盡スベシ

第二條 官吏ハ其ノ職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スベシ但其ノ命令ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉恥ヲ重ジ貪汚ノ所爲アルベカラズ

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ威權ヲ濫用セズ謹慎懇切ナルコトヲ務ムベシ

第四條 官吏己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハズ官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ズ其ノ職ヲ退ク後ニ於テモ同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人トナリ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル

官吏服務規律

二七八

- 件ニ限り供述スルコトヲ得
- 第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ズ
- 第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ズ
- 第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ズ
- 第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ其ノ職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハズ總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ズ
- 官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス
- 第九條 左ニ掲ゲタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其ノ饗應ヲ受クルコトヲ得ズ
 - 一、官廳ノ工事ヲ請負フ者
 - 一、官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
 - 一、官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
 - 一、官廳ノ用品ヲ調達スル者

- 一、官廳ト諸般ノ契約ヲ結ブ者
- 第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハズ所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ズ
- 第十一條 官吏並ニ其ノ家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ直接ト間接トヲ問ハズ商業ヲ營ムコトヲ得ズ
- 第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ズ及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ズ
- 第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ズ
- 第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其ノ分ニ應ゼザル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルベシ
- 第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ズ
- 第十六條 凡ソ局長其ノ他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其ノ過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラザル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムベシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本廳長官ニ稟告スベシ其ノ情ヲ知り隱蔽シテ稟告セザル者亦過失タルコトヲ免レズ

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉ズル者ニ適用ス

○學校職員通勤ニ關スル件

學第二〇二三號學務部長依命通牒(昭和三、九)

公立中等學校校長
公立實業補習學校校長
公立小學校校長

學校職員ハ任地ニ居住スベキ義務アルニ拘ラズ往々遠距離ヨリ通勤セルモノアルハ洵ニ遺憾ナル義ニ付自今力カ事無之様充分御留意相成度此段依命及通牒候
追テ貴校職員中萬止ムヲ得ザル事情アルモノニ就キテハ職務ニ支障ヲ來タサザル限リ左記標準ニ準據シテ通勤認可方可然御取計相成度尙任地以外ヨリ通勤セル學校長ハ此ノ際改メテ通勤認可又ハ許可ノ申請書御提出相成度

記

通勤距離十軒以内ニシテ通勤所要時間一時間以内ナル場合

第六編 職

員

○公立學校職員及市町村立小學校教員
戰時事變ニ際シ召集セラレタル場合
ノ取扱ニ關スル件

學第二四二二號學務部長通牒

(昭和一一、八、三〇)

公立學校職員及市町村立小學校正教員ガ戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキハ法令上當然休職トナルノ定メナリシモ今般一層之ガ優遇ヲ圖ル爲昭和十二年八月二十三日勅令第四百四十八號及文部省令第二十九號ヲ以テ公立學校職員分限令及小學校令施行規則中ニ改正ヲ加ヘラレタル次第ニ付自今戰時事變ニ際シ軍隊ニ召集セラレタル者ニ對シテハ右改正ノ趣旨ヲ體シ現職ノ儘應召セシムル様致スベク尙左記事項ニ關シ御留意相成度文部省ヨリ通牒ノ次第モ有之依命此段通牒ス

記

- 一、教職員戰時事變ニ依リ召集セラレタル場合ハ現職ノ儘應召スルモノトス
- 二、教職員戰時事變ニ際シ召集セラレタル場合ハ學校長

二七九

戰時事變ニ際シ召集セラレタル場合ノ取扱ニ關スル件

二八〇

ハ速ニ其ノ職氏名、資格、役種、兵種、官等級、位勳功爵(奏待ハ特記)並ニ召集令狀受領日、應召年月日應召ノ場所等ヲ記載シ召集解除トナリタル場合ハ身體異常ノ有無又ハ其ノ程度召集解除ノ年月日ヲ記載シ縣ニ報告スルコト

三、召集令狀受領ノ日ヨリ應召日迄及召集解除ノ日ヨリ歸校ノ日迄ノ缺勤ハ公事缺勤トス

四、教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セズ但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給ス

五、學校長ハ應召者ニ對シ左ノ事項ニツキ俸給支給部隊ノ證明ヲ受ケ其ノ都度報告セシメ更ニ之ヲ管理者並ニ縣ニ移報スルコト

イ、部隊變更年月日並ニ部隊名

ロ、部隊ヨリ受クベキ俸給額(戰時増給ハ加算セズ)

ハ、召集中俸給額ニ變更ヲ生ジタル時ハ其ノ變更額及年月日

(右ハ明治三十七年四月三十日陸達第九十三號豫後備補充歸休兵ニシテ文官タル者召集ニ應ジ奉職官廳ヨリ

俸給ノ補給ヲ受クル者ニ係ル取扱方並ニ明治三十七年四月二十五日海軍省達第八十四號文官及文官待遇者タル海軍豫備役軍人及歸休兵ニシテ召集中奉職官衙ヨリ俸給ノ補給ヲ受クベキ者證明速報方ニ準據セルモノ)

六、前各號ノ取扱上部隊ヨリ俸給々料支給ノ證明ヲ得難キ場合ハ陸軍給與令並ニ海軍給與令ニ依ル各官等相當俸給額ノ最下位ノ俸給々料ヲ受クルモノト看做シ不取敢計算支給シ確定ノ都度精算スルコト俸給支拂調書ニハ本項事項ヲ詳記スルコト

七、俸給々料ハ本人宛送金方困難ニ付受任者受領ノ上家族等ニ便宜交付スルコト

此ノ場合ノ受授ハ明確ニ記録シ置クコト

八、准教員、代用教員、青年學校囑託、中等學校教諭心得、囑託等ノ身分進退俸給支給ニ關シテハ資格任用教員ニ準ジテ取扱フコト但シ臨時代用臨時囑託其ノ他特別ノ事情アル者ハコノ限ニ在ラズ

九、私立學校ニ於テモ其ノ職員ニシテ召集セラレタル者ニ對シテハ公立學校職員ノ例ニ準ジ取扱ハレ度キコト

○應召教員並短期現役兵タル教員ニシテ幹部候補生ニ採用セラレタル者ノ取扱ニ關スル件

學第六三〇號學務部長通牒(昭和一四、三、二)

標記幹部候補生ハ小學校令施行規則第二百二十三條及公立學校職員分限令第二條中「陸海軍現役ニ服シタル者」ニ該當セザル旨其筋ヨリ通牒有之候條現職者トシテ御取扱相成度

○官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件

勅令第一七七號(明治四〇、五、一)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ官吏待遇者ノ懲戒ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏待遇者ノ懲戒ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外高等官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用シ判任官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニハ同令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

神職懲戒令及明治三十二年勅令第三百四十九號ハ之ヲ廢止ス

○公立幼稚園ノ園長及保姆ノ待遇ニ關スル件

勅令第七五號(大正一五、四、二二)

朕公立幼稚園ノ園長及保姆ノ待遇ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

公立幼稚園ノ園長及保姆ハ判任官ノ待遇トス

附則

明治四十二年勅令第三百三十五號ハ之ヲ廢止ス

○國民學校職員ノ俸給及旅費ノ負擔ニ關スル件

勅令第一一四號(昭和一五、三、二九)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ國民學校職員ノ俸給及旅費ノ負

國民學校職員加俸令

據ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
國民學校職員(養護訓導ヲ除ク)ノ俸給及赴任ノ場合ニ
支給スル旅費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
附 則
本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○國民學校職員ノ俸給旅費其ノ他ノ

諸給與ニ關スル件

勅令第二四一號(昭和一五、四、一)

朕大正八年勅令第三百四十號市町村立小學校教員ノ俸給
旅費其ノ他ノ諸給與ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム
地方長官ハ當分ノ内市町村、市町村學校組合又ハ町村學
校組合ニ對シ國民學校職員ノ旅費(赴任ノ場合ニ支給ス
ル旅費ヲ除ク)其ノ他諸給與ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズ
ルコトヲ得
市制又ハ町村制ヲ施行セザル地域ニ於ケル市町村ニ準ズ
ベキ公共團體及其ノ組合ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ市町

村、市町村學校組合又ハ町村學校組合ト看做ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十年勅令第二號ハ之ヲ廢止ス

○國民學校職員加俸令

勅令第一三三號(明治三三、三、三一)

第一條 北海道地方費及府縣ハ國民學校教育費國庫補助
法第三條ノ下付金ヲ以テ國民學校職員加俸資金トナシ
特別會計ヲ設置スベシ
前項ノ資金ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充
スルコトヲ得
第二條 國民學校職員加俸資金ヨリ生ズル收入ハ之ヲ資
金ニ編入スベシ
第三條 國民學校職員(國民學校令第十九條ノ規定ニ依
ル職員ヲ除ク)ニシテ五年以上同一府縣内ノ國民學校
ニ勤務シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニ
ハ年功加俸ヲ給ス

年功加俸ハ訓導及養護訓導ニ在リテハ年額二十四圓乃
至六十圓、准訓導ニ在リテハ年額十二圓乃至二十四圓
トシ年功加俸ヲ受ケタル後勤續五年ヲ加フル毎ニ訓導
及養護訓導ニ在リテハ年額十八圓乃至三十圓、准訓導
ニ在リテハ年額十二圓乃至十五圓ヲ加フルコトヲ得
第四條 兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リ
タル後九十日以内更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年
數ヲ勤續年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更
ニ因リ退職シタル者六十日以内更ニ就職シタルトキ亦
同シ
第五條 道府縣視學、島廳郡視學及師範學校訓導ニ在職
シタル年數ハ之ヲ勤續年數ニ通算ス
第六條 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキハ
年功加俸ノ一部又ハ全部ノ支給ヲ停止スルコトヲ得
年功加俸ヲ受クル者ニシテ地方長官ニ於テ成績佳良ナ
ラズト認メタルトキハ年功加俸ノ支給ヲ止ム
第七條 國民學校ノ訓導ニシテ單級學校ニ勤續スル者ニ
ハ年額六十圓以下ノ特別加俸ヲ給ス
國民學校ノ訓導ニシテ多級學校ノ四以上ノ學年ノ兒童

第六編 職

員

ヲ以テ編制シタル學級ヲ擔任スル者ニハ年額四十八圓
以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得
僻地ノ國民學校ニ勤續スル訓導及養護訓導ニハ年額
三十六圓以下、准訓導ニハ年額十八圓以下ノ特別加俸
ヲ給スル事ヲ得但シ前二項ノ規定ニ依リ特別加俸ヲ受
クル者ハ此ノ限ニ在ラズ
同一道府縣内ニ於テ僻地ノ國民學校ニ十五年以上勤
續スル者ニハ前三項ニ依リ特別加俸ノ外訓導及養護訓
導ニ在リテハ年額三十六圓以下、准訓導ニ在リテハ年
額十八圓以下ヲ加給ス
第八條 削除
第九條 國民學校職員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官
之ヲ定ム
附 則
第十條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一
項ニ依リ支給ヲ受クル者ニシテ本令第三條第一項ニ依
リ年功加俸ヲ受ケ其ノ額同法ニ依リ受クル額ヨリ寡キ
トキハ同一學校ニ勤續スル間其ノ差額ヲ加給ス

國民學校職員加俸令

附 則 (昭和六年勅令第四百十八號)

本令ハ昭和六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年功加俸ヲ受クル者
 別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ年額百圓以上ノ場合ニ在
 リテハ其ノ百分ノ九十六ノ額ヲ、年額百圓未滿ノ場合ニ
 在リテハ其ノ百分ノ九十八ノ額ヲ受ク但シ左ノ制限ニ依
 ル
 一、第三條ニ規定スル初給最多年額ト改正加給ノ最多年
 額ニ其ノ加給セラレタル回数(加給金額更正ノ場合ヲ
 含マズ、以下同ジ)ヲ乘ジテ得タル額トノ合計額ヲ超
 エ又ハ第三條ニ規定スル初給最少年額ト改正加給ノ最
 少年額ニ其ノ加給セラレタル回数ヲ乘ジテ得タル額ト
 ノ合計額ヲ下ルユトヲ得ズ
 二、百圓未滿ノ場合ニ在リテハ年額九十六圓ヲ超ユルコ
 トヲ得ズ
 三、本俸ト合シテ年額千六百六十四圓ヲ下ルコトヲ得ズ
 前項ノ規定ニ依リ計算スル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿
 タシム
 前二項ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年功

二八四

加俸ヲ受クル者ニシテ其ノ年功加俸ト本俸トノ合計額ガ
 年額千六百六十四圓未滿ノモノニハ之ヲ適用セズ
 前項ニ規定スル者ハ第三條ノ改正規程ニ拘ラズ現ニ受ク
 ル年功加俸ヲ受クルモノトス

附 則 (昭和十六年勅令第三百四十四號)(抄)

第二十一條 市町村立小學校ノ本科正教員若ハ專科教員
 又ハ准教員ノ在職年數ハ國民學校職員加俸令ノ適用ニ
 付テハ夫々之ヲ國民學校ノ訓導又ハ准訓導ノ在職年數
 ト看做ス

昭和十九年三月三十一日迄ハ國民學校職員加俸令第七
 條第一項中國民學校トアルハ國民學校(高等科又ハ高
 等科及特修科ノミヲ置クモノヲ除ク)同條第二項中四
 以上ノ學年トアルハ初等科ノ四以上ノ學年又ハ初等科
 ノ四以上ノ學年及高等科若ハ特修科ノ學年、同條第三
 項中訓導及養護訓導トアルハ訓導及養護訓導(高等科
 又ハ高等科及特修科ノ兒童ノミノ教育又ハ養護ヲ掌ル
 者ヲ除ク)、同條第四項中僻陬地ノ國民學校ニ五年以
 上勤續スル者トアルハ僻陬地ノ國民學校ニ高等科又ハ
 高等科及特修科ノ兒童ノミノ教育又ハ養護ヲ掌ル者以

外ノ者トシテ五年以上勤續スル者トス
 僻陬地ノ市町村立尋常小學校ニ勤續シタル年數ハ前項
 ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ僻陬地ノ國民學校ニ高等科
 又ハ高等科及特修科ノ兒童ノミノ教育ヲ掌ル者以外ノ
 者トシテ勤續シタル年數ト看做ス

○國民學校職員加俸給與細則

縣令第三二號(昭和六、七、三二)

第一條 國民學校職員加俸令第三條第二項ニ依リ給スベ
 キ年功加俸ハ訓導及養護訓導ニ在リテハ年額二十四圓
 乃至六十圓トシ准訓導ニ在リテハ年額十二圓乃至二十
 四圓トス
 第二條 國民學校職員加俸令第三條第二項後段ニ依リ加
 給スル場合ノ年額ハ訓導及養護訓導ニ在リテハ十八圓
 乃至三十圓准訓導ニ在リテハ十二圓乃至十五圓トス
 第三條 國民學校職員加俸令第七條第一項ニ該當スル者
 ニハ年額六十圓以下ノ特別加俸ヲ給シ同條第二項ニ該
 當シ特別加俸ヲ給スル場合ノ年額ハ四十八圓以下トス

第六編 職 員

第四條 國民學校職員加俸令第七條第三項ニ該當スル者
 ノ特別加俸ハ左表ニ依ル

勤務種別	加俸年額
僻陬地甲ニ在ル者	三六圓
僻陬地乙ニ在ル者	二四圓
訓導及養護訓導	一八圓
准訓導	一二圓

僻陬地甲乙ノ區分ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 國民學校職員加俸令第七條第四項ニ該當スル者
 ノ加給年額ハ訓導及養護訓導ニ在リテハ三十六圓以下
 准訓導ニ在リテハ十八圓以下トス

第六條 加俸ハ其ノ金額ヲ二分シ毎年四月、十月ニ於テ
 其ノ前六箇月分ヲ支給ス但シ休職、退職若ハ其ノ他ノ
 理由ニ依リ加俸ノ支給ヲ止メタルトキハ其ノ際之ヲ支
 給ス

第七條 加俸ノ支給、増額、減額、停止等ハ凡テ發令若
 ハ事由發生ノ翌月ヨリ之ヲ計算ス

第八條 休職訓導ニシテ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ休職中

二八五

國民學校職員加俸給與手續

二八六

- 年功加俸及特別加俸ノ三分ノ一ヲ給ス
- 第九條 加俸ハ病氣又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ缺勤シタルガ爲本俸ヲ減給シタル場合ニ於テモ之ヲ支給ス
- 第十條 國民學校職員加俸令第七條第三項ニ該當シ特別加俸ヲ支給スル場合ハ別ニ辭令ヲ用キザルモノトス
- 第十一條 特別加俸ヲ受クル昔ニシテ他ノ學校ニ轉任シ又ハ特別加俸ヲ受クル學級ノ編制若ハ擔任ヲ變更シタルトキハ別ニ辭令ヲ用キズシテ其ノ加俸ヲ失フモノトス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年五月岡山縣令第三十二號市町村立小學校教員加俸給與細則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ加俸ヲ受クル者ハ從前ト同額ノ加俸ヲ受クルモノトス

○國民學校職員加俸給與手續

縣令第七號(昭和六、八、二七)

市町村立小學校教員加俸給與手續左ノ通定ム

(市町村立小學校教員) 加俸給與手續

- 第一條 學校長ハ毎年四月一日現在ニ於テ其ノ校教員ニ關シ加俸給與細則第一條及第二條ニ依リ加俸ヲ支給セラルベキ事由發生セリト認メタルトキハ四月二十日迄ニ別記様式第一號乃至第三號ニ依リ阿哲支廳管内ニ在リテハ支廳長ニ、市内ニ在リテハ市長ニ、其ノ他ニ在リテハ知事ニ開申スベシ
- 支廳長又ハ市長前項ノ開申ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ四月二十五日迄ニ知事ニ之ヲ具申スベシ
- 第二條 學校長ハ加俸給與細則第三條乃至第五條ニ依リ新ニ加俸ヲ支給シ又ハ其ノ支給額ニ異動ヲ生ズベキ事由發生シタルトキハ阿哲支廳管内ニ在リテハ支廳長ニ、市内ニ在リテハ市長ニ、其ノ他ニ在リテハ知事ニ其ノ事由發生ノ年月日、受給金額及受給者職氏名ヲ開申スベシ
- 阿哲支廳長又ハ市長前項ノ開申ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ知事ニ具申スベシ
- 第三條 加俸受給者死亡シタルトキハ阿哲支廳長、市長又ハ學校長ハ前條ノ例ニ依リ之ヲ知事ニ報告スベシ

第四條 阿哲支廳長、市長又ハ學校長ハ別記様式第四號ニ依ル加俸臺帳ヲ備附ケ異動ノ都度之ヲ整理スベシ

第五條 加俸受給者ハ阿哲支廳管内ニ在リテハ其ノ管内ヨリ、市ニ在リテハ其ノ區域ヨリ其ノ他ニ在リテハ各其ノ學校ヨリ一人ノ總代理人ヲ定メ夫々其ノ氏名ヲ阿哲支廳長、市長又ハ學校長ニ届出ヅベシ

第六條 加俸受給者ハ毎年三月十日及九月十日迄ニ別記様式第五號ニ依ル通知書ヲ總代理人ニ提出スベシ

第七條 總代理人ハ別記様式第六號ニ依ル請求書ヲ阿哲支廳管内ニ在リテハ支廳長ニ、市内ニ在リテハ市長ニ、其ノ他ニ在リテハ學校長ニ提出スベシ

第八條 阿哲支廳長、市長、又ハ學校長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ加俸臺帳及總代理人指定届書ト對照シ相違ナシト認メタルトキハ其ノ旨證明ノ上遲滯ナク知事ニ進達スベシ

第九條 前條ノ規定ニ依リ請求書ヲ進達シタル後ニ於テ加俸支給額ニ異動ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク前三條ノ規定ニ準ジ請求變更ノ手續ヲナスベシ

第六編 職 員

様式第一號

開 申
年 月 日

何學校長氏名

知事(支廳長)(市長)何某殿

年功加俸ニ關スル調査ノ件

左表ノ通及開申候也

資格	就職年月日	歷任學校名	勤續年數	職名	氏名	摘要

備考

- 一、休職アリタルトキハ休職ノ理由及其ノ期間ヲ具體的ニ摘要欄ニ記入ノコト
- 二、歷任學校名欄ニハ何郡(何市)何校ト記入ノコト
- 三、「本科正教員」ト「專科正教員並准教員」トハ各別紙ニスルコト

二八七

國民學校職員加俸給與手續

様式第二號

開 申
年 月 日
知事(支廳長)(市長) 何 某 殿
年功加俸給ニ關スル調査ノ件
左表ノ通及開申候也

何學校長 氏 名 印

資格	現在年功加俸支給年月日	同年額上	現在年功加俸支給年月日及前任學校名	現在年功加俸支給後動績年數	資格別動績年月數	職名	氏名

備考

- 一、現在年功加俸支給學校名及前任學校欄ニハ何郡(何市)何校ト記入ノコト
- 二、「本科正教員」ト「専科正教員並准教員」トハ各別紙トスルコト

様式第三號

資格	現在年功加俸支給年月日	同上年額	現在年功加俸支給年月日及前任學校名	現在年功加俸支給後動績年月數	資格別動績年月數	職名	氏名

備考

- 一、現在年功加俸支給學校名及前任學校名欄ニハ何郡(何市)何校ト記入ノコト
- 二、「本科正教員」ト「専科正教員並准教員」トハ各別紙ニスルコト

様式第四號

年功加俸年額(特別加俸年額)	辭令年月日若ハ事由發生年月日	校名、加俸支給停止年月日事由等	職名	氏名

備考 加俸ノ支給廢止、停止年月日及事由ハ之ヲ朱書スベシ

様式第五號

自何年何月何年何月
至何年何月何年何月
年額金 何 何 程 程
金額金 何 何 程 程

右及通知候

年 月 日
總代理人 何 某 殿

校名 職 氏 名 印

第六編 職 員

加俸金請求ニ關スル件

様式第六號

自何年何月何年功加俸(特別加俸)金請求書
至何年何月
一金 何 程

内 譯

加俸年額	加俸受給額	摘 要	職名	氏 名

右請求候也
年 月 日

正(准)教員何某外何人總代理人
何郡(市)何町(村)大字何又ハ
(何郡(市)何學校内)

職名 氏

名 氏

仕拂命令官
岡山縣知事 氏 名 殿
前書ノ通相違ナキコトヲ證明ス
年 月 日

何郡何學校氏名(支廳長氏名、市長氏名) 印

備考

年功加俸、特別加俸共ニ加俸ト加給トハ各別紙トシ特別加俸ハ更ニ「本科正教員」ト「専科正教員並准教員」トニ分チ夫々別紙ニスルコト

○加俸金請求ニ關スル件

學第二八三二號學務部長通牒

(昭和九、九、八)

從來加俸金ノ請求ニ關シテハ訓令第七號市町村立小學校教員加俸給與手續第六號様式ニヨリ請求書提出相成居候處昭和八年十月恩給法改正ノ結果教育職員ニシテ俸給(又ハ給料)ガ昇給若ハ増額セラレタル場合ハ其ノ月ノ翌月ヨリ俸給(給料)ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ本縣ニ納付スベキモノナルニ付御了知ノ上該當ノ有無ニ拘ハラズ當分ノ内別紙様式ニ依リ請求書提出セシメラレ度追而俸給中ニハ年功加俸、特別加俸ヲ包含スル儀ニ付爲念申加候

二九〇

(例)

自昭和九年四月 年功加俸金請求書
至同 九月

一金貳拾壹圓

加俸額

加俸年額	加給年月	合計額	加俸支給額	縣納金額	現金支給額	摘 要	格 資	氏 名
二四	一八	四二	二二	〇三	二〇九七	八月三十一日付本俸昇給ニ付月額(216圓)參圓五拾錢ニ對スル百分ノ一	本正	甲野梅吉
合 計			二二	〇三	二〇九七			

金貳拾圓九拾七錢

現給支給額

内

金 參 錢

縣納金額

右請求候也

年 月 日

何某外何名總代理人
何郡(市)何町(村)在
何郡(市)何學校内

名 氏

支拂命令官

岡山縣知事 氏 名 宛

第六編 職員

備考

特別加俸ハ「本科正教員」ト「専科正教員」トニ分チ更ニ加俸ト加給トハ各別紙ニシ年功加俸請求様式ニ倣ヒ製作ノコト

前書ノ通相違ナキコトヲ證明ス

何郡何學校長 市長 氏 名 印

二九一

國民學校職員加俸令第七條ニ依ル僻陬地所在ノ國民學校及分教場指定

二九二

○國民學校職員加俸令第七條ニ依ル僻陬地所在ノ國民學校及分教場指定

縣告示第八六一號(昭和六、九)

郡名	學校名	等級	所在地
御津	高富國民學校	甲	圓城村大字高富三三六
御津	圓城國民學校	乙	圓城村大字上田東四九五
御津	津賀西國民學校	乙	津賀村大字高谷鍛冶屋谷四七〇
赤磐	布都美國民學校小鎌分教場	甲	布都美村大字小鎌字上分五五七
赤磐	鳩岡國民學校	乙	山方村大字是里字宗成三、一二三ノ一
赤磐	杏石國民學校	乙	仁堀村大字戶津野字新屋二八四
赤磐	布都美國民學校	乙	布都美村大字小鎌字天王一、八七四
赤磐	周匝國民學校河原屋分教場	乙	周匝村大字河原屋六五二
赤磐	竹枝國民學校大田分教場	乙	竹枝村大字大田字河原一、二七九
赤磐	頭島國民學校	甲	日生町大字日生ノ内頭島二、九〇五
赤磐	日生國民學校大多府分教場	甲	日生町大字大多府一
赤磐	和意谷國民學校	乙	神根村大字和意谷一、四二三

郡名	學校名	等級	所在地
和氣	三國西國民學校	乙	三國村大字都留岐字美婦路一、一四六
和氣	三國東國民學校	乙	三國村大字多麻字傳木峠一、四六一
和氣	三保國民學校	乙	鹽田村大字北山方一、九九七
和氣	犬島國民學校	甲	朝日村大字犬島一二六
和氣	胸上國民學校石島分教場	甲	胸上村大字胸上三、三一〇
和氣	飛島國民學校	甲	神島外村大字飛島五、七八七
和氣	真鍋國民學校	甲	真鍋島村四、二一八
和氣	六島國民學校	甲	真鍋島村大字六島二、〇二九
和氣	北木國民學校	甲	北木島村字大浦三、九七二
和氣	北木國民學校楠分教場	甲	北木島村字楠一三、二四九
和氣	北木國民學校豐浦分教場	甲	北木島村字豐樨九、七六六
和氣	北木國民學校金風呂分教場	甲	北木島村字金風呂七、八八〇
和氣	堺國民學校	乙	堺村大字星田二、九九七
和氣	堺國民學校黑木分教場	乙	堺村大字黑木明見四〇
和氣	宇頭國民學校	乙	宇戶村大字鳥頭字堀井山二三二
和氣	白石國民學校	乙	神島外村大字白石島九〇一

小後同同同同同同同同同同同同同同同同

月田 備房 上

高島國民學校
 芳井國民學校天神山分教場
 明治國民學校
 明治國民學校池井分教場
 明治國民學校花瀧分教場
 三原國民學校
 富山國民學校
 大和國民學校
 終南國民學校
 阿口國民學校
 巨瀨國民學校橫田分教場
 有漢國民學校精華分教場
 湯野愛善國民學校
 湯野博日國民學校
 增原國民學校
 下切國民學校
 高山國民學校

乙 乙 乙 甲 甲 乙 乙 乙 甲 乙 甲 乙 乙 乙 乙 甲 乙

神島外村大字高島四、七六九
 芳井町大字天神山橫尾地五二六
 明治村大字種五三二
 明治村大字池谷一、五四九
 明治村大字花瀧二、七三〇
 三原村大字東三原二九四
 富山村大字延原三一二
 大和村大字宮地六三四
 上竹莊村大字納地一、二六五
 皆部町大字阿口二、三九〇
 巨瀨村大字橫田三、一三〇
 有漢村字田入堂五、七八五
 湯野村大字西油野一、三〇七
 湯野村大字西山二、一〇五
 玉川村大字增原七八一
 玉川村大字下切一、二九一
 高山村大字高山二、九七三

二九四

川同同同同同同同同同同同同同同同同

上 哲

第六編

庭 職 員

平川國民學校
 布寄國民學校
 小泉國民學校
 大井野國民學校
 大井野國民學校君山分教場
 三室國民學校
 千屋國民學校
 實國國民學校
 芋原國民學校
 三坂國民學校
 豐永國民學校
 高瀨國民學校
 太田國民學校
 蚊家國民學校
 鹽城國民學校濱分教場
 菅生國民學校
 上田國民學校

乙 乙 乙 甲 甲 甲 甲 甲 甲 甲 甲 乙 乙 乙 乙 乙 甲

平川村六一六七
 中村大字長地一、八一八
 中村大字小泉字天神
 上刑部村大字大井野一、二〇五
 上刑部村大字大井野三、四六三
 神代村大字油野四、一二一
 千屋村大字花見四八
 千屋村大字實二、二八七
 上市村大字井村二、五一五
 新砥村大字釜村字家上三、三四〇
 豐永村大字佐伏字コホロギ六、一八九
 新郷村大字高瀨一、二〇一
 新砥村大字田淵七〇
 新砥村大字蚊屋
 熊谷村大字上熊谷六、九〇六
 菅生村字分原ケ市六、一〇二
 津田村大字田原山上二、二二四

二九五

同同同同苦同同同同同同同同同同真

庭 田

上田國民學校上山分教場
中和國民學校
美甘國民學校鐵山分教場
城北國民學校星山分教場
美甘國民學校黑田分教場
德田國民學校
茅部國民學校
福田國民學校
長田國民學校
木山國民學校日野上分教場
富原國民學校富山分教場
新庄國民學校
越畑國民學校
富國民學校余川分教場
富國民學校興基分教場
加茂國民學校倉見分教場
上齋原國民學校小林分教場

甲 甲 甲 甲 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 乙 甲 甲 甲 甲

津田村大字上山三六四
中和村大字下和字下鍛冶屋一、九〇一
美甘村大字鐵山三七九
勝山町大字星山六八八
美甘村大字黑田五六
川上村大字下德山三五八
川上村大字東茅部二七六
八束村大字富山根一五四
八束村大字下長田八五七
木山村大字日野上二、九九四
富原村大字右呂呂尾中一、五六九
新庄村二、一三四
香々美北村大字越畑六〇
富村大字富西谷二、三五三
富村大字大二九八
加茂町大字倉見四九二
上齋原村字小林一、九八四

久同同同英同同同同同勝同同同同同苦

第六編 米 田 田 田

上齋原國民學校赤和瀬分教場
羽出國民學校千軒分教場
富國民學校
上齋原國民學校
羽出國民學校西谷分教場
高田國民學校橫野分教場
右手國民學校
東谷國民學校
南和氣第二國民學校
廣戶國民學校廣戶分教場
豐並國民學校小坂分教場
西原國民學校
福山國民學校
東粟倉國民學校
西粟倉國民學校
影石國民學校
身基國民學校

甲 乙 乙 乙 甲 乙 乙 乙 甲 甲 乙 乙 乙 乙 甲 甲

上齋原字赤和瀬一、六七七
羽出村大字羽出一、八三二
富村大字富西谷二五〇
上齋原村字木路六八五
羽出村大字羽出西谷一、〇三七
高田村大字上橫野九八一
梶並村大字右手二、八〇八
梶並村大字東谷上七四三
南和氣村大字下谷二九三
廣戶村大字廣戶奧津川七〇五ノ二
豐並村大字小坂字夕サイノ元三〇八
豐並村大字西原字寺道一、五五一
福山村大字万善二八
東粟倉村大字青野四〇二
西粟倉村大字長尾一、五五五
西粟倉村大字影石猪之部九八五
倭文西村大字山手公文北六三四

同	同	同	同	同	久
大	全	堺	黑	中	里
堺	間	和	岩	山	仁
和	國	國	國	國	國
國	民	民	民	民	民
民	學	學	學	學	學
學	校	校	校	校	校
校	校	校	校	校	校
乙	乙	乙	甲	甲	甲

倭文西村大字中山手奥一、五五一
倭文西村大字中山手里一、一五一
堺和村大字中堺和上口一九二
堺和村大字東堺和一八九
弓削町大字全間一、一五三
大堺和村七〇二

○公立學校職員俸給令

勅令第六六號(明治三六、三、二八)

第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、大學豫科、高等學校、師範學校、中學校、高等女學校、實業學校、青年學校、盲學校、聾啞學校及國民學校ノ職員ニシテ勅任官、奏任官又ハ利任官ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ

第二條 勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル專門學校、實業專門學校、大學豫科及高等學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル

第二條ノ二 高等科ヲ置ク高等女學校ノ學校長、教授及奏任官ノ待遇ヲ受クル教諭ノ年俸ハ第二號表ニ依ル

第三條 奏任官ノ待遇ヲ受クル高等學校尋常科、高等學校豫科、師範學校、中學校、高等女學校、高等科ヲ置ク高等女學校、實業專門學校、青年學校、盲學校及聾啞學校ノ職員ノ年俸ハ第三號表ニ依ル

第四條 利任官ノ待遇ヲ受クル職員(國民學校職員ヲ除ク)ノ月俸ハ第四號表ニ依ル

第四條ノ二 國民學校職員ノ月俸ハ第五號表ニ依ル

第五條 官吏ニシテ在官ノ儘職員ニ任ゼラレタル者ノ俸

給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第六條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ六百圓以内、利任官ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ四百圓以内ノ加俸ヲ給スルコトヲ得、但シ國民學校職員ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 教員ニシテ舍監、主事ヲ兼ヌル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應ジ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第九條 二校以上ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

第十條 陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セズ但シ其ノ俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第十一條 俸給ハ每級在職一年以上ニ至ラザレバ増給スルコトヲ得ズ但シ奏任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸千百三十圓以下(國民學校職員ニ在リテハ月俸九十

五圓以下)ノ者及利任官ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸七十五圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前條ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其ノ最モ近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムコトヲ得

前項ノ規定ハ年千百三十圓以下又ハ月俸七十圓以下(奏任官ノ待遇ヲ受クル國民學校職員ニ在リテハ月俸九十五圓以下)ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十三條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムコトヲ得

前二項ノ規定ハ年俸千百三十圓以下又ハ月俸七十五圓以下(奏任官ノ待遇ヲ受クル國民學校職員ニ在リテハ月俸九十五圓以下)ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用

公立學校職員俸給令

三〇〇

用セズ
退職後一年以内ニ名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任ゼラルル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 前三條ノ俸給額ニハ加俸ヲ算入セズ

第十五條 退職者ニハ其ノ休職中俸給三分ノ一ヲ給ス但シ公立學校職員分限令第八條第一項第四號又ハ第六號ノ規定ニ依リ休職ヲ命ゼラレタル者ニ付テハ之ヲ給セズ又ハ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得

第十五條ノ二 師範學校ヲ卒業シタル師範學校訓導及國民學校訓導ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ服役中俸給ヨリ其ノ三分ノ二ニ相當スル額及陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ受クル俸給ノ額ノ合算額ヲ減ズ一、現役兵ニシテ在營中ノ者(兵タル下士官候補者、憲兵上等兵、憲兵教習兵、軍樂上等兵及現役下士官又ハ憲兵上等兵タランコトヲ志願シ現役ノ期間ヲ延長セラレタル者並ニ海願志願兵ヲ除ク)ヨリ任ゼラレタル者(志願ニ依リ陸軍現役下士官ニ任ゼラ

レタル者及歸休期間中ニ在ル者ヲ除ク)

三、修業期間中ニ在ル幹部候補生ニシテ現役兵(歸休兵ヲ除ク)ヨリ採用セラレタル者

四、修業期間中ニ在ル操縦候補生ニシテ現役兵(歸休兵ヲ除ク)未ダ現役兵ニ非ザルモ徵兵終決處分ニ依リ現役編入ノ處分アリタル者又ハ未ダ徵兵終決處分ヲ經ザル者ヨリ採用セラレタル者

五、陸軍補充令第八十三條第一項ノ下士官候補者ニシテ現役兵(歸休兵ヲ除ク)未ダ現役兵ニ非ザルモ徵兵終決處分ニ依リ現役編入ノ處分アリタル者又ハ未ダ徵兵終決處分ヲ經ザル者ヨリ採用セラレタル者

第十六條 特別ノ事情ニ依リ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ指揮ヲ承ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條 高等官々等俸給令第二十三條乃至第二十九條ノ規定ハ勅任官又ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル職員(國民學校職員ヲ除ク)ニ關シ判任官俸給令第十四條ノ規定ハ奏任官ノ待遇ヲ受クル國民學校職員及判任官ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ之ヲ準用ス

第十八條 俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

附 則

第十九條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケザル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク
現ニ本令ニ規定スル俸給額ニ相當セザル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ内現在ノ儘支給スルコトヲ得但シ其ノ者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノト看做ス

附 則 (大正六年一月勅令第八號)

本令ハ大正六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス
公立學校職員制附則第三項ノ規定ニ依リ任ゼラレタル者本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレザルトキハ現ニ受クル級俸俸給額ヲ受クルモノトス

附 則 (大正八年勅令第二十七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ師範學校又ハ實業學校ノ訓導ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレザルトキハ現ニ受クル

第六編 職 員

俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ナキトキハ從前ノ俸給ヲ受クルモノトス

本令施行ノ際現ニ師範學校又ハ實業學校ノ訓導ニシテ公立學校職員俸給令第六條ノ加俸ヲ受クル者ニ付テハ現ニ受クル俸給ト加俸トノ合算額ヲ以テ前項ノ俸給額ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス

附 則 (大正九年勅令第三百二十六號)

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス
從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル本俸及臨時手當ノ合計額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受クルモノトス大正九年七月三十一日現在ニ於テ休職中ノ者ニ付テハ其ノ在職最終ノ本俸ニ付前項ノ規定ヲ準用ス
從前ノ規定ニ依リ一級俸ヲ受ケタル在職年數ハ之ヲ本令ニ依ル一級俸ヲ受ケタル在職年數ト看做ス但シ從前ノ規定ニ依リ一級俸ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ガ本令ニ依ル改正俸給ノ二級俸以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三〇一

公立學校職員俸給令

三〇二

從前ノ規定ニ依ル加俸ヲ受クル者ハ其ノ本俸トシテ本令ニ依ル一級俸ヲ受ケ其ノ加俸トシテ從前ノ本俸及加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ本令ニ依ル一級俸ノ金額ヲ控除シタルモノヲ受ク但シ從前ノ本俸及加俸ノ合計額ニ付第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ガ本令ニ依ル一級俸以下ナルトキハ本俸トシテ其ノ金額ニ相當スル級俸ヲ受ケ相當級俸ナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受ク第二項但書及前項但書ノ規定ニ該當スル者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノトス

附 則 (大正十年勅令第十六號)

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ公立實業補習學校ノ訓導タル者ニシテ辭令書ヲ用キズ當該學校ノ助教諭ニ任ゼラレタルモ

ノハ從前ノ俸給額ニ相當スル級俸ヲ受クルモノトス但シ相當級俸ナキトキハ從前ノ俸給額ヲ受クルモノトス

附 則 (大正十年勅令第三百十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ高等科ヲ置ク高等女學校ノ學校長ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレザル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル級俸ヲ相當級俸ナキトキハ現ニ受クル金額ノ俸給ヲ受クルモノトス

從前ノ俸給(月額)

改正

俸給(月額)

百六十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百六十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百四十八圓ヲ加ヘタル額但シ百八十圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百六十圓未滿ニシテ百四十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百四十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百三十一圓ヲ加ヘタル額但シ百四十八圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百四十圓未滿ニシテ百三十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百三十圓トノ差額ニ百二十二圓ヲ加ヘタル額但シ百三十一圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百三十圓未滿ニシテ百二十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百二十圓トノ差額ニ百十四圓ヲ加ヘタル額但シ百二十二圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百二十圓未滿ニシテ百十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百十圓トノ差額ニ百五圓ヲ加ヘタル額但シ百十四圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百十圓未滿ニシテ百圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百圓トノ差額ニ九十七圓ヲ加ヘタル額但シ百五圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百圓以下ニシテ九十七圓ヲ超ユルモノ	九十七圓

公立學校職員俸給令

三〇四

前項ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム
 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ月額九十圓以下ノ俸給ヲ受クル判任官待遇ノ職員ハ定額ノ改正ニ拘ラズ從前ノ俸給ヲ受ク
 從前ノ規定ニ依ル俸給ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正俸給ノ各級ニ於ケル在職年數ト看做ス
 從前ノ規定ニ依リ改正俸給ニ相當セザル俸給ヲ受クルトキハ之ヲ從前ノ級俸ト同等ノ改正俸給ヲ受クルモノト看做ス
 前項ノ規定ハ級俸ニ相當セザル俸給ヲ受クル職員ノ級俸ニ之ヲ準用ス
 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル判任官待遇ノ職員ハ本令ニ依リ其ノ俸給額ニ變更アルモ從前ノ待遇等級ヲ降ルコトナキモノトス

參照

附 則 (昭和十六年勅令第九十九號)

本令ハ昭和十六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年勅令第十二號附則第二項中「七百圓」ヲ「六百圓」ニ改ム

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年額千二百圓以上ノ俸給ヲ受クル者ハ本令ニ依リ之ヲ該當スル俸給ノ級俸ノ區分アルモノニ付テハ當該順位ノ級俸ヲ受ケ年額千二百圓又ハ千圓ノ俸給ヲ受クル者ハ定額ノ改正ニ拘ラズ從前ノ俸給ヲ受ク

本令施行ノ際現ニ本令ノ定ムル定額ニ該當セザル俸給ヲ受クル者ハ其ノ俸給年額千二百圓ヲ超ユルモノニ在リテハ從前ノ之ニ直近スル下位ノ俸給定額ノ例ニ依リ減額シタル俸給ヲ受ケ俸給年額千三百圓ヲ超エ千二百圓ニ滿タザルモノニ在リテハ年額千三百圓ノ俸給ヲ受ク

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年功加俸又ハ第七條第八項ノ增加額ヲ受クル者ハ其ノ十分ノ九ノ年功加俸又ハ增加額ヲ受ク但シ所定ノ最高限ヲ超ユルコトヲ得ズ

前二項ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第九條第二項、第十七條第二項第三項及第十九條第二項ノ規定ハ本令施行前ノ在職ニ付テハ從前ノ規定ニ定ムル俸給額ヲ基準トシテ之ヲ適用ス
 本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ俸給(年功加俸ヲ含ム)ヲ受クル判任官ニ付テハ其ノ意ニ反シテ現ニ受クル額ヲ減スルコトナシ

附 則 (昭和十六年勅令第一百五十八號)

第三號表

學 校	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
	三、五〇〇 円	三、〇〇〇 円	二、七〇〇 円	二、四〇〇 円	二、一〇〇 円	一、八〇〇 円	一、五〇〇 円	一、二〇〇 円	一、〇〇〇 円	九〇〇 円	八〇〇 円	七〇〇 円	六〇〇 円
教 諭	二、七〇〇	二、五〇〇	二、三〇〇	二、一〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九七〇

第四號表

大 學 院	助 教 授	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級

第六編 職員

三〇五

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 市町村立小學校ノ訓導ノ在職ハ第十一條乃至第十三條ノ改正規定ノ適用ニ付テハ之ヲ國民學校訓導ノ在職ト看做ス
 國民學校職員ノ俸給ハ第八條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

高等師範學校	高等女子實業學校	高等師範學校	高等師範學校	高等師範學校
校長	校長	教諭	書記	訓導
二四〇	二四〇			
二三五	二三五			
二五〇	二五〇			
二五五	二五五			
二六〇	二六〇			
二六五	二六五			
二七〇	二七〇			
二七五	二七五			
二八〇	二八〇			
二八五	二八五			
二九〇	二九〇			
二九五	二九五			
三〇〇	三〇〇			

高等師範學校	高等師範學校	高等師範學校	高等師範學校	高等師範學校
助教諭	舍監	保母	書記	助教諭
二一五				
二二〇				
二二五				
二三〇				
二三五				
二四〇				
二四五				
二五〇				
二五五				
二六〇				
二六五				
二七〇				
二七五				
二八〇				
二八五				
二九〇				
二九五				
三〇〇				

第五號表

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

公立學校職員俸給支給細則

國民學校		訓導	
養護訓導	訓導	一級	二級
一三	一六	一三	一三
二五	一四	一三	一三
二五	一三	一三	一三
一〇	一〇	一三	一三
九	一〇	一三	一三
八	九	一〇	一〇
七	八	八	八
六	七	七	七
五	六	六	六
四	五	五	五
三	四	四	四
二	三	三	三
一	二	二	二

國民學校職員ニシテ一級俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ訓導ニ在リテハ二百十五圓迄、養護訓導ニ在リテハ百六十五圓迄漸次増給スルコトヲ得

○公立學校職員俸給支給細則

縣令第四三號(明治三六、五、八)

第一條 年俸月俸ノ支給日ハ毎月二十一日、國民學校職員ニ在リテハ毎月二十三日トス但シ休日ニ當ルトキハ順次之ヲ繰下グ

第二條 退職及死亡ノ時又ハ俸給ヲ給セザル休職者ニアリテハ當月分ノ俸給全額ヲ其ノ際支給ス但シ減給ニ係ルモノハ其ノ現ニ受クル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス

休職、退職ノモノニシテ殘務調理ヲ命ゼラレタル者其

ノ調理翌月以降ニ渉ルトキハ調理終了ノ日迄日割ヲ以テ從前ノ俸給ヲ其ノ際支給ス

第三條 轉任者ノ俸給ハ第一條ノ支給日ニ拘ラズ日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其ノ際支給ス俸給支給定日後新任増俸又ハ他ヨリ轉任シ來リタルモノハ俸給ハ日割計算ヲ以テ其ノ際支給ス

第四條 病氣ノ爲メ執務セザルモノ判任官待遇以上ノ者ニシテ九十日ヲ踰ユルトキハ俸給ノ半額ヲ減ズ但シ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルモノハ此ノ限りニアラス

第五條 前條ノ外私事ノ故障ニ依リ執務セザルコト三十日ヲ踰ユルトキハ俸給ノ半額ヲ減ズ但シ服忌ヲ受クルモノハ此ノ限ニアラス

第六條 忌引ノ場合ト第四條若ハ第五條ノ場合ト連續スルトキハ其ノ忌引ノ日數ヲ控除ス又病氣ト私事ノ故障

ト連續スル場合ニ於テモ之ヲ通算セズ

第七條 轉任、減俸其ノ他ノ事故ニ依リ俸給過渡アルトキハ其ノ際追徴ス

第八條 日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第九條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生ズルトキハ之ヲ切捨トス

○公立學校職員年功加俸令

勅令第五一九號(大正九、一〇)

第一條 師範學校並公立ノ高等學校尋常科、中學校、高等女學校、實業學校、青年學校、盲學校、聾啞學校及青年學校教員養成所ノ學校長、所長、教諭、助教諭、令監、訓導及保母ニシテ五年以上勤續スル者ニハ年功加俸ヲ給ス

前項各職間ノ轉職ハ之ヲ勤續ト看做ス學校ノ廢止又ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日內ニ前項ニ掲グル職ニ就キタルトキ亦同ジ

第一項ノ實業學校ニハ實業專門學校ヲ、學校長ニハ師

第六編 職員

第一條 市町村立小學校ノ訓導又ハ准訓導第一條第一項ニ掲グル職ニ轉シタル場合ニ於テハ其ノ市町村立小學校教員加俸令ニ依ル勤續年數ハ之ヲ第一條第一項ニ規定スル勤續年數ニ通算ス小學校ノ正教員又ハ准教員ノ資格ヲ有シ市制町村制ヲ施行セザル地方ノ小學校教育規程ニ依ル公立小學校ニ在職スル者第一條第一項ニ掲グル

第二條 北海道地方費及府縣ハ前條ノ年功加俸ニ充ツル爲公立學校職員年功加俸國庫補助法第二條ノ規定ニ依リ受クル交付金ト同額以上ノ金額ヲ支出スベシ

第三條 北海道地方費及府縣ハ公立學校職員年功加俸國庫補助法第二條ノ規定ニ依リ受クル交付金及前條ノ規定ニ依ル支出金ヲ以テ公立學校職員年功加俸資金ト爲シ特別會計ヲ設置スベシ

第四條 年功加俸ノ年額ハ別表ニ依ル

第五條 年功加俸ノ支給ニ關シテハ俸給支給ノ例ニ依ル

第六條 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキハ一定ノ期間年功加俸ノ一部又ハ全部ヲ停止スルコトヲ得

第七條 市町村立小學校ノ訓導又ハ准訓導第一條第一項ニ掲グル職ニ轉シタル場合ニ於テハ其ノ市町村立小學校教員加俸令ニ依ル勤續年數ハ之ヲ第一條第一項ニ規定スル勤續年數ニ通算ス小學校ノ正教員又ハ准教員ノ資格ヲ有シ市制町村制ヲ施行セザル地方ノ小學校教育規程ニ依ル公立小學校ニ在職スル者第一條第一項ニ掲グル

公立學校職員年功加俸令

三一〇

ル職ニ轉シタル場合ニ付亦同シ
前項ノ規定ノ適用ニ付テハ學校ノ廢止又ハ學級編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日內ニ第一條第一項ニ掲グル職ニ就キタルトキハ之ヲ轉任ト看做ス
第八條 師範學校長ニシテ在官ノ儘第一條第一項ニ掲グル職ニ在ル者師範學校長勤續加俸令ニ依リ勤續加俸ヲ受クルトキハ本令ニ依ル年功加俸ハ之ヲ給セズ
本令ニ依リ現ニ受クル年功加俸ハ之ヲ停止ス
第九條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外年功加俸ノ支給ニ關スル規定ハ地方長官之ヲ定ム
本令ハ大正九年十月分ヨリ之ヲ適用ス
大正九年九月三十日現在ニ於テ勤續五年以上ニ達シタル者ハ本令ノ適用ニ付テハ同日ニ於テ勤續五年ニ達シタルモノト看做ス

附 則 (大正十四年勅令第二百七十五號)
本令ハ大正十四年四月分ヨリ之ヲ適用ス
盲學校及聾啞學校令及實業補習學校教員養成所令施行前ノ公立ノ盲啞學校又ハ實業補習學校教員養成所ニ於ケル職員ハ大正九年四月一日以後ニ限り本令ノ適用ニ

付テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ第一條第一項ノ職員タリシモノト看做ス
本令ノ適用ニ因リテ大正十四年三月三十一日現在ニ於テ勤續五年以上ニ達スルコトトナル者ハ本令ノ適用ニ付テハ同日ニ於テ勤續五年ニ達シタルモノト看做ス
附 則 (昭和六年勅令第二十一號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年功加俸ヲ受クル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ百圓以上ノ場合ニ在リテハ其ノ百分ノ九十三ノ額ヲ、百圓未滿ノ場合ニ在リテハ其ノ百分ノ九十六ノ額ヲ受ク但シ左ノ制限ニ依ル
一、所定ノ最高限ヲ超エ又ハ所定ノ最低額ヲ下ルコトヲ得ズ
二、百圓未滿ノ場合ニ在リテハ年額九十三圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
三、奏任官待遇ノ者ニ在リテハ改正本俸ト合シテ年額千百三十圓ヲ、判任官待遇ノ者ニ在リテハ改正本俸ト合シテ月額九十七圓ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ計算スル金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム
前二項ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年功加俸ヲ受クル者ニシテ其ノ年功加俸ト改正本俸トノ合計額ガ奏任官待遇ノ者ニ在リテハ年額千百三十圓未滿、判任官待遇ノ者ニ在リテハ月額九十七圓未滿ノモノニハ之ヲ適用セズ前項ニ規定スル者ハ別表ノ改正ニ

拘ラズ現ニ受クル年功加俸ヲ受クルモノトス
附 則 (昭和十年勅令第五十一號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ實業補習學校又ハ實業補習學校教員養成所ノ職員ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ青年學校又ハ青年學校教員養成所ノ職員タリシモノト看做ス

(別表)

勤續年數	學校長 所長 教諭 助教諭 舍監		訓 導		保 姆	
	俸給月額	圓位未滿	俸給月額	圓位未滿	俸給月額	圓位未滿
勤續五年以上十年未滿	九拾六圓乃至	百拾圓	七拾貳圓乃至	七拾六圓乃至	參拾六圓乃至	參拾圓
勤續十年以上十五年未滿	百四拾四圓乃至	百四拾八圓	八拾四圓乃至	百四拾四圓乃至	七拾四圓乃至	八拾四圓乃至
勤續十五年以上	百九拾貳圓乃至	百九拾貳圓	百八圓乃至	百六拾八圓乃至	九拾六圓乃至	百參拾貳圓

公立學校職員年功加俸支給細則

縣令第三〇號(大正一〇、三、二九)

第一條 公立學校職員ニシテ公立學校職員年功加俸令第一條ニ該當スル者ニハ左表ニ依リ年功加俸ヲ給ス

公立學校職員年功加俸支給細則

三一

勤続年数	校長 教諭 助教 監 加俸年額		訓導 保母 加俸年額	
	俸給月額△圓以上	俸給月額△圓未満	俸給月額△圓以上	俸給月額△圓未満
勤続五年以上十年未満	九六 ^四	六〇 ^四	七二 ^四	三六 ^四
勤続十年以上十五年未満	一四四	八四	一二〇	七二
勤続十五年以上	一九二	一二〇	一六八	九六

第二條 公立學校職員年功加俸ノ支給ニ關シテハ公立學校職員俸給支給細則ヲ準用ス

本令中第一條ハ大正九年十月分ヨリ之ヲ適用ス

公立學校職員年功加俸給與手續

縣訓第一〇六號(大正一五、一一)

第一條 公立學校職員中年功加俸受給者ハ各學校ヨリ一人ノ總代理人ヲ指定シ其ノ氏名ヲ學校長ニ届出ヅベシ
 第二條 年功加俸受給者ハ毎月十日迄ニ別記様式第一號ニ依ル通知書ヲ總代理人ニ提出スベシ

第三條 總代理人ハ別記様式第二號ニ依ル請求書ヲ學校長ニ提出スベシ
 第四條 學校長前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ加俸臺帳及總代理人指定届書ト對照シ相違ナシト認メタルトキハ其ノ旨證明ノ上遲滞ナク知事ニ之ヲ進達スベシ
 第五條 前條ノ規定ニ依リ請求書ヲ進達シタル後ニ於テ加俸支給ノ事由發生シ又ハ加俸金額ニ異動ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク前三條ノ規定ニ準ジ追加請求又ハ返納ノ手續ヲ爲スベシ
 第六條 學校長ハ別記様式第三號ニ依ル加俸臺帳ヲ備付

クベシ

第七條 學校長ハ其ノ校職員左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ別記様式第四號ニ依リ遲滞ナク知事ニ之ヲ開申スベシ
 一、年功加俸ヲ受クベキ事由發生シ又ハ消滅シタルトキ
 二、加俸年額ニ異動ノ事由ヲ生ジタルトキ

第八條 學校長ハ左ノ各號ニ依リ毎年三月末日現在ニ於テ其ノ校職員中四年以上五年未満九年以上十年未満十四年以上十五年未満勤續ノモノヲ調査シ四月二十日迄ニ別記様式第五號ニ依リ知事ニ之ヲ報告スベシ
 一、職員ノ範圍及勤續年數ノ計算ニ關シテハ公立學校職員年功加俸令第一條及第七條ノ規定ニ依ル
 二、公立學校職員俸給令第九條ニ依リ俸給ノ分割支給ヲ受クル者ハ支給額多キ方ノ職員ノ欄ニ掲ゲ俸給額ハ其ノ合計ニ依ル

第九條 學校長ハ毎年五月末日迄ニ前年度ニ於ケル其ノ校職員ノ年功加俸支給ノ情況ヲ調査シ別記様式第六號ニ依リ之ヲ報告スベシ

第六編 職員

様式第一號

昭和 年 月分公立學校職員年功加俸通知書
 金額金何 圓
 一、金何 程
 是ハ何月何日ヨリ何月何日迄何日(月)分

内譯
 一金何 程 國庫納金額
 一金何 程 現金受領額

何郡(市)何町(村)大字何
 校名

職氏 名 印
 總代理人 某殿

様式第二號

昭和 年 月分公立學校職員年功加俸金請求書
 一金何 圓
 是ハ何校職員年功加俸金何某外何名分
 内譯

三一三

公立學校職員年功加俸支給細則

三二四

計	俸給額	加俸年額	加俸月額	加俸減額	支給額	納金額	支現給額	摘要	任別	職氏名

右請求候也

年 月 日

何郡(市)何町(村)大字何
何校何某外何名總代理人(兼)

氏 名 印

仕拂命令官

岡山縣知事 何 某 殿

前書相違ナキコトヲ證明ス

年 月 日 何校長 氏 名 印

備考

一、俸給額欄ニハ奏任官待遇者ニ在リテハ現在支給ノ

俸給年額ヲ判任官待遇者ニ在リテハ現在支給ノ俸給
月額ヲ記載スルコト

二、加俸年額及加俸月額欄ニハ舊公立學校職員年功加
給支給細則ニ依リ支給ヲ受ケ居ル者ニ在リテハ其ノ
加俸額ヲ、新公立學校職員年功加俸支給細則依リ新
ニ加俸ヲ受ケル者、又ハ加俸額ニ異動ヲ生ジタル者
ニ在リテハ其ノ加俸額ヲ記載スルコト

三、新公立學校職員年功加俸支給細則ニ依リ新ニ加俸
ヲ受ケルニ至リ又ハ加俸額ニ異動ヲ生ジタル者ニ在
リテハ其ノ支給額又ハ異動年月日ヲ摘要欄ニ記載シ
加俸減額支給額欄ニハ記載ヲ要セズ

様式第三號

(校名)

氏 名	年功加俸	職 名	職 務	俸 給	勤 績	年 數
	年 額	職 名	職 務	金 額	年 月 日	年 數
	年 月 日	職 名	職 務	年 月 日	年 月 日	年 數
	年 月 日	職 名	職 務	年 月 日	年 月 日	年 數

様式第四號

年 月 日 開 申

何學校長 氏 名 印

岡山縣知事 何 某 殿
公立學校職員年功加俸ニ關スル件
左表ノ通及開申候也

加俸受給資格發生又ハ消 減、受給年額異動年月日	事 由	加俸年額	俸給月額	職 氏 名	備 考

第六編 職員

三二五

公立學校職員年功加俸支給細則

模式第五號

年 月 日

何學校長 氏

名 團

左表ノ通及報告候也

三一六

月	日	同上	摘	要	俸	給	職	氏	名
		同上年數別							
滿十五年	相當月日	(五十年相當)	(何年何月何日何校初任)						
滿十年	相當月日	(十年相當)	(何年何月何日何校初任)						
滿五年	相當月日	(五年相當)	(何年何月何日何校初任)						

備考 其ノ年度中ニ於ケル勤務五年、十、十五年ニ達スベキモノヲ月日順ニ記載スルコト

年 月 日 何學校長 氏 名 團

公立學校職員年功加俸支給情況調ノ件

模式第六號

報 告

左表ノ通及報告候也

(學校長)	(教諭)	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
		人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
		五年以上	十年未満	十年以上	十五年未満	十五年以上	計				

岡山縣知事 何 某 殿 公立學校職員年功加俸支給情況調ノ件

年 月 日

(助教諭)	(舎 監)			小 計	俸給一人當	支給年額	(訓 導)	(保 姆)				小 計
何	何						何	何				
圓	圓						圓	圓				

第六編 職員

國民學校職員旅費規則

○國民學校職員旅費規則

縣令第二號(昭和一六、一、一四)

- 第一條 國民學校職員職務ニ依リ旅行スル者ニハ旅費ヲ支給ス旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、赴任手當、移轉料及家族移轉料ノ九種トス
- 第二條 鐵道賃及船賃ハ實際ノ料金ニ依リ馬車賃、日當、宿泊料及食卓料ハ別表第一號表ニ掲グル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス
- 第三條 特別ノ事由アルトキハ管理者ハ修學旅行、學事視察等ノ爲メ出張スル職員ニ對シ本人ノ承諾又ハ知事ノ認可ヲ受ケテ旅費ノ減額支給ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル
- 第五條 鐵道賃ハ左ノ區分ニ從ヒ旅客運賃(通行稅ヲ含ム)及急行料金ニ依リ之ヲ計算ス

- 一、奏任官待遇者ニ在リテ一等ノ運賃、但シ一等車ノ連絡ナキ線路ニ依ル旅行ニ在リテハ二等ノ運賃
- 二、判任官待遇者、准訓導及助教ニ在リテハ二等ノ運賃
- 三、運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ奏任官待遇者、判任官待遇者、准訓導助教共上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケザルモノニ在リテハ其ノ乘車ニ要スル運賃
- 四、八十五軒以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金但シ急行料ヲ徴セザル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第六條 船賃ハ旅客運賃(通行稅、解船賃、棧橋賃、寢臺料及普通運賃ノ外別ニ食費ヲ要スル場合ニ於テハ夕食及朝食ニ對スル所定ノ料金ヲ含ム)ニ依リ鐵道賃ノ例ニ準ジ之ヲ計算ス
- 第七條 鐵道旅行ハ軒數ニ應ジ汽車賃ヲ、水路旅行ハ海里數ニ應ジ船賃ヲ、其ノ他ノ旅行ハ陸路旅行トシ里數ニ應ジ車馬賃ヲ支給ス
- 第八條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張地ニ於ケ

ル滞在日數及途中已ムヲ得ザル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ三百三十軒水路旅行ハ百海里陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ズ但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

- 第九條 赴任ノ場合ニ於テハ、別ニ赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給ス但シ新任ニ任用セラレタル者ニ對シテハ之ノ限ニ在ラズ
- 赴任手當、移轉料ハ別表第二號表ノ額ニ依ル
- 家族移轉料ハ家族一人毎ニ舊任地又ハ本人ノ居住地ヨリ新任地ニ至ル本人相當ノ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料食卓料ノ金額ノ外ニ縣外ヨリ赴任ノ場合ハ赴任手當ノ三分ノ二縣内赴任ノ場合ハ赴任手當ノ三分ノ一ニ該當スル金額トス但シ十二歳未滿ノ家族ニ付テハ其ノ半額トス
- 家族ノ數三人ヲ超過スルトキハ其ノ超過スル者ニ付支給スル家族移轉料ハ前項ノ規定ニ依ル給額ノ半額トス
- 赴任者赴任後一年以内ニ其ノ家族故ナクシテ新任地ニ移轉セザルトキハ家族移轉料ヲ支給セズ

第六編 職

員

- 移轉料ハ自宅ヨリ通勤スル者及單身任地ニ居住スル者ニハ支給セズ
- 縣外ヨリ移轉ノ場合ハ赴任手當及移轉料並ニ家族移轉料ヲ支給セザルコトヲ得
- 第十條 陸路六里未滿、鐵道七十八軒未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スベキ日當ノ定額ノ半額トス
- 一旅行ニシテ陸路鐵道又ハ水路ニ亘ルトキハ鐵道ハ三軒水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス
- 第十一條 私事ノ爲任地又ハ居住地以外ニ滞在スル者轉任ヲ命ゼラレ又ハ新任ニ任用セラレ滞在地ヨリ赴任スル場合ニ於テハ滞在地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヲ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費ヲ支給ス
- 前項ノ規定ハ私事ノ爲任地以外ニ滞在スル者滞在地ヨリ旅行スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第十二條 前條第一項ノ規定ハ舊任地又ハ本人ノ居住地以外ヨリ新任地ニ移轉スル家族ニ付支給スル家族移轉

國民學校職員旅費規則

料ニ之ヲ準用ス
 第十三條 車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ
 定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ通算ス通算上
 一里未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ切捨トス
 第十四條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スル必要
 アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラザルトキハ最近ノ到
 達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シ計算ス
 第十五條 旅行中退職職又ハ休職トナリタル者ニハ舊
 任地ニ至ル前職又ハ本職相當ノ旅費ヲ支給ス但シ刑事
 裁判又ハ懲戒處分ニ依リテ失職シ又ハ免職セラレタル
 者ハ此ノ限ニ在ラス

旅行中死亡シタル場合ニ於テハ前項ノ規程ニ準ジ旅費
 ニ相當金額ヲ遺族ニ支給ス
 第十六條 轉任ノ場合ニ於ケル旅費額ハ事情ニ依リ定額
 ヲ減少シ若ハ其ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得
 第十七條 本則ニ定ムルモノ以外ノ支給方法ハ内國旅費
 規則所定ノ例ニ依ル
 第十八條 本規則ノ適用ニ付テハ市町村學校組合又ハ町
 村學校組合ハ之ヲ市町村ト看做ス
 附 則
 本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 別表

第一號表

國民學	區 別		車馬賃一里ニ付	日當一日ニ付	宿泊料一夜ニ付	食卓料一度ニ付
	縣 內	縣 外				
委任官待遇	五拾錢	七拾五錢	貳圓	貳圓	參圓	壹圓九拾錢
	貳圓	貳圓	貳圓	參圓	貳圓九拾錢	貳圓九拾錢

第二號表

導訓校	判任官待遇		准訓導及助教
	縣 內	縣 外	
准訓導及助教	五拾錢	七拾五錢	五拾錢
	壹圓五拾錢	貳圓	貳圓五拾錢
准訓導及助教	壹圓四拾錢	壹圓九拾錢	壹圓
	壹圓	壹圓	壹圓

區 分	赴任手當		移轉料	准訓導及助教
	赴任手當	移轉料		
縣 內	一日當	宿泊料	奏任官待遇	判任官待遇
	一日分	一夜分		
縣 外	三日分	二夜分	八拾圓	四拾五圓
	五日分	五夜分		
陸路六十里未滿	同日分	同夜分	八拾圓	四拾五圓
陸路六十里以上	同日分	同夜分	百圓	貳拾七圓

○公立中學校公立實業學校及公立高等
 女學校職員旅費支給ニ關スル規程

縣令第三三號(明治三四、四、八)

第六編 職員

第一條 學校長、教諭、助教諭、訓導、書記、舍監、准
 訓導ノ旅費ハ本規程ニ依リ支給ス
 第二條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル校長及教諭ニハ
 一等旅費ヲ支給ス

國民學校職員旅費規則

三二四

第三條 左ニ掲グル者ニハ二等旅費ヲ適用ス
 一、判任文官ト同一ノ遇待ヲ受クル教諭、助教諭、訓導、書記及舎監
 二、教諭若ハ助教諭ノ代動ヲ命ジタル履教員
 第四條 准訓導及履員ニハ三等旅費ヲ支給ス
 第五條 生徒修學又ハ行軍旅行ヲ爲ストキ監督ノ爲出張スル職員並履員ノ旅費ハ普通ノ類ニ依ラズ日額トシテ一日貳圓五拾錢ノミヲ支給ス但シ出發ノ當日歸着シタルトキハ其ノ半額ヲ支給ス
 前項ノ旅行ニシテ鐵道賃、船賃ヲ要スルトキハ鐵道賃

一哩四錢、船賃一海里五錢ヲ支給ス
 第五條ノ二 赴任スル場合ニ於テハ赴任手當移轉料及家族移轉料ヲ支給ス
 赴任手當及家族移轉料ノ額ハ縣外ヨリ赴任スル場合ハ內國旅費規則第六條ヲ縣内ニ於テ赴任スル場合ハ（大正九年本縣訓令第三十二號）ヲ準用ス（大正九年訓令第三十二號ハ大正十四年訓令第八號ニ依リ廢止）
 第六條 前各條ニ定ムルモノノ外旅費支給方法ハ別ニ定ムル所ニ依ル

旅費類

管外之部

等級	鐵道賃 一哩ニ付	船賃 一海里ニ付	車馬賃 一里ニ付	宿泊料 一夜ニ付	日當 一日ニ付	食卓料 一度ニ付	移轉料
一等	六錢	七錢	七拾五錢	六圓	四圓	貳圓五拾錢	百圓
二等	五錢	六錢	七拾五錢	五圓	參圓	貳圓	八拾圓
三等	四錢	五錢	七拾五錢	四圓	貳圓	貳圓	六拾圓

管内之部

等級	鐵道賃 一哩ニ付	船賃 一海里ニ付	車馬賃 一里ニ付	宿泊料 一夜ニ付	日當 一日ニ付	食卓料 一度ニ付	移轉料
一等	六錢	七錢	五拾錢	四圓	參圓	貳圓	八拾圓
二等	五錢	六錢	五拾錢	參圓	貳圓	壹圓八拾錢	六拾圓
三等	四錢	五錢	五拾錢	貳圓五拾錢	壹圓五拾錢	壹圓五拾錢	四拾圓

○高等官官等俸給令

勅令第一三四號(明治四三、三、二八)

第二十三條 高等文官死亡シタルトキハ在職最終年俸三分ノ一ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス
 前項ノ遺族トハ、配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ本人ノ死亡當時之下同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ本人ノ死亡後二年以内ニ昭和十五年法律第四號(命令ニ於テ依ル場合及準用スル場合ヲ含ム)ノ適用ヲ受ケ本人死亡ノ當時之下同一戸籍内ニ在ル配偶者、子、父母、孫、祖父母又ハ兄弟姉妹ト爲ルニ至リタル

第六編 職

員

者亦同ジ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クベキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ゲタル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ヅ
 第二項ノ遺族ナキ場合ニ於テハ本人死亡ノ當時實家ニ在ル實父母、家督相續人、本人死亡ノ當時ニ於ケル戸主ノ順位ニ依リ第一項ニ定ムル金額ノ二分ノ一ヲ給スルコト得
 終身官ニ付テハ其ノ在職中死亡シタル場合ニ限り前四項ノ規定ヲ準用ス
 第二十三條ノ二 前條第二項後段ニ規定スル者ニ對シテ

三二五

判任官俸給令

三二六

ハ既ニ死亡賜金ヲ給セラレタル者ナキトキニ限り之ヲ給ス但シ前條第四項ノ規定ニ依リ死亡賜金ヲ給セラレタル者アルトキハ其ノ差額ヲ給スルコトヲ得

第二十四條 年俸八十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第二十五條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス但シ廢官又ハ廢校ニ因ル退職者即日他官ニゼ任ラルトキハ發令ノ翌日ヨリ計算ス退職又ハ待命ヲ命ゼラレ年俸全額ヲ給セザル場合ハ減俸ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二十六條 俸給令ノ改正ニ因リ新ニ給スベキ俸給ハ改正規定施行ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第二十七條 廢官、退官、退職及死亡ノトキハ年俸月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス

第二十八條 休職、廢官、退官ノ者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ受ケ事務ニ從事スル場合ニ於テハ其ノ間仍從前ノ年俸ヲ給ス

第二十九條 病氣ノ爲執務セザルコト九十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セザルコト三十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ズ但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病

ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此ノ限ニ在ラス

判任官俸給令

勅令第一三五號(明治四三、三、二八)

第十三條 判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸四月分ノ額ニ相當スル死亡賜金ヲ其ノ遺族ニ給ス

前項ノ遺族トハ配偶者、子、父母、孫、祖父母及兄弟姉妹ニシテ本人ノ死亡當時之ト同一戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ本人ノ死亡後二年以内ニ昭和十五年法律第四號(命令ニ於テ依ル場合及準用スル場合ヲ含ム)ノ適用ヲ受ケ本人死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在ル配偶者、子、父母、孫、祖父母又ハ兄弟姉妹ト爲ルニ至リタル者亦同ジ

第一項ノ死亡賜金ヲ受クベキ遺族ノ順位ハ前項ニ掲ゲタル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續人ハ其ノ他ノ者ニ、男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ヅ

第二項ノ遺族ナキ場合ニ於テハ本人死亡ノ當時實家ニ

在ル實父母、家督相續人、本人死亡ノ當時ニ於ケル戸主ノ順位ニ依リ第一項ニ定ムル金額ノ二分ノ一ヲ給スルコトヲ得

第十三條ノ二 前條第二項後段ニ規定スル者ニ對シテハ既ニ死亡賜金ヲ給セラレタル者ナキトキニ限り之ヲ給ス但シ前條第四項ノ規定ニ依リ死亡賜金ヲ給セラレタル者アルトキハ其ノ差額ヲ給スルコトヲ得

第十四條 月俸ハ毎月下旬之ヲ支給ス
前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官々等俸給令ノ例ニ依ル

市町村立ノ小學校及青年學校ノ教員ニ對スル臨時家族手當支給ニ關スル件

縣令第九號(昭和一一、一、一八)

市町村立ノ小學校及青年學校ノ教員ニ對スル臨時家族手當支給ニ關スル件左ノ通定ム

市町村、市町村學校組合、町村學校組合ハ當分ノ内別ニ指示スル所ニ依リ市町村立(學校組合ヲ含ム)小學校及

青年學校ノ教員ニ對シ臨時家族手當ヲ支給スベシ

附 則
本令ハ昭和十五年十月分ヨリ之ヲ適用ス

國民學校及市町村立青年學校職員臨時家族手當支給要項改正ニ關スル件

學第一八九七號(昭和一一、七、七)

標記ノ件ニ關シテハ別紙ノ通改正相成タルニ付本年四月一日ヨリ之ヲ適用シテ支給相成度此段依命及通牒候

(別紙)

國民學校及市町村立青年學校ノ教職員臨時家族手當支給要項

- 一、國民學校職員又ハ市町村立青年學校職員ニシテ扶養家族ヲ有スル者ニハ本要項ニ依リ當分ノ内臨時家族手當ヲ支給スルコト但シ左ニ掲グル者ヲ除ク
- (一) 俸給、給料又ハ手當ノ支給ヲ受ケザル者(召集セラレタル者ヲ除ク)

臨時家族手當支給要項改正ニ關スル件

- (一) 休職中ノ者又ハ公立學校職員分限令第八條第二項ノ各號ノ一ニ該當スル者
 - (二) 臨時ノ職員(採用又ハ囑託ノ日ヨリ六月ヲ超エタル者ヲ除ク)
 - (三) 本要項ニ於テ扶養家族ト稱スルハ教職員ト同一戸籍内ニ在ル左ニ掲グル者ニシテ主トシテ其ノ教職員ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ヲ謂フ
 - (四) 配偶者
 - (五) 滿六十歳以上ノ直系尊屬
 - (六) 滿十八歳未滿ノ直系卑屬
 - (七) 不具癱疾者
- 内縁關係ニ在ル者(民法第七百七十五條ノ届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ謂フ)ハ前項ノ適用ニ付テハ之ヲ配偶者ト看做ス
- 三、臨時家族手當ノ額ハ月額三圓ニ扶養家族ノ員數ヲ乘ジテ得タル金額トスルコト但シ但シ俸給又ハ手當トヲ合シテ月額三百八十七圓ヲ超ユルコトヲ得ザルコト
 - 四、本要項ニ於テ俸給又ハ手當トハ左ニ掲グルモノヲ含ミタルモノヲ謂フコト

- (一) 年功加俸
 - (二) 特別加俸
 - (三) 普通恩給
- 五、明治三十七年勅令第二百六號(文官ニシテ陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給支給ニ關スル件)又ハ私事故障、病氣缺勤等ニ依リ俸給ノ減額支給ヲ受クル者ノ俸給月額ハ當該文官ノ減額セラレザル俸給ヲ基準トスルコト
- 六、臨時家族手當ノ手當額ニ之ヲ準用スルコト
 - 七、臨時家族手當ノ支給ヲ受ケントスル者ハ別記第一號ノ様式ニ依リ扶養家族届ヲ市町村長ニ提出スルコト扶養家族ニ異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ
 - 八、臨時家族手當ノ支給ヲ受クベキ要件ヲ具備スルニ至リタル場合ハ届出ノ翌月ヨリ支給ヲ開始シ之ヲ缺グルニ至リタル場合ハ事實發生ノ翌月ヨリ支給ヲ廢止スルコト
 - 九、扶養家族數増加シタル場合ハ届出ノ翌月ヨリ、扶養家族數減少シタル場合ハ其ノ事實發生ノ翌月ヨリ支給額ヲ改定スルコト

- 八、臨時家族手當ハ召集セラレタル者ニ付テハ教職員トシテノ奉職學校ノ市町村ニ於テ、徵用セラレタル者又ハ臨時陸海軍特設ノ事務等ニ從事スル者ニ付テハ現ニ服務スル官廳ニ於テ、二以上ノ市町村ノ學校ニ勤務スル教職員ニ付テハ本務ヲ有スル奉職學校ノ市町村ニ於テ支給スルコト
- 九、同一家族ヲ扶養スル者二人以上アル場合ニ於テハ民法第九百五十五條ニ規定スル扶養義務者ノ順位(同順位内ニ在リテハ男ハ女ニ長ハ幼ニ先ヅ)ニ依リ受給者ヲ定ムルコト但シ同一所管内ニ於テ同一家族ヲ扶養スル者二人以上アル場合ニ於ケル受給者ニ付テハ之ト異リタル取扱ヲ爲スコトヲ得ルコト
- 十、特別ノ事情ニ依リ前二號ニ依リ難キ場合ニ於テハ關係市町村長協議ノ上知事ノ指揮ヲ受ケ受給者ヲ定ムルコトヲ得ルコト
- 十一、臨時家族手當ハ俸給、給料又ハ手當支給ノ日ニ其ノ月分ヲ支給スルコト
- 十二、過失ニ依リ又ハ届出ノ遅延ニ依リ不當ニ臨時家族手當ノ支給ヲ受ケタルトキハ既ニ支給ヲ受ケタル手當

- ハ之ヲ返還セシムルコトトシ爾後ノ臨時家族手當ハ之ヲ支給セザルコトアルベキコト
- 十三、本要項ニ定ムルモノノ外臨時家族手當ノ支給ニ付テハ俸給、給料又ハ手當支給ノ例ニ依ルコト
- 十四、昭和十七年四月一日現在ニ於テ臨時家族手當ノ支給ヲ受クベキ要件ヲ具備スル教職員ニ在リテハ四月一日現在ニ依リ扶養家族届ヲ別記様式第一號ニ依リ至急市町村長ニ提出スルコト
- 十五、前號ニ依リ届出ヲ爲シタル者ニ對スル臨時家族手當ハ第七號ニ拘ラズ昭和十七年四月分ヨリ之ヲ支給スルコト
- 十六、市町村長ハ臨時家族手當國庫補助精算報告書ヲ別記第二號様式ニ依リ指定期日迄ニ所屬地方事務所へ提出スルコト
- 十七、地方事務所ハ前項報告書ヲ取纏メ集計ノ上別記第三號様式ニ依リ次期補助金交付一覽表ヲ作製シ前記報告書及集計表ト併セテ本廳へ提出スルコト

扶養家族届

昭和 年 月 日提出

三三〇

市町村長殿 學校組合管理者	住所	扶養家族數調	扶養家族ノ氏名	生年月日	職業	申請者ト 續柄	不具癱疾 ノ事實	扶養家族ノ所得 種類金額	備考
	職名								

備考

本調書ハ市町村長ニ於テ保管スルコト

第二號様式

昭和十七年度 (國民學校職員) 青年學校教員 臨時家族手當國庫補助精算報告書

市 町 村 校 組 合 名 名 圖

期 二 第	期 一 第			昭 和 四 年	月 別	毎 月 一 日 現 在 於 テ 其 ノ 月 支 給 ノ 於 準 タ ル 扶 養 家 族 數	果 計	交 國 庫 補 助 額	扶 養 家 族 數 二 對 ス ル 國 庫 補 助 金 ト 差 引 比 較	過 不 足	過 不 足 二 對 ス ル 措 置	
	九 月	八 月	七 月									六 月

第六編職員

三三一

合 計	第 四 期			第 三 期		
	三 月	二 月	一 月	十二 月	十一 月	十 月

備考
一、本表ハ既ニ經過シタル月ニ付テハ精算ヲ未ダ經過セザル月ニ付テハ見込ヲ計上シ左ノ記日迄ニ所屬地方事務所ヘ到達スル様報告スルコト
第一期分 六月十日
自第一期分 九月十日
至第二期分

自第一期分 十二月十日
自第二期分 三月十日
至第四期分
二、地方事務所ニ於テハ取纏メ集計上前項各月ノ十日迄ニ本廳ヘ報告スルコト
三、國民學校令ト青年學校令ハ必ず別紙トスルコト
四、市ニ於テハ直接本廳ヘ提出スルコト

三三三二

別記様式第三號

郡 名	町 村 名	學校 組合 名	交付金額	備 考

備考
一、交付金額ハ各町村ヨリ報告ノ國庫補助精算報告書ニ依リ次期見込額ヲ計上スルコト
二、國民學校令ト青年學校令ハ各々別紙トスルコト
三、學校組合ノ管理村名ヲ備考欄ニ記入スルコト

○國民學校及青年學校ノ職員ニ對スル臨時手當支給ニ關スル件

今般勅令第五百二十號ヲ以テ國民學校及青年學校ノ職員
第六編 職 員

ニ對シ臨時手當ヲ支給スルコトト相成候處右ハ職員ノ待遇改善ヲ時局下喫緊ノ急務ト認メ其ノ應急對策トシテ措置セラレタル儀ニ付御了知ノ上別紙支給要項ニ依リ貴市町村ヨリ支給相成度此段依命及通牒候
追而本件實施ニ付テハ左記事項御了知相成度

記
一、本要項ニ依ル臨時手當ハ臨時家族手當等ノ外ニ別途支給スルモノナルヲ以テ臨時家族手當等ハ本要項ニ依ル臨時手當ノ支給ニ依リ之ヲ減額又ハ停止セザルコト
二、補助金交付上必要ニ付別紙様式ニ依リ調査每期補助金ヲ交付スベキ月ノ五日迄ニ遲滞ナク提出ノコト

國民學校職員及青年學校教員ノ臨時手當支給要項
一、官吏ノ待遇ヲ受クル國民學校職員及市町村立青年學校教員ニハ本要項ニ依リ昭和十六年勅令第五百二十號ニ依ル臨時手當ヲ支給スルコト但シ左ニ掲グル者ヲ除クコト
(一) 實收月額百五十圓ヲ超ユル者

三三三三

國民學校及青年學校ノ職員ニ對スル臨時手當支給ニ關スル件

三三四

- (一) 現役又ハ休職中ノ者
 - (二) 國民徵用令ニ依リ徵用中ノ者
 - (三) 奏任官ノ待遇ヲ受クル市町村立青年學校教員
 - (四) 他ヨリ兼務ノ者
 - (五) 國民學校ノ准訓導並ニ助教及市町村立青年學校ノ囑託員(非常勤務ニ服シ且他ニ本務ヲ有セザル者ニ限ル)
- ニ對シテハ前項ノ教職員ニ準ジ臨時手當ヲ支給スルコト
- 二、臨時手當支給額ハ一人月額十圓トスルコト
 - 三、第一號第一項ノ(一)ニ該當スル者ト雖モ其ノ實收月額百六十圓ニ滿タザル者ニ付テハ本要項ニ依ル臨時手當ヲ支給スルコト但シ其ノ金額ハ實收月額ト合シ百六十圓ヲ超ユルコトヲ得ザルコト
 - 四、國民學校職員ニシテ青年學校教員ヲ兼務シ若ハ青年學校教員ニシテ國民學校職員ヲ兼務スル者又ハ其ノ兩者ノ身分ヲ併有スル者ノ臨時手當ハ本務ノ學校又ハ主タル勤務ノ學校ノ職員トシテ之ヲ支給スルコト
 - 五、國民學校又ハ市町村立青年學校ノ教職員ニシテ其ノ他ノ職員ノ身分ヲ併有スル者ニ付テハ國民學校又ハ青

- 年學校ニ於テ支給スル俸給又ハ手當ノ額ガ多額ナル場合ニ限リ臨時手當ヲ支給スルコト
- 六、陸海軍ニ召集セラレタル教職員ニシテ臨時手當ヲ受クベキ者ニ對シテハ奉職學校ノ屬スル市町村ニ於テ之ヲ支給スルコト
- 七、教職員月ノ中途ニ於テ臨時手當ノ支給ヲ受ケズシテ轉動シタルトキハ轉動先ノ市町村ニ於テ之ヲ支給スルコト
- 八、本要項ニ謂フ實收月額ハ俸給又ハ手當月額(二以上ノ俸給又ハ手當ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ合算額)ト左ニ掲グル給與ノ月額トノ合算額ナルコト但シ圓位未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツルコト
- (一) 年功加俸
- (二) 特別加俸
- (三) 普通恩給
- (四) 普通恩給ニ相當スル退職料
- (五) 其ノ他毎月又ハ定期ニ定額若ハ定率ヲ以テ給與スルモノ(實費辨償ノ性質ヲ有スル給與及臨時家族手當ヲ除ク)

九、公立學校職員俸給令第十條ノ適用ヲ受クル者又ハ私事故障若ハ病氣缺勤等ニ依リ俸給又ハ私事故障若ハ病氣缺勤等ニ依リ俸給又ハ手當ノ減額支給ヲ受クル者ノ實收月額ハ當該教職員ノ俸給又ハ手當額(辭令面ノ額)ヲ基準トシテ計算スルコト

十、臨時手當ノ支給ヲ受クル者退職若ハ死亡シタルトキ第一號第一項但書ニ當該スルニ至リタルトキ又ハ第三號ニ該當セザルニ至リタルトキト雖モ其ノ月分ニ付テハ其ノ全額ヲ支給スルコト

十一、本要項ニ依ル臨時手當ハ毎月其ノ月ノ一日現在ノ人員ニ付俸給又ハ手當支給ノ例ニ依リ之ヲ支給スルコト

十二、本要項ニ依ル臨時手當ハ昭和十六年四月分ヨリ之ヲ支給スルコト

十三、前各號ニ依ル臨時手當ノ爲市町村ニ於テ要スル費用ニ對シテハ全額國庫ヨリ補助セラル

十四、前號ノ補助金ハ之ヲ四期ニ分チ各三月分ヲ五月、八月、十一月、二月交付スル見込

第一號様式

昭和 年度國民學校職員臨時手當支給狀況及國庫補助金過不足額調

市町村名

期別	月別	精算又ハ見込別	國民		學校	
			支給人員	支給金額	國庫補助金交付額	補助金過不足額(補助金不足額)
第一	四月					
	五月					

第六編 職員

三三五

期		期 三 第			期 二 第			期	
六	第一	七	八	九	第十	第十	第十	第一	六
月	期計	月	月	月	月	月	月	期計	月

期	三	月
自第一期計		
至第四期計		

調査上ノ注意

- 一、本表ノ支給人員及支給金額ハ別紙「國民學校職員及青年學校教員ノ臨時手當支給要項」ニ依ル支給人員及支給金額ヲ計上スルコト
- 二、本表ハ既ニ経過シタル月ニ付テハ精算ヲ、未ダ経過セザル月ニ付テハ見込ヲ計上シ左ノ期日迄ニ報告スルコト

第一期分	第二期分	第三期分	第四期分
四月三十日	七月三十一日	十月三十一日	一月三十一日
町村ヨリ 地方事務所へ	市及地方事務所 ヨリ本館へ		

三、第一號様式ト第二號様式ハ必ず各別紙トナスコト

第二號様式

昭和 年度市町村立青年學校教員臨時手當支給狀況及國庫補助金過不足額調

期別	月別	精算又ハ見込別	支給人員	支給金額	國庫補助金交付額	補助金過不足額 (補助金不足)
			市 町 村 立 青年學校			

第六編職 員

第 一 期			第 二 期			第 三 期					
四 月	五 月	六 月	第 一 期 計	七 月	八 月	九 月	第 二 期 計	十 月	十 一 月	十 二 月	自 第 一 期 至 第 三 期 計

第 四 期			
一 月	二 月	三 月	自 第 一 期 至 第 二 期 計

調査上ノ注意
第一號様式調査上ノ注意ト同ジ

金三圓

○訓導、養護訓導、准訓導、保姆檢定手
數料並ニ免許狀ノ書換又ハ再渡手數
料ニ關スル規程

縣令第三九號(昭和一六、四)

第一條 訓導、養護訓導、准訓導、保姆檢定並ニ免許狀
ノ書換又ハ再渡ヲ願出ヅル者ハ左ノ手數料ヲ納入スベ
シ

一、准訓導、檢定手數料
一、訓導、養護訓導、准訓導、保姆ノ免許狀書換又ハ
再渡手數料
一回ニ付
第二條 本令ニ依リ納入スベキ手數料ハ岡山縣稅外收入
證紙ヲ用ヒ之ヲ願書ニ貼付スベシ證紙ヲ以テ納入スル
コト能ハザルトキハ岡山縣收入證紙規則第二條但書ニ
依ルベシ
既納ノ手數料ハ之ヲ還付セズ
第三條 知事ニ於テ特別ノ事情アリト認ムル者ニ就テハ
檢定手數料ハ之ヲ免除スルコトヲ得

金一圓

第六編 職

金四圓

三三九

岡山縣國民學校檢定用參考圖書

附則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本令ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

三四〇

(參考)

岡山縣收入證紙規則第二條但書
「但シ證紙ヲ以テ納入スルコト能ハザルトキハ別ニ發
スル納額告知書ヲ以テ納入スルコトヲ得」

○岡山縣國民學校檢定用參考圖書

縣告示第一〇一〇號(昭和一六、九、一六)

岡山縣國民學校教員檢定用參考圖書左ノ通定ム

岡山縣國民學校教員並幼稚園保母檢定試驗參考用圖書

(昭和十六年八月改正)

出願資格	科目	身修	編著者	發行所
國民學校訓導	國民學校初等	師範學校修身書 一—五 禮法要項 一—五 現行國民學校修身書 (兒童用書教師用書) 全編纂趣意書	國民學校初等	教育部
國民學校初等	國民學校初等	初等科 全 訓導用 全 ニ準ズ 全 ル外國 全	國民學校初等	教育部
國民學校初等	國民學校初等	初等科 全 訓導用 全 ニ準ズ 全 ル外國 全	國民學校初等	教育部
國民學校初等	國民學校初等	初等科 全 訓導用 全 ニ準ズ 全 ル外國 全	國民學校初等	教育部
國民學校初等	國民學校初等	初等科 全 訓導用 全 ニ準ズ 全 ル外國 全	國民學校初等	教育部
國民學校初等	國民學校初等	初等科 全 訓導用 全 ニ準ズ 全 ル外國 全	國民學校初等	教育部
國民學校初等	國民學校初等	初等科 全 訓導用 全 ニ準ズ 全 ル外國 全	國民學校初等	教育部
國民學校初等	國民學校初等	初等科 全 訓導用 全 ニ準ズ 全 ル外國 全	國民學校初等	教育部
國民學校初等	國民學校初等	初等科 全 訓導用 全 ニ準ズ 全 ル外國 全	國民學校初等	教育部
國民學校初等	國民學校初等	初等科 全 訓導用 全 ニ準ズ 全 ル外國 全	國民學校初等	教育部

教育

國語及漢文	教育	編著者	發行所
師範國文 第一部用 全 師範國文法 全 師範漢文(新制版)一—五 全 現行國民學校讀本 全 現行國民學校讀本 全	日本教育新教科書 全 教育學 全 心理學 全 論理學 全 近世教育史 全 國民學校令 全 細則 全	吉田彌平 全 石井庄司 全 高木武開 全 簡野道明 全 文部省 全 前 全 前 全 前 全	風館 全 風館 全 成館 全 明治書院 全 省 全 前 全 前 全
現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全	民學校 全 高等科 全 用教科 全 書ヲ加 全 フ 全	乙竹岩造 全 竹岩造培 全 前 全 前 全 前 全	風館 全 風館 全 成館 全 明治書院 全 省 全 前 全 前 全
現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全	民學校 全 高等科 全 用教科 全 書ヲ加 全 フ 全	乙竹岩造 全 竹岩造培 全 前 全 前 全 前 全	風館 全 風館 全 成館 全 明治書院 全 省 全 前 全 前 全
現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全	民學校 全 高等科 全 用教科 全 書ヲ加 全 フ 全	乙竹岩造 全 竹岩造培 全 前 全 前 全 前 全	風館 全 風館 全 成館 全 明治書院 全 省 全 前 全 前 全
現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全 現行國民學校初等 全	民學校 全 高等科 全 用教科 全 書ヲ加 全 フ 全	乙竹岩造 全 竹岩造培 全 前 全 前 全 前 全	風館 全 風館 全 成館 全 明治書院 全 省 全 前 全 前 全

第六編職

員

三四一

裁縫	家事	農	業	商
精製衣服新教本 和服篇 國民學校裁縫教授書全 前後	昭和家事教科書 三訂版 上、下 現行國民學校家事教科 書(兒童用教師用) 高、二、三			
全上(和服篇全) 裁縫教授法	全上 日用化學講義 日用物理學講義	全訂師範教育 農業原論一—五 普通教育農學實 驗法	岡山縣農業教科 書 上、下	中等商業教科書 改訂版
岡本すみ開成館	三省堂編輯 三省堂 木下竹次目黒書店	横井時敬 興文社 佐々木祐太郎 大塚孫一成 美堂	岡山縣教育 六盟館	井上龜三帝國書院

業	工	語	英	業
商業簿記大意 國民學校商業教 科書 上、下	改訂新手工教科書 標準工業大意	ザタイヘイヨウ リーダーズ— 五 スターライングリッ シユグラマー		小富山敬保 富山房 濱谷源藏
				文部省
				石川林四郎 興文社
				豊谷 榮開 成館
				岡山秀吉 培風館 阿部七五吉 伊藤修一郎
				日本工業教 全 育研究部

備考 ○印ハ男子ノミ △印ハ女子ノミトス

○外國及外地派遣教育教職員取扱ニ
關スル件

學第四五二號(昭和一六、二、一三)

第六編 職員

市師範學校校長
中等學校校長
青年學校校長(市内ヲ除ク)
小學校校長(全上)

宛

東亞共榮圈ノ確立ハ窮極ニ於テ東亞ニ眞ノ日本精神ヲ扶
植スルニアリ之ガ爲ニハ全國ニ亘リ努メテ優良ナル教育

三四七

外國及外地派遣教育教職員取扱要綱

職員ヲ簡拔シテ現地ニ派遣スルノ要益々緊切ナリト雖モ目下ノ教育職員拂底ノ情況ニ徴シ幾多ノ困難ヲ伴フトコロナリ而モ内外ノ情勢ハ一日モ之ヲ苟且ニ附スルヲ許ササルヲ以テ文部省ニ於テハ左記ノ通り本件ニ關スル取扱要綱ヲ定メ一面ニ於テ滿洲國、中華民國及外南洋ニ對シテハ其ノ特殊性ニ鑑ミ交流ノ制ヲ確立シテ派遣教育職員ヲシテ道府縣ノ選良タルノ自覺ノ下ニ現地ニ於テ教育率公ノ一途ニ精進セシメ一定期間ノ後ハ歸還復職セシメテ更ニ新銳ヲ派遣スルコトトシ他面最近教育職員ノ養成並ニ補充困難ナルノ實情ニ鑑ミ昭和十六年度以降外國及外地ニ派遣スル教育職員ハ各年度各關係官廳ノ要求ニ基キ本省ニ於テ内地ノ實情ニ即應シテ決定スル事トナレリ各位ハ本制度ノ趣旨ニ省ミ取扱ノ適正ヲ期セラレタク文部省ヨリノ通牒ノ次第モ有之依命此段及通牒候

記

外國及外地派遣教育教職員取扱要綱

一、本要綱ハ滿洲國（滿洲國政府所管及在滿教育務部所管ヲ含ム以下同ジ）中華民國（興亞院所管及外務省所管

三四八

ヲ含ム以下同ジ）、朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋ニ派遣スル教育職員ニ付之ヲ適用スルコト但シ交流ニ關スル事項ハ當分ノ間滿洲國、中華民國及外南洋（佛領印度支那、蘭領東印度、泰、比律賓及英領馬來ヲ謂フ以下同ジ）ニ派遣スル者ニ限り之ヲ適用スルコト
二、外國及外地ニ對スル教育職員ノ派遣並ニ交流ニ關シテハ文部省ニ於テ外務省、拓務省、興亞院、對滿事務局其ノ他關係中央官廳ト協議ノ上方針ヲ決定シ道府縣ノ協力ニ依リ之ヲ實施スルコト
三、各年度ニ於テ外國及外地ニ派遣スベキ教育職員ハ文部省ヨリ各道府縣ニ對シテ之ヲ配當シ各道府縣ハ之ニ基キ派遣教育職員ヲ銓衡ノ上一月中（滿洲國及中華民國ニ在リテハ一月中及七月中）ニ文部大臣宛推薦スルコト但シ一月以降ニ於テ特別ノ必要アルトキハ其ノ都度配當スルコトアルベキコト
前項ノ規定ニ拘ラズ特別ノ事由アルトキハ文部省ニ於テ銓衡スルコトアルベキコト
四、滿洲國、中華民國及外南洋ニ派遣スル教育職員ニ付テハ交流スルヲ原則トスルコト

前項ノ交流ハ教育職員相當期間勤務シタルトキ之ヲ行ヒ原則トシテ曩ニ派遣セラレタル道府縣ニ歸還復職セシメ且當該道府縣ヨリ其後任者ヲ派遣スルノ方法ニ依ルコト

現地ノ情況其ノ他特殊ノ事情ニ因リ交流ニ依ラズシテ歸還復職セシムルノ必要アリト認ムルトキハ文部省ノ通知ニ基キ當該道府縣ニ於テ優先的ニ之ヲ採用スルコト

五、派遣教育職員ノ交流及復職ノ場合ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外歸還前勤務セル學校ニ相當スル程度ノ學校ニ採用スルコト

現地ニ於テ學校以外ノ教育機關ニ勤務セシ者又ハ内地ニ於テ學校以外ノ教育機關ニ採用スル者ノ取扱ハ前項ノ趣旨ニ依ルコト

前二項ノ場合ニ於テ内地ノ事情ト當該教育職員ノ現地ニ於ケル地位待遇ヲ考慮シテ其ノ地位、俸給其ノ他ノ給與ヲ決定スルコト

六、滿洲國政府所管及興亞院所管ニ付テハ派遣教育職員ハ退職ノ上赴任スルモノトスルコト

第六編 職

員

七、本要綱ニ依ルニ非ザレバ外國及外地ノ教育職員派遣ニ關スル要求ハ之ヲ受理セザルコト

八、派遣教育職員ノ交流ヲ適正圓滑ナラシメ且之ガ恒久性ヲ確保スル爲各道府縣ニ於テ夫々交流ニ關スル規程ヲ設ケ且交流教育職員名簿ヲ作成スルコト

九、各道府縣ハ派遣教育職員ノ銓衡ノ爲知事ヲ會長トスル委員會ヲ設置スルコト
委員會ニ於テ銓衡スベキ教育職員トハ學校官公衛等ニ勤務スル者
新ニ師範學校ヲ卒業スル者及其ノ他ノ者ニシテ相當教員免許狀ヲ有スル者トスルコト

備考

(一) 交流ニ關スル一定期間ハ概ネ三年乃至五年ナリ
(二) 應募ノ際提出スベキ書類

1 履歷書四通 各通寫眞添附
○書式 小學校令施行規則實施細則中ノ様式第五號ノ(二)

○青年學校、中等學校ニ在勤ノ教職員ニアリテハ業務欄ニ現在擔任セル教科目名ヲ記入スルモノ

三四九

トス

2 身體検査書 一通

○校醫ニヨル身體検査書

○様式

身體検査書

現住所

氏

生年月日名

一、身體
二、胸
三、榮
四、眼

長重國養

裸眼視力
矯正視力

左左

右右

一、眼
二、耳
三、色
四、神
五、力
六、疾

聽力
耳疾

一、皮膚
二、呼吸器
三、神經系
四、言語

一、畸形及運動障礙
二、其ノ他ノ疾病異常

右ノ通検査候也

年 月 日 検査

現住所

検査醫 氏

名 〇

- 3 身上調査(用紙ハ神祇教學課へ請求スルコト)
- 4 學校長ハ推薦書ニ本人ノ勤務狀況、家族ノ狀況及將來ニ於ケル本人ノ希望、現地ニ於ケル任地(第一、二、三志望)希望其ノ他參考トナルベキ事項ヲ略記スルコト

第七編 恩給

○恩給法

法律第四八號(大正二、四、一四)

改正 昭和八第五〇號、同一三第五六號、同一四第二八號、同一五第二一號、同一六第一二號、第一三號

第一章 總則

第一條 公務員及之ニ準スベキ者並其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、傷病年金、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、增加恩給、傷病年金及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス

第三條 年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スベキ事由ノ生ジタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條 恩給年額並一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未
第七編 恩給

滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スベキ事由ノ生ジタル日ヨリ七年間請求セザルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六條 普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年内ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年内ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第六條ノ二 第七十四條ノ二第一項ノ扶助料及同條第二項ノ一時扶助料ニ付テハ第五條ニ規定スル期間ハ戶籍届出ノ受理ノ日ヨリ進行ス

第七條 時効期間滿了前二十日以内ニ於テ天災其ノ他避クベカラザル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日以内ハ時効完成セズ

時効期間滿了前六月内ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セザ

ル爲請求ヲ爲スコト能ハザルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月内ハ時効完成セズ時効期間満了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時効期間内ニ權限アル官公署ニ到達セザルモ之ヲ時効期間内ニ到達シタルモノト看做ス

第八條 公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ベキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルベキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スベキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ベキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セラルベキ場合ニ於テ宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セズ
第九條 年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス
一、死亡シタルトキ

二、死刑又ハ無期若ハ二年ヲ超ユル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三、國籍ヲ失ヒタルトキ
在職中ノ職務ニ關スル犯罪(過失犯ヲ除ク)ニ因リ禁錮以上ノ刑(陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依ル一年未滿ノ禁錮ノ刑ヲ含マズ)ニ處セラレタルトキハ其ノ權利消滅ス但シ其ノ在職中普通恩給ヲ受ケタル後ニ爲サレタルモノナルトキハ其ノ再在職ニ因リテ生ジタル權利ノミ消滅ス

第九條ノ二 裁定官廳ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ニ付其ノ權利ノ存否ヲ調査スベシ

第十條 恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケザリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準ズベキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス
第十一條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ズ但シ特別法ノ定ムル所ニ依リ恩給金庫ニ擔保ニ供スルハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ裁定官廳ハ支給應ニ通知シ恩給ノ支給ヲ差止ムベシ

恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ズ但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外内閣恩給局長ノ裁定ス

第十三條 行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年内ニ内閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ内閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ公務傷病ノ程度ニ付テハ出訴ヲ爲スコトヲ得ズ

第十四條 内閣總理大臣及内閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス

第十五條 内閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審査會ニ諮問スベシ

恩給審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル
一、文官及準文官並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケザル者及其ノ遺族ノ恩給ハ勅令ヲ以テ定ムル者之ヲ負擔ス
二、軍人及準軍人並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス
三、朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ國民學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及國民學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準ズベキ地方經濟之ヲ負擔ス
四、前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員及樺太ニ於ケル教育職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ府縣又ハ之ニ準ズベキ地方經濟之ヲ負擔ス
五、警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

恩給法

六、待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條 前條第一號、第二號若ハ第四號ニ掲グル公務員若ハ之ニ準ズベキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲グル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケルモノノ在職年中ニ第三號ニ掲グル公務員若ハ之ニ準ズベキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲グル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケザルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルベキ在職年ニ應ジ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ第三號ニ掲グル公務員若ハ之ニ準ズベキ者ニ恩給ヲ給スル者又ハ第五號若ハ第六號ニ掲グル公務員ニ俸給ヲ給スル者ニ對シ請求スルコトヲ得

給ヲ受ケルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルベキ在職年ニ應ジ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ掲グル公務員若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スベキ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準ズベキ經濟ノ管轄内ニ於テ在職シタル第三號ニ掲グル公務員又ハ之ニ準ズベキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準ズベキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應ジ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セザル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スベシ但シ神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員タル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スベシ但シ神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員タル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 公務員

第一節 通則

第十九條 本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員並第二十四條ニ掲グル待遇職員ヲ謂フ

第七編 恩給

準教育職員ヲ謂フ

第二十條 文官トハ武官又宮内官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セザル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 軍人トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ 一、陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役又ハ補充兵役ニ在ル者

第二十二條 教育職員トハ公立ノ學校、幼稚園若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セザル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受ケルモノヲ謂フ

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校又ハ幼稚園ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二十三條 警察監獄職員トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ

一、警部補、巡查、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛及衆議院守衛

二、副看守長、看守、教導陸軍監獄看守及海軍監獄看守

三、消防士補、消防機關士補及判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條 待遇職員トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ

一、判任官以上ノ待遇ヲ受クル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職

二、判任官以上ノ待遇ヲ受クル監獄ノ職員（前條第二號ニ掲グル者ヲ除ク）少年教護院職員及矯正院職員

三、地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

四、前三號ニ掲グル者ヲ除クノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

五、在滿學校組合待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受クル者

第二十五條 本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一、文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職

二、現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト

三、教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命

四、警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ左ノ場合ニ於テハ之ヲ轉任ト看做ス

(イ) 判任官ノ待遇ヲ受クル巡查又ハ消防手、警部補、消防士補、消防機關士補又ハ判任官タル巡查若ハ消防手ニ任ジタルトキ

(ロ) 警部補、消防士補、消防機關士補又ハ判任官タル巡查、若ハ消防手、判任官ノ待遇ヲ受クル巡查又ハ消防手ニ就職スルトキ

(ハ) 判任官ノ待遇ヲ受クル看守又ハ教導副看守長又ハ判任官タル看守若ハ教導ニ任ジタルトキ

(ニ) 副看守長又ハ判任官タル看守若ハ教導、判任官ノ待遇ヲ受クル看守又ハ教導ニ就職スルトキ

(ホ) 其ノ他勅令ヲ以テ定ムル場合

第二十六條 本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一、文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職

二、現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職但シ下士官准士官以上ノ軍人ト爲リタルトキハ普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ノ計算ニ關シテハ之ヲ退職ト看做ス

第七編 恩 給

三、教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職

四、警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ左ノ場合ニ於テハ之ヲ退職ト看做ス

(イ) 警部補、消防士補、消防機關士補、副看守長又ハ判任官タル巡查、消防手、看守若ハ教導他ノ官ニ轉ジタルトキ

(ロ) 他ノ官ヨリ警部補、消防士補、消防機關士補副看守長又ハ判任官タル巡查、消防手、看守若ハ教導ニ轉ジタルトキ

(ハ) 其ノ他勅令ヲ以テ定ムル場合

五、待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條 第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

準軍人ノ就職トハ職務、戒嚴地域内ノ勤務又ハ外國ノ

鎮戍ニ服スルコトヲ謂ヒ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ

第二十八條 公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給又ハ第八十二條ニ規定スル一時扶助料ノ基礎ト爲ルベキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年其ノ他ノ前在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セズ

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十八條ノ二 防衛召集ニ依リ部隊ニ編入セラレタル軍人ノ在職年ノ計算ニ關シテハ本法中ノ在職年ノ計算ニ關スル規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 公務員ニ以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條 軍人又ハ警察監獄職員ノ恩給權ニ付其ノ在職

年ヲ計算スル場合ニ於テハ准士官以上ノ軍人ニ付テハ十三年ニ達スル迄下士官以下ノ軍人及警察監獄職員ニ付テハ十二年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ十分ノ七ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十一條 削除

第三十二條 戰爭又ハ戰爭ニ準ズベキ事變ニ際シ公務員其ノ職務ヲ以テ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニツキ三月以内ヲ加算ス

戰爭又ハ戰爭ニ準ズベキ事變加算ノ程度加算ノ認メラルベキ期間及地域並職務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 公務員外國ノ交戦又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危険ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在職期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戦又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 公務員戒嚴地境内ニ於テ危険ヲ顧ミズ其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三分ノ一月ヲ加算ス一年以上引續キ編隊艦船ニ乗ジテ上陸制限ノ下ニ準戰訓練ニ服シタルトキ亦同ジ

前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スベキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スベキ基礎在職年ハ加算事由ノ生ジタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ヨタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルベキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十條ノ二 休職、待命、歸休、停職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セザル在職期間ニシテ一月以上ニ亘ルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減ス

第四十一條 左ニ掲グル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス一、普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所ガ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條 公務員外國鎮戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半以内ヲ加算ス

第三十六條 航空機乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

第三十七條 潜水艦乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潜水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十七條ノ二 戰車乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ戰車ニ搭乘シ戰車勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付半月以内ヲ加算ス

第三十八條 公務員其ノ職務ヲ以テ邊陲又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ六月以上服務シタルトキ亦同ジ

場合ニ於テ其ノ恩給額ノ基礎ト爲リタル在職年
 二、第五十一條ノ規定ニ依リ公務員ガ恩給ヲ受クルノ
 資格ヲ失ヒタル在職年
 三、在職中二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタ
 ル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行
 ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ
 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ
 在ラズ其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ
 刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタ
 ル月迄ノ在職年月數
 四、公務員退職後在職中ノ職務ニ關スル犯罪、過失犯
 ヲ除クニ付陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役
 刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ
 法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ
 犯罪ノ時ヲ含ム引續キタル在職年月數
 五、公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ
 復シタル月迄ノ在職年月數
 六、宮内職員トシテノ在職年月數ニシテ宮内官ノ恩給
 規程ニ依リ除算セラレベキモノ

第四十二條 左ニ掲グル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス
 一、宮内官ノ恩給規程ニ依リ宮内官恩給額ノ基礎ト爲
 ルベキ宮内職員トシテノ在職年月數
 二、準軍人ノ在職年月數
 三、高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲
 リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤
 續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數
 四、準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育
 職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分
 ノ一ニ相當スル年月數
 第二十八條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ前項ノ規
 定ニ依リ在職年ニ通算セラレベキ年月數ノ計算ニ付之
 ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ準軍人又ハ皇宮警手トシテ
 ノ在職年ハ夫々之ヲ軍人又ハ警察監獄職員トシテノ在
 職年ト看做ス
 第四十三條 第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ
 在職年ノ計算ニ付之ヲ準用ス
 第四十條ノ二及第四十一條ノ規定ハ前條第一項ノ規定
 ニ依リ在職年ニ通算セラレベキ年月ニ付之ヲ準用ス

第四十四條 本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準ズベキモ
 ノヲ謂フ

本俸ニ準ズベキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 公務員ニ以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラ
 ルル場合ニ於テハ給俸額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ
 者ノ俸給額トス

第四十五條 公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ
 之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條 公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ
 不具癡疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之
 ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナ
 クシテ退職シタル後五年内ニ之ガ爲不具癡疾ト爲リ又
 ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シ
 タルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受
 クル增加恩給ヲ不具癡疾ノ程度ニ相應スル増加恩給ニ
 改定ス
 前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖裁定官廳ニ於テ恩給
 審査會ノ議ニ付スルヲ相當ト認メ且恩給審査會ニ於テ

不具癡疾ガ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタ
 ルトキハ議決シタル月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ恩給ヲ給
 シ又ハ之ヲ改定ス
 公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ト
 爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ
 規定スル恩給ヲ給セズ

第四十六條ノ二 公務員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ
 受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ノ程度ニ至ラザルモ勅令
 ノ定ムル程度ニ達シ失格原因ナクシテ之ガ爲其ノ職ニ
 堪ヘズシテ一年内ニ退職シタルトキハ之ニ傷病年金ヲ
 給ス

公務員ガ下士官以下ノ軍人ナル場合ニ於テ公務ノ爲永
 續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ノ程
 度ニ至ラザルモ勅令ノ定ムル程度ニ達シ退職シタルト
 キ亦同ジ
 前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ニ規定スル條件(傷
 病ノ程度ヲ除ク)ヲ具備スル者ニシテ退職當時ノ傷病
 ノ程度ガ前項ノ勅令ニ定ムル程度ニ達セザリシモノノ
 傷病年金ニ付之ヲ準用ス

前條第四項ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ給スベキ傷病年金ニ付之ヲ準用ス
傷病年金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ゲズ

第四十七條 前二條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官、海軍ノ候補生見習尉官以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生若ハ見習尉官ニシテ公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當ルストキハ公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

- 一、勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在動中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ
- 二、勅令ヲ以テ指定スル地域ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ
- 三、公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スベキモノト議決セラレ

タルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
前二項ノ規定ハ公務員ニ準ズベキ者ニ付之ヲ準用ス
第四十九條 公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰闘又ハ戰闘ニ準ズベキ公務ト普通公務トス

戰闘ニ準ズベキ公務ノ範圍、公務傷病ニ因ル不具癱疾ノ程度及傷病年金ヲ給スベキ傷病ノ程度並教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癱疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルベキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス
前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷病回復セザル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スベキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス
前二項ノ規定ハ傷病年金ノ裁定ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

第五十一條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

- 一、懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ
- 二、在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條 第二號但書及第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セズ
第五十二條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非ザレバ之ニ恩給ヲ給セズ

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルモノニ付テハ後ノ公同員ヲ退職スルニ非ザレバ之ニ恩給ヲ給セズ
公務員ニシテ恩給ヲ給セザル官職ニ轉ジ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス
第五十三條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ在職スルモノ

ニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セズ
第五十四條 普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

- 一、再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ
- 二、再就職後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癱疾ト爲リ退職シタルトキ
- 三、再就職後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之ガ爲不具癱疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス
第五十五條 前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷病又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具癱疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム
前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷病又ハ疾病ガ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一、後ノ傷病又ハ疾病ガ職中又ハ職中ニ準ズベキ公務ニ起因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癡疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額ヨリ前ノ増加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具癡疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ増加恩給年額トス但シ後ノ傷病又ハ疾病ノミニ因ル増加恩給年額ガ前後ノ傷病又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル増加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サズ

二、後ノ傷病又ハ疾病ガ普通公務ニ起因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癡疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額ニ前ノ増加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具癡疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ増加恩給年額トス

第五十五條ノ二 前二條中増加恩給ノ改定ニ關スル規定ハ傷病年金ヲ受クル者再就職後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シ増加恩給又ハ傷病年金ヲ受クベキ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十六條 前三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少從キトキハ前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條 前四條ノ規定ハ宮内官ノ恩給規定ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

一、公務員又ハ第四十二條第一號ニ規定スル宮内職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二、二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セズ其ノ言渡ヲ取

消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

三、之ヲ受クル者三十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ四分ノ一、三十歳以上三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ増加恩給又ハ傷病年金ト併給セラルル場合ニハ之ヲ停止セズ

三、之ヲ受クル者三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ増加恩給又ハ傷病年金ト併給セラルル場合ニハ之ヲ停止セズ (改正前)

四、恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額四千圓ヲ超ユルトキハ

(イ) 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ガ六千圓以下ナルトキハ五千圓ヲ超ユル金額ノ一割五分ノ金額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支

給額八千圓ヲ下ラシムルコトナシ

(ロ) 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ガ六千圓ヲ超エ八千圓以下ナルトキハ五千圓ヲ超エ六千圓以下ノ金額ノ一割五分ノ金額ト六千圓ヲ超ユル金額ノ二割ノ金額トノ合計額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額八千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ

(ハ) 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ガ八千圓ヲ超エ一萬一千圓以下ナルトキハ五千圓ヲ超エ六千圓以下ノ金額ノ一割五分ノ金額ト六千圓ヲ超エ八千圓以下ノ金額ノ二割ノ金額ト八千圓ヲ超ユル金額ノ二割五分ノ金額トノ合計額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額八千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割五分ヲ超ユルコトナシ

(ニ) 恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ガ一萬一千圓ヲ超ユルトキハ五千圓ヲ超エ六千圓以下ノ金額ノ一割五分ノ金額ト六千圓ヲ超エ八千圓

恩給法

以下ノ金額ノ二割ノ金額ト八千圓ヲ超エ一萬一千圓以下ノ金額ノ二割五分ノ金額ト一萬一千圓ヲ超ユル金額ノ三割ノ金額トノ合計額ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額ハ年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ三割ヲ超ユルコトナシ

前項第四號ノ所得ノ範圍及計算方法並停止方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第一項第二號ノ規定ハ増加恩給及傷病年金ニ付之ヲ準用ス

第五十九條 文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スベシ

但シ文官ニシテ府縣又ハ之ニ準ズベキ地方經濟ヨリ俸給ヲ受クルモノハ當該府縣又ハ之ニ準ズベキ地方經濟ニ對シ納付スベシ

下士官以上ノ軍人ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スベシ

教育職員ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スベシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ

給アリタル場合ニ於テハ級俸（軍人及準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ假定俸給年額ヲ以テ級俸トス以下同ジ）ノ定アル俸給ニ付二級ヲ超エ昇給シタルトキハ二級其ノ定メナキ俸給ニツキ退職又ハ死亡ノ一年前ノ俸給ノ百分ノ三十ヲ超エ昇給シタルトキハ百分ノ三十ノ昇給アリタルモノトス

二、前號ニ規定スル者以外ノ者ニ付退職又ハ死亡前一年内ニ昇給アリタル場合ニ於テハ俸給ノ定アル俸給ニ付一級、其ノ定メナキ俸給ニ付退職又ハ死亡ノ一年前ノ俸給ノ百分ノ十五ヲ超エ昇給シタルトキハ百分ノ十五ノ昇給アリタルモノトス

轉官職ニ依ル俸給ノ増額ハ之ヲ昇給ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス
前二項ニ規定スル退職當時ノ俸給年額ノ算出方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

實在職期間一年未滿ナルトキハ俸給ノ關係ニ於テハ就職前モ就職當時ノ俸給ヲ以テ在職シタルモノト看做ス本節ニ於テ退職當時ノ俸給月額トハ退職當時ノ俸給年額ノ十二分ノ一ニ相當スル金額ヲ謂フ

第七編 恩給

給

於ケル公立ノ國民學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及國民學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準ズベキ地方經濟ニ對シ其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スベシ

警察監獄職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ毎月其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スベシ

待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ毎月其ノ俸給（又ハ給料）ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ納付スベシ

前五項ニ規定スル納金ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除スルコトヲ得

第二節 恩給金額

第五十九條ノ二 本節ニ於ケル退職當時ノ俸給年額ノ計算ニ付テハ左ノ特例ニ從フ

一、公傷ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲退職シ又ハ死亡シタル者ニ付退職又ハ死亡前一年以内ニ昇

軍人及準軍人ニ付テハ別表第一號表ニ定ムル各階等ニ對スル假定俸給年額ヲ以テ各其ノ階等ニ對スル俸給年額トス

第六十條 文官在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スベキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテ在職年七年以上ナルヲ以テ足ル
第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號、第

五十五條ノ二又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スベキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スベキ普通恩給ノ額トス
第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スベキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トス

第六十一條 准士官以上ノ軍人在職年十三年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第一號ノ準軍人在職年十三年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免ゼラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年以上十四年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十三年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前條第三項ノ規定ハ准士官以上ノ軍人ニ付之ヲ準用ス
在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スベキ恩給年額ハ之ヲ在職年五十年トシテ計算ス

陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ二年以上實在職シ最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス
第四十六條、第四十七條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十三年未滿ノ者ニ給スベキ普通恩給ノ年額ハ在職年十三年ノ者ニ給スベキ普通恩給ノ額トス
準軍人ノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條ノ二 下士官以下ノ軍人在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ第二十一條第二項第二號ノ準軍人在職年十二年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免ゼラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十二年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ下士官ノ俸給年額ヲ以テ普通恩給額ヲ計算スル場合ニ在リテハ七圓兵ノ俸給年額ヲ以テ之ヲ計算スル場合ニアリテハ六圓ヲ加ヘタル金額トス
第六十條第三項並前條第五項、第七項及第八項ノ規定

ハ下士官以下ノ軍人ニ付之ヲ準用ス

第六十二條 教育職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ國民學校、青年學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校又ハ國民學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第二項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテ勤續在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スベキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スベキ普通恩給額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スベキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トス
第六十三條 警察監獄職員在職年十二年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十二年以上十三年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二相當スル金額トシ十二年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス
前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテ